

下^{しも}牧^{もく}小^こ竹^{たけ}遺跡

関越自動車道下牧パーキングエリア
拡張地域に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

下^{しも}牧^{もく}小^こ竹^{たけ}遺跡

関越自動車道下牧パーキングエリア
拡張地域に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1992

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

昭和59年に全線が開通した関越自動車道の関越トンネルは、第1期工事のトンネルを使用して上・下線が共用されていましたが、増加する交通量に対応するため、昭和61年より第2期工事が始まりました。これに伴いトンネル工事の土捨と冬期間におけるタイヤチェーン脱着場確保のため、昭和63年に下牧P・Aの拡張工事が行われることになりました。

ご承知のように下牧P・Aは小竹B遺跡として周知されていたところであり、関越自動車道の建設工事に伴い昭和57年に月夜野町遺跡調査会が発掘調査しました。当然ながら今回拡張される部分も埋蔵文化財の所在が予想されましたので、県教育委員会が試掘調査をしたところ、縄文時代の住居跡等の遺構が存在することがわかりました。

トンネル工事の絡みで緊急に文化財調査を実施することになり、当事業団が年間事業のやりくりの中で炎暑の中の昭和63年8月より9月までの2カ月間緊急発掘調査しました。その後、報告書刊行のための整理作業を進めてきましたが、今回それが完了し、ここに報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、同関越トンネル工事事務所、月夜野町教育委員会、県教育委員会文化財保護課、地元関係者から種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告が広く活用されることを願い序とします。

平成4年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小寺 弘之

例 言

1. 本書は関越自動車道関越トンネル建設工事に係わる下牧パーキングエリア拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。遺跡の地番は月夜野町下牧大字小竹に所在する。
2. 委託者 日本道路公団東京第二建設局
群馬県教育委員会
3. 発掘調査主体者 試掘調査 群馬県教育委員会文化財保護課
調査 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
4. 発掘調査担当者 試掘調査 大栗勇一
調査 桜岡正信 友廣哲也
5. 発掘調査期間 試掘調査 平成元年7月17日～7月20日
調査 平成元年8月7日～9月30日
6. 事務担当者 邊見長雄 松本浩一 田口紀雄 佐藤 勉 神保侑史 岩丸大作 住谷 進
真下高幸 国定 均 笠原秀樹 小林昌嗣 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏
船津 茂 松下 登 今井もと子 角田みづほ 並木綾子 野島のぶ江
松井美智代 塩浦ひろみ
7. 整理事業は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成3年11月～平成4年3月の5箇月で実施した。
8. 整理・編集担当者 主任調査研究員 友廣哲也
9. 整理補助員 狩野君江 狩野フミ子 篠原富子 下境マサ江 高柳哲子 南雲素子を中心として以下の方々の協力をえた。
黒澤はるみ 長沼久美子（嘱託員） 安藤三枝子 木暮紀子 武永いち
角田孝子 萩原鈴代 尾田正子 佐藤美代子 高梨房江 千代谷和子
10. 写真撮影 遺構 発掘調査担当者
遺物 佐藤元彦
11. 出土石器、石材の鑑定は飯島静男氏（群馬地質研究会）のご協力をいただいた。
12. 発掘調査にあたっては以下の方々にご指導・ご教授・ご協力をいただいた。記して感謝します。
（敬称略・あいうえお順）
子持村教育委員会 月夜野町教育委員会 飯島静男 石井克己 磯部淳一 梅澤重昭 大栗勇一
近藤 功 長谷川福次 三浦茂三郎 水田 稔 三宅敦気
13. 本書作成にあたっては下記の職員の指導を受けた。
縄文土器の実測・拓本 主任調査研究員 原 雅信
出土石器の実測・トレース // 桜岡正信
14. 本書の執筆
二宮修治 藁谷 実 網干 守 大沢真澄 「下牧小竹遺跡出土黒曜石の原産地推定」
パリノ・サーヴェイ株式会社 「下牧小竹遺跡土坑内土壌リン・カルシウム分析報告」
原 雅信 縄文土器観察表
友廣哲也 上記以外
15. 下牧小竹遺跡出土遺物及び資料は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

1. 本書中の住居跡の番号は発掘調査の順番を示しており、時代・時間を示すものではない。
2. 本書中の遺構の縮尺は住居跡が1/60、竈が1/30、土坑が1/30・1/40であり、縮尺の異なる遺構については図版中に示してある。全体図は1/200である。
3. 本書中の遺物の縮尺は土器・石器共に1/3である。遺物によっては縮尺の異なるものもあり、その場合は図版中に示してある。
4. 遺物図版中の土器番号は遺構図版中の土器番号と同一である。
5. 土器の色調は「標準土色帳」農林省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所監修によった。
6. 縄文土器の断面にあるスクリントーンは土器の胎土に繊維が入っていることを示している。
7. 本書遺物観察表中の長さ、幅、重量の単位はそれぞれcm、gで示してある。
8. 本書中石製品の器種、および石材に関する略称は以下のとおりである。

器種 打製石斧→打斧、磨製石斧→磨斧、加工痕のある剥片→加剥、使用痕のある剥片→使剥

石材 黒色頁岩→黒頁、珪質頁岩→珪頁、点紋頁岩→点頁、チャート→チ、黒曜石→黒曜、黒色安山岩→黒安、変質安山岩→変安、粗粒安山岩→粗安、細粒安山岩→細安、灰色安山岩→灰安、溶結凝灰岩→溶凝、珪質凝灰岩→珪凝、白色凝灰岩→白凝、安山岩質凝灰岩→安凝、石英閃緑岩→石閃、花崗岩→花崗、蛇紋岩→蛇、変質蛇紋岩→変蛇、流紋岩→流、ひん岩→ひん、変質玄武岩→変玄、変輝緑岩→変輝、はんれい岩→はん、変はんれい岩→変はん、緑色片岩→緑片

目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 発掘調査に至る経緯と経過	1
第1節 発掘調査の経緯と経過	1
第2節 周辺の遺跡	1
第2章 検出された遺構と遺物	4
第1節 竪穴住居跡	
2号住居跡 (第2・3・4図、P L. 1・2・19)	4
1号住居跡 (第5・6・7図、P L. 2・19・20)	6
3号住居跡 (第8・9図、P L. 2・20)	8
4号住居跡 (第10・11・12・13図、P L. 2・20・21・22)	9
5号住居跡 (第14・15・16・17図、P L. 3・22・23・24)	12
7号住居跡 (第18・19・20・21・22・23・24図、P L. 3・4・24・25・26・27)	15
8号住居跡 (第26・27・28・29・30図、P L. 4・5・6・27・28・29・30・31)	21
9号住居跡 (第31・32図、P L. 6・31・32)	27
10号住居跡 (第33・34・35・36・37・38図、P L. 6・32・33・34・35)	28
第2節 土坑 (第39図～54図、P L. 7～18・35～39)	32
中央部包含層 (第55図、P L. 39・40)	46
表採遺物 (第56図、P L. 40)	46
第3節 遺物観察表	47
第3章 科学分析	62
第1節 下牧小竹遺跡土坑内土壌リン・カルシウム分析	62
第2節 下牧小竹遺跡出土黒曜石の原産地推定	64

第1章 発掘調査に至る経緯と経過

第1節 発掘調査の経緯と調査過程

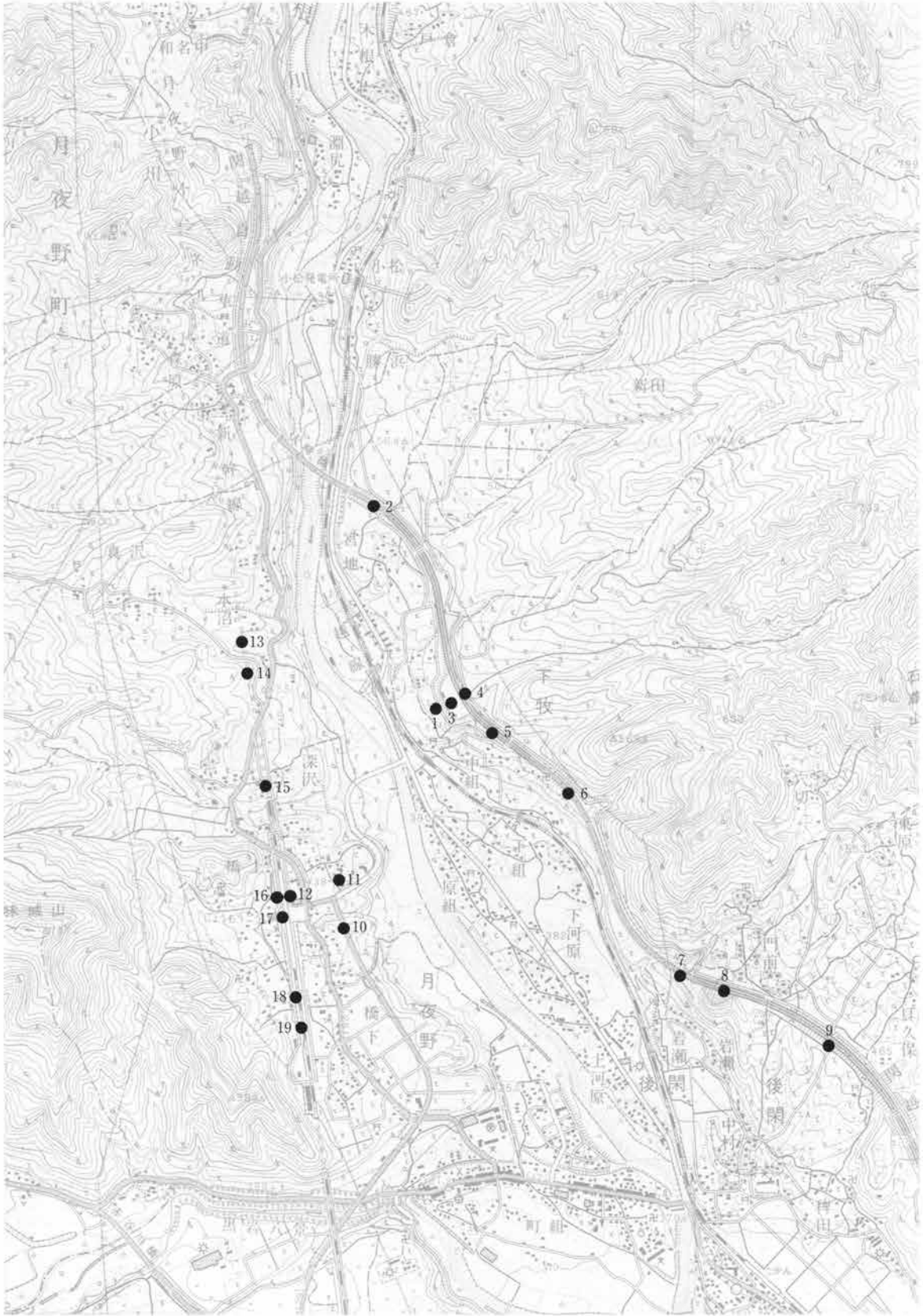
下牧小竹遺跡は平成元年関越自動車道トンネル掘削工事の残土置き場の確保に伴い下牧パーキングの拡幅工事の開始により、確認された遺跡である。関越自動車道（新潟線）本線建設の段階に既に下牧パーキング部分は小竹B遺跡として調査が行われていた。今回の拡幅部は小竹B遺跡の西に隣接するために、事前に日本道路公団より群馬県教育委員会に連絡がはいった。群馬県教育委員会は工事前の7月に同地域に6本のトレンチをいれ試掘調査を行い、下牧小竹遺跡4,500㎡を確認した。試掘調査では住居跡群と土坑群を確認した。この結果にもとづき群馬県教育委員会と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が協議をし、平成元年8月から9月までの2箇月間の本調査を開始した。本調査では住居跡、土坑は北側から番号をおとしながら調査を始め、9月の段階で旧石器の試掘を14箇所で行った。旧石器のテストピットの結果は約20cmのソフトロームの下は70cm砂とロームが混じり、その下は砂層になる。砂層をさらに20cm掘り下げると粘土層になる。旧石器の出土は見られなかった。これをもって下牧小竹遺跡の調査を終了する。

第2節 周辺の遺跡

下牧小竹遺跡は群馬県北部月夜野町に位置する。月夜野町は西北に大峰山（標高1,254m）、三峰山（標高1,122m）、南西に名胡桃山（標高862m）に囲まれている。この中央部を利根川が南流し、下牧小竹遺跡⁽¹⁾は利根川の左岸にある。利根川左岸には当遺跡の他に関越自動車道建設に伴う多くの遺跡が所在している。遺跡を列記すると、北から宮地遺跡⁽²⁾、小竹B遺跡⁽³⁾、小竹A遺跡⁽⁴⁾、大竹遺跡⁽⁵⁾、高平遺跡⁽⁶⁾、前原遺跡⁽⁷⁾、門前B遺跡⁽⁸⁾、門前A遺跡⁽⁹⁾がある。また利根川を挟んだ対岸、右岸にも遺跡が認められる。小川城址⁽¹⁰⁾、梨の木平遺跡⁽¹¹⁾、簸田東遺跡⁽¹²⁾を始め、上越新幹線建設に伴う遺跡が数多くある。列記すると前中原遺跡⁽¹³⁾、前田原遺跡⁽¹⁴⁾、深沢遺跡⁽¹⁵⁾、簸田遺跡⁽¹⁶⁾、洞I遺跡⁽¹⁷⁾、洞II遺跡⁽¹⁸⁾、洞III遺跡⁽¹⁹⁾がある。下牧小竹遺跡のある利根川左岸は隣接する、小竹A・B遺跡がある。小竹A遺跡では旧石器ユニットが2箇所を確認され、縄文時代早・前期の遺物の他近世の溝2条、畠状遺構、炭焼窯が検出されている。小竹B遺跡では縄文時代の土坑1基の他近世の掘立柱建物跡7棟、畠状遺構、暗渠が検出されている。北に位置する宮地遺跡では縄文時代住居跡2軒、土坑15基、草創期の土器の他近世の掘立柱建物跡1棟が検出されている。高平遺跡では縄文時代土坑2基、前期～中期の遺物、平安時代住居跡5軒が検出された。前原遺跡では遺構は検出されず、縄文時代土器片等数点を採集した。門前B遺跡では縄文土器と打製石斧が出土した。門前A遺跡では古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡18軒、掘立柱建物跡4棟、土坑7基、溝7条が検出された。

利根川を挟んだ右岸前中原遺跡では縄文早期炉穴4基、前期住居跡4軒、土坑22基の他、平安時代住居跡1軒が検出されている。前田原遺跡では平安時代住居跡1軒、近世掘立柱建物跡4棟が検出されている。深沢遺跡では縄文時代中期住居跡1軒、後期配石遺構50基、平安時代住居跡2軒が検出されている。梨の木平遺跡では縄文時代中期敷石住居跡1軒、弥生時代包含層、平安時代住居跡1軒が検出されている。梨の木平

第1章 発掘調査に至る経緯と経過



第1図 下牧小竹遺跡及び周辺遺跡(1:25000)

遺跡の南には明応7年(1498年)築城とされる小川城址があり、二の丸の一部を調査し、掘立柱建物跡7棟と道路配石遺構を検出した。藪田遺跡では弥生時代1軒、粘土採掘坑を伴う平安時代集落、住居跡10軒、近世掘立柱建物跡28棟が検出された。藪田東遺跡は藪田遺跡に隣接する同一の遺跡である。平安時代住居跡8軒、粘土採掘坑群、中近世掘立柱建物跡6棟が検出された。洞III遺跡では平安時代住居跡5軒、土坑6基、中近世掘立柱建物跡94棟、柱列16列、溝3条、井戸2基、土坑40基が検出された。洞II遺跡では近世鍛冶屋敷1軒、掘立柱建物跡19棟、柱列8列、溝3条、井戸5基、土坑19基が検出されている。洞I遺跡では平安時代住居跡1軒、落ち込み1基、中近世柱穴群、溝1条、井戸3基、土坑19基が検出されている。

以上のように下牧小竹遺跡の所在する月夜野町は縄文時代の遺跡が数多くある。利根川左岸では縄文時代草創期から早期にかけて大竹遺跡、小竹B遺跡、宮地遺跡がある。前期～中期にかけては当下牧小竹遺跡を含め、大竹遺跡、小竹A遺跡、小竹B遺跡、宮地遺跡、梨の木平遺跡、深沢遺跡、前中原遺跡がある。後期は深沢遺跡がある。

弥生時代・古墳時代西岸にかけての遺跡数は少なく梨の木平遺跡で弥生時代包含層、藪田遺跡では弥生時代の住居跡が検出され、門前A遺跡では古墳時代後期の住居跡が検出されている。奈良・平安時代になると、月夜野町には多くの遺跡が確認されている。住居跡の他深沢遺跡西北一帯に月夜野古窯跡群が散在している。藪田遺跡、藪田東遺跡に検出された粘土採掘坑等から須恵器生産の存在を示唆している。

戦国時代になると当地域は越後から関東への交通の要衝として沼田氏・上杉氏・北条氏・武田氏などへとめまぐるしく領有が移り、戦国時代末になると真田氏の領有となる。

註

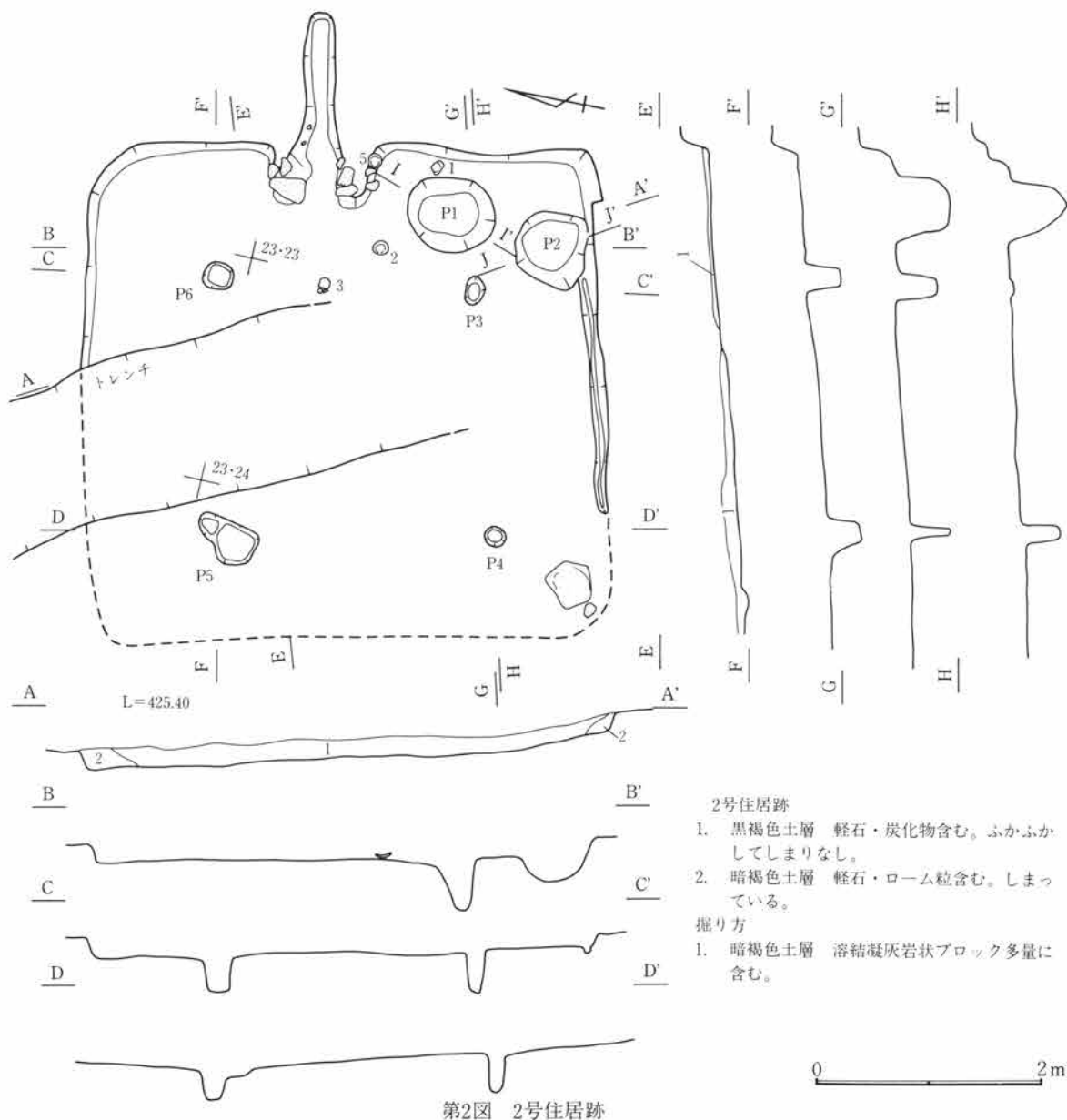
- (1) 本書
- (2) 「宮地遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (3) 「小竹B遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (4) 「小竹A遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (5) 「大竹遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (6) 「高平遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (7) 「前原遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (8) 「門前B遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (9) 「門前A遺跡」 『関越自動車道(新潟線)埋蔵文化財発掘調査報告書』 月夜野町遺跡調査会 1985
- (10) 「小川城址」 〔助群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985〕
- (11) 「梨の木平遺跡」 群馬県教育委員会 1977
- (12) 「藪田東遺跡」 〔助群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982〕
- (13) 「深沢遺跡・前田原遺跡」 〔助群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987〕
- (14) 「十二原遺跡・大原遺跡・前中原遺跡」 群馬県教育委員会 1982
- (15) 前掲(13)
- (16) 「藪田遺跡」 〔助群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985〕
- (17)(18)(19) 「洞I・II・III遺跡」 〔助群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986〕

第2章 検出された遺構と遺物

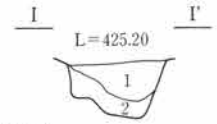
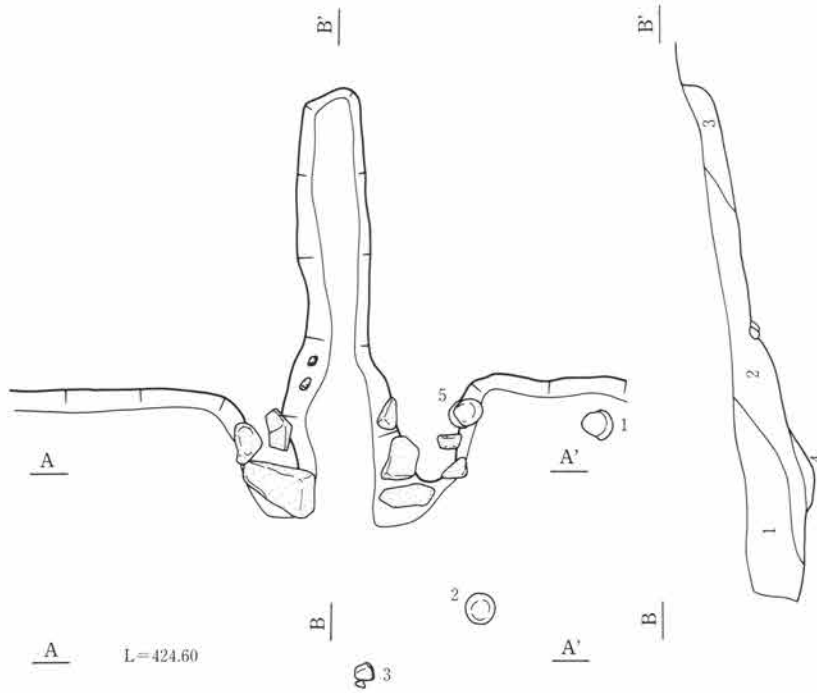
第1節 竪穴住居跡

2号住居跡 (第2・3・4図、P.L. 1・2・19)

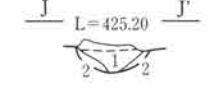
当遺跡中央やや南に位置し21~23・21~24の範囲にある。他の遺構との重複はない。平面形態は隅丸方形を呈する。規模は長辺4.5m、短辺4.2mを測る。主軸方位はN-76°-Eである。床面は平坦をなし、南壁に周溝が検出された。規模は幅約10cm、深さ約5cmを測る。南東隅に貯蔵穴と考えられる小穴が2基、さらに小穴が4基各々P1~6とした。規模はP1、径約75cm、深さ約50cm、P2、径約65cm、深さ約20cm、P3、径約25cm、深さ約40cm、P4、径約20cm、深さ約40cm、P5、55cm×35cm、深さ約20cm、P6、径約20cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は袖幅40cm、燃烧部長40cm、煙道部長70cmを測る。竈両袖部には袖材の石が検出された。



第1節 竪穴住居跡



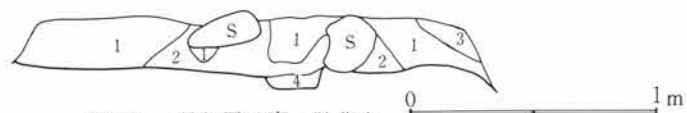
- 貯藏穴1
1. 黒褐色土層 白色鉱物含む。
 2. 黄褐色土層 ローム粒含む。



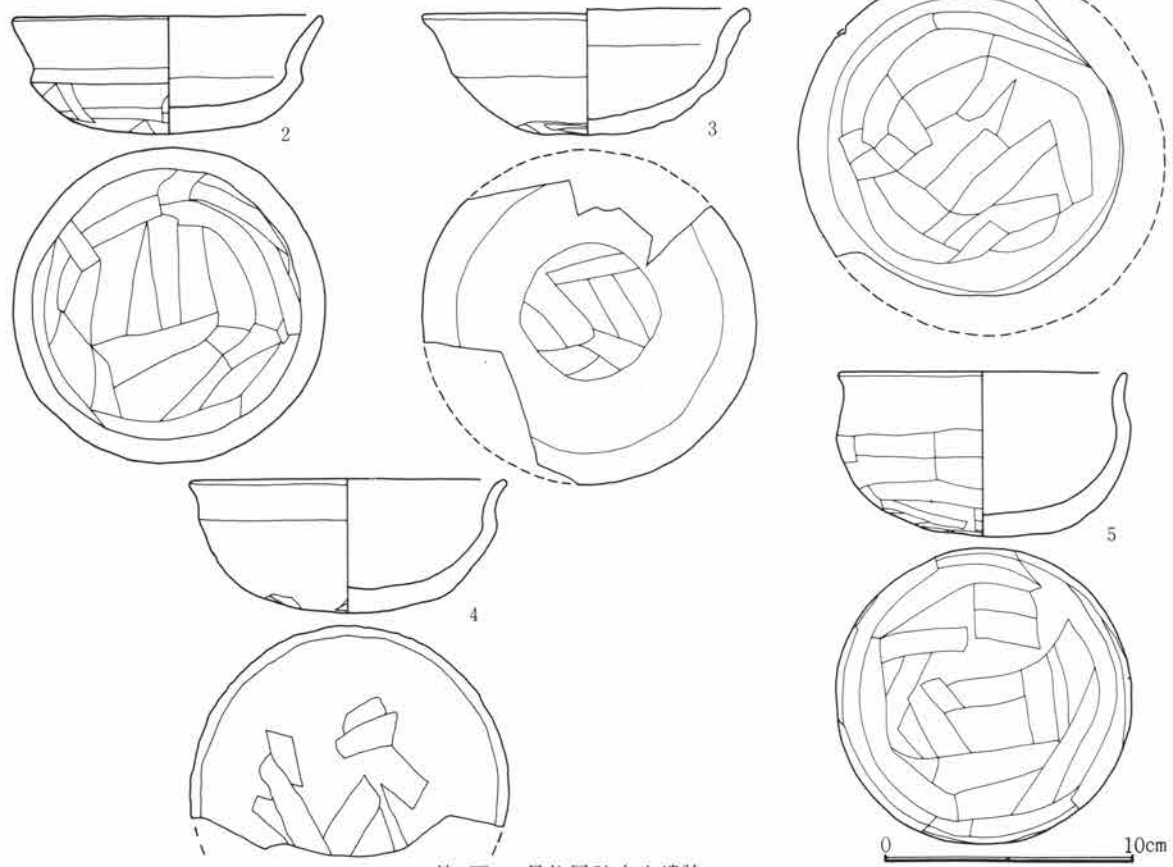
- 貯藏穴2
1. 黒褐色土層 焼土・炭化物含む。
 2. 黄褐色土層 ローム粒含む。



- 2号住居跡竈
1. 黒褐色土層 軽石含む。
 2. 暗褐色土層 炭化物・ロームブロック含む。
 3. 暗褐色土層 焼土含む。
 4. 暗褐色土層 炭化物粒・軽石含む。



第3図 2号住居跡竈・貯藏穴

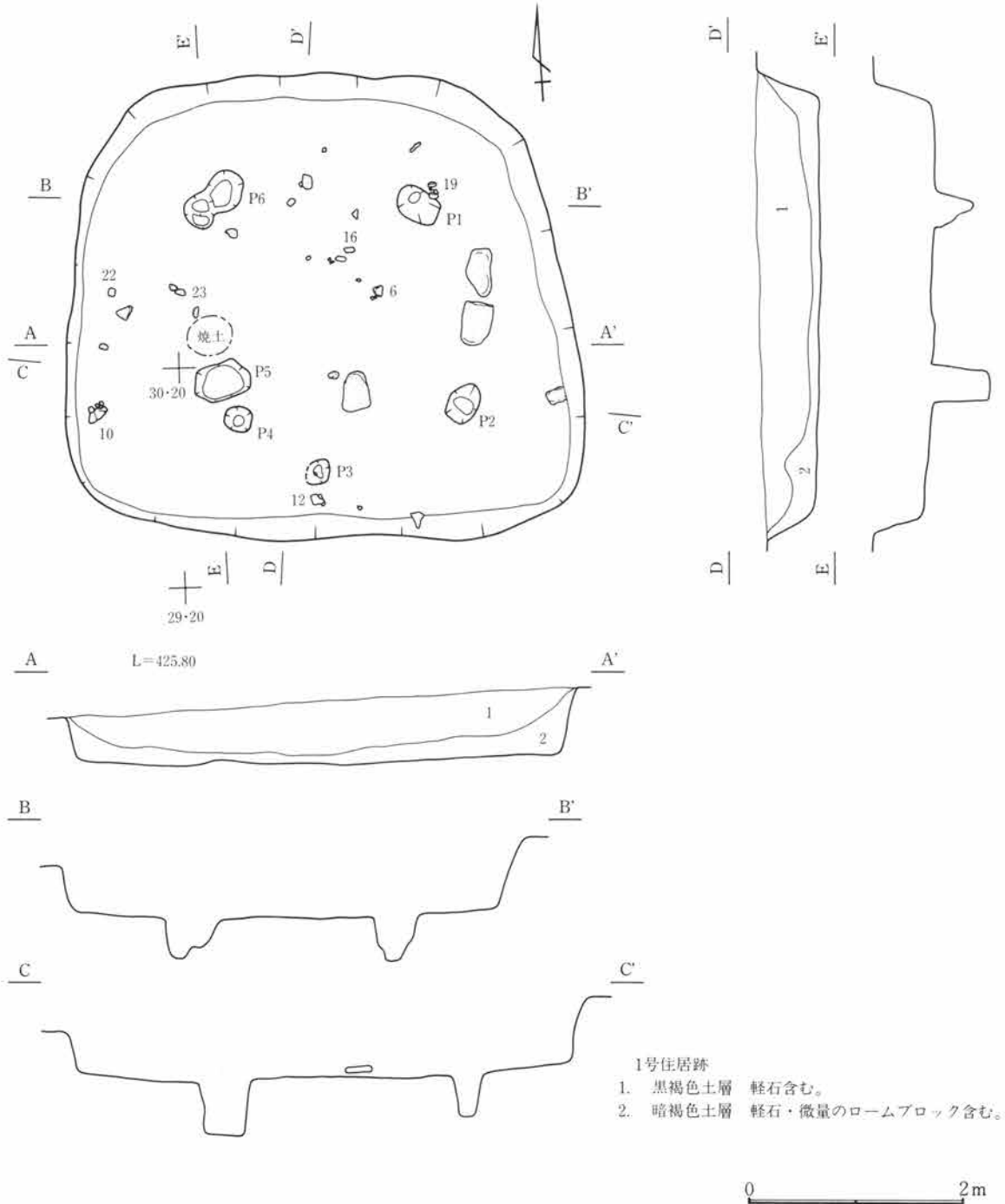


第4図 2号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

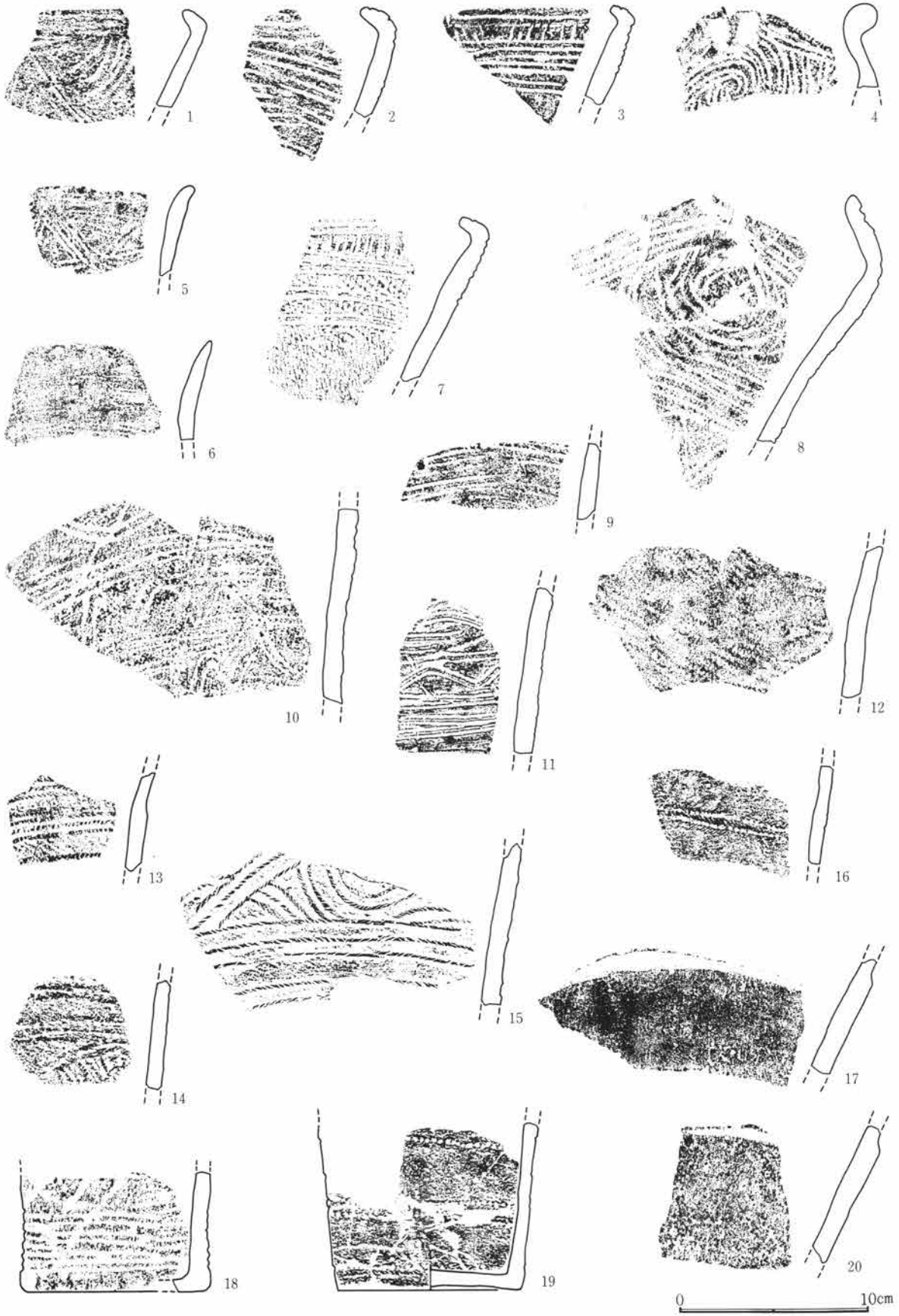
1号住居跡 (第5・6・7図、P.L. 2・19・20)

遺跡中央やや東寄りに検出された。29～31・18～20の範囲にある。規模は1辺4.3mを測り、北壁3.5m、南壁4.8mの台形を呈する。壁高は約60cmを測る。床面西壁寄りの部分に炉が検出された。炉の規模は径約45cmの円形を呈する。床面には小穴が検出され、各々P1～6とした。規模はP1、45cm×30cm、深さ約40cm、P2、40cm×25cm、深さ約40cm、P3、径約20cm、深さ約10cm、P4、径約25cm、深さ約6cm、P5、55cm×35cm、深さ約50cm、P6、60cm×25cm、深さ中央で35cm、北側25cm、南側20cmを測る。小穴1・2・5・6は柱穴とみられ、柱間は1～2、1.2m、2～5、1.5m、5～6、1.2m、6～1、1.3mを測る。



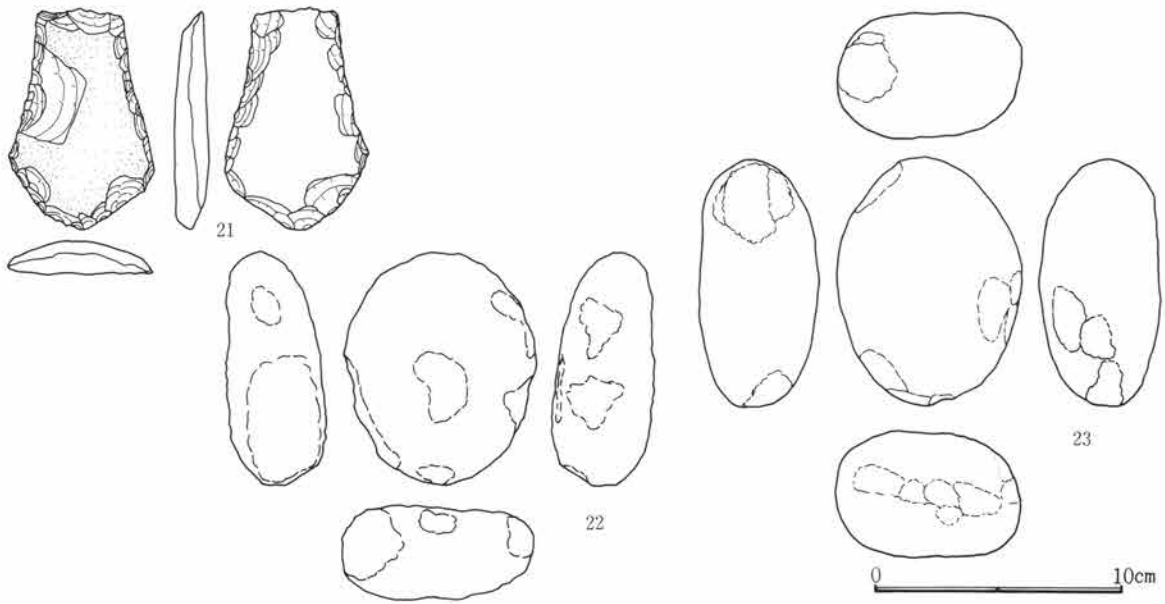
第5図 1号住居跡

第1節 豎穴住居跡



第6図 1号住居跡出土遺物(1)

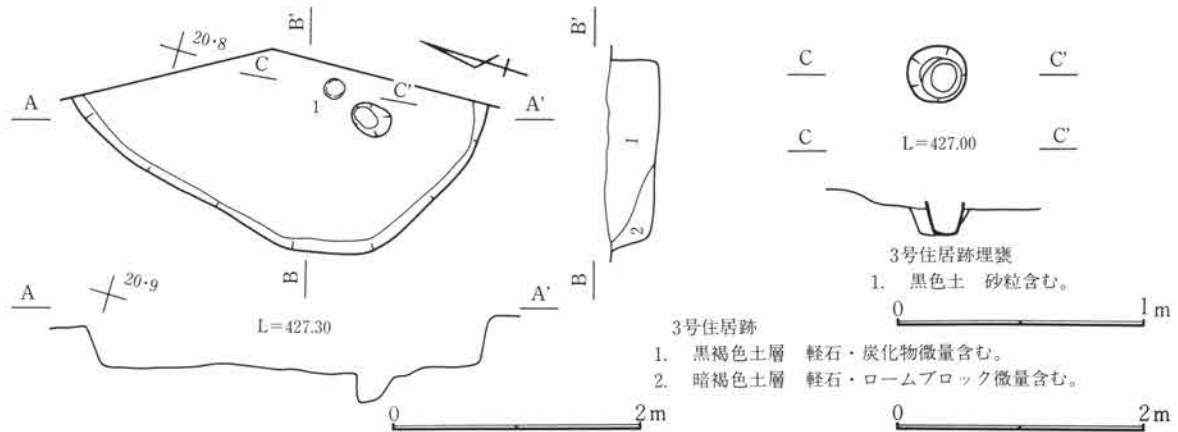
第2章 検出された遺構と遺物



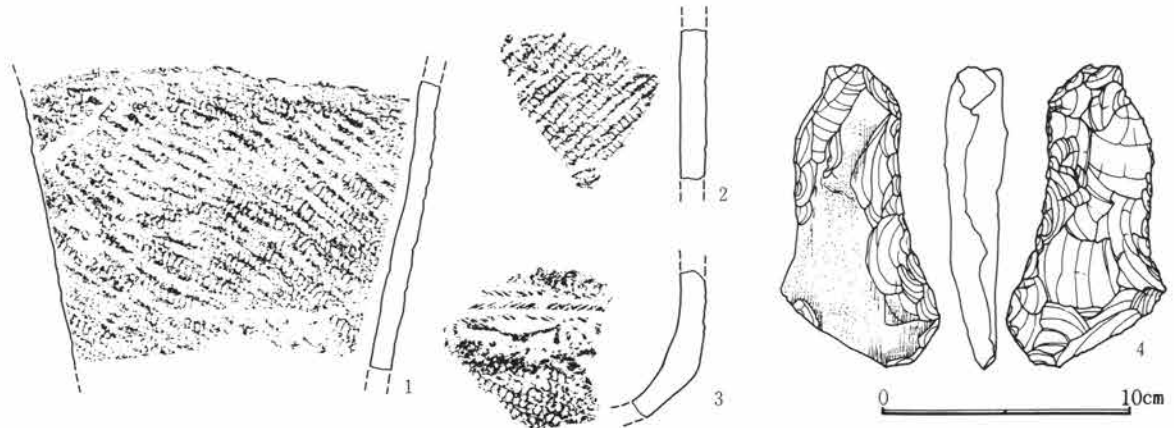
第7図 1号住居跡出土遺物(2)

3号住居跡 (第8・9図、P.L. 2・20)

遺跡南東部に位置し、18~20・7・8の範囲にある。他の遺構との重複はない。東半部は調査区域外へ延びている。壁高は約30cm~40cmを測る。検出された床面の東部に土器の埋設された炉が検出された。炉に接し、小穴が検出され、規模は30cm×20cm、深さ約30cmを測る。



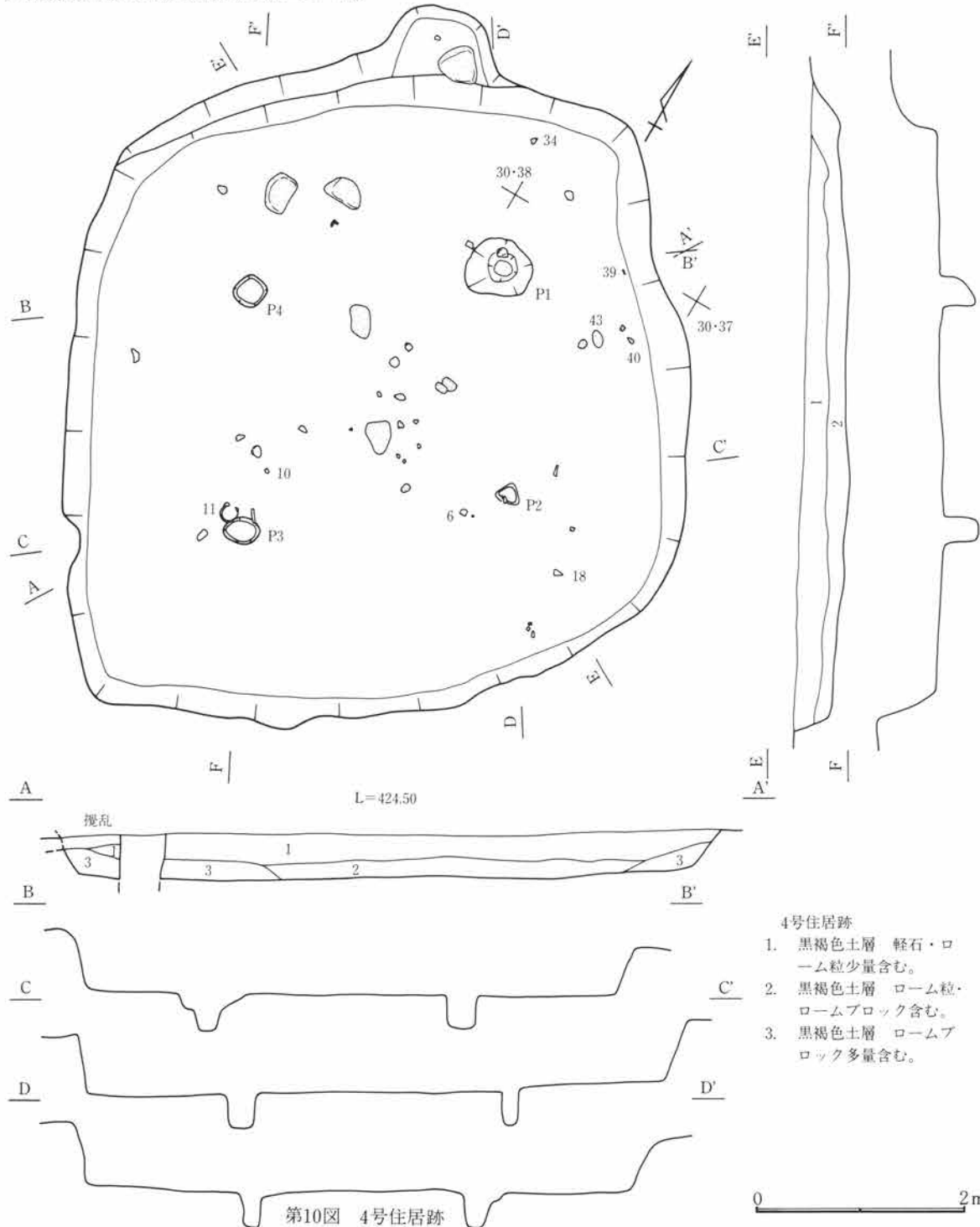
第8図 3号住居跡・埋襲



第9図 3号住居跡出土遺物

4号住居跡 (第10・11・12・13図、P L. 2・20・21・22)

遺跡西北に位置し、27~30・36~39の範囲にある。規模は長辺4.2m、短辺3.9mを測る。壁高は約40cmを測る。床面南西部に土器を埋設した炉が検出された。柱穴と考えられる小穴が検出され、各々P1~4とした。規模はP1、径約25cm、深さ約30cm、P2、25cm×15cm、深さ約30cm、P3、35cm×25cm、深さ約30cm、P4、径約25cm、深さ約30cmを測る。柱間はP1~2、2.1m、P2~3、2.5m、P3~4、2.2m、P4~1、2.4mを測る。また北壁に接し土坑が検出された。土坑内から偏平な礫が検出され、遺跡内の他の遺構との関係は土坑とも共通性を示している。



第10図 4号住居跡

4号住居跡

1. 黒褐色土層 軽石・ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック含む。
3. 黒褐色土層 ロームブロック多量含む。

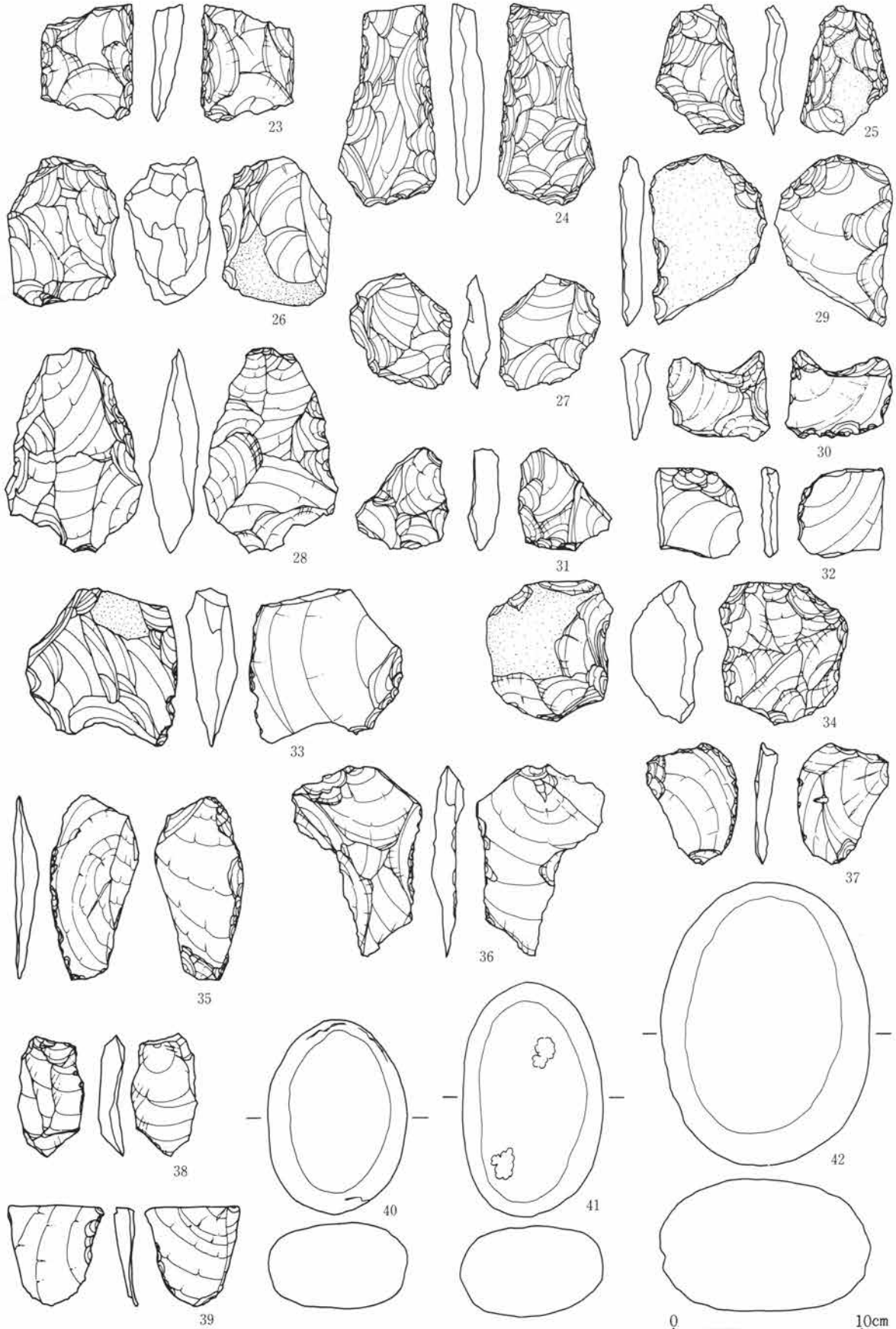
0 2m

第2章 検出された遺構と遺物

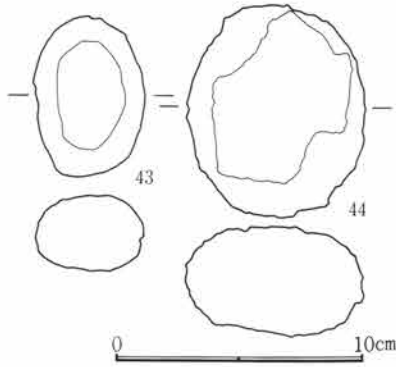


第11図 4号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡

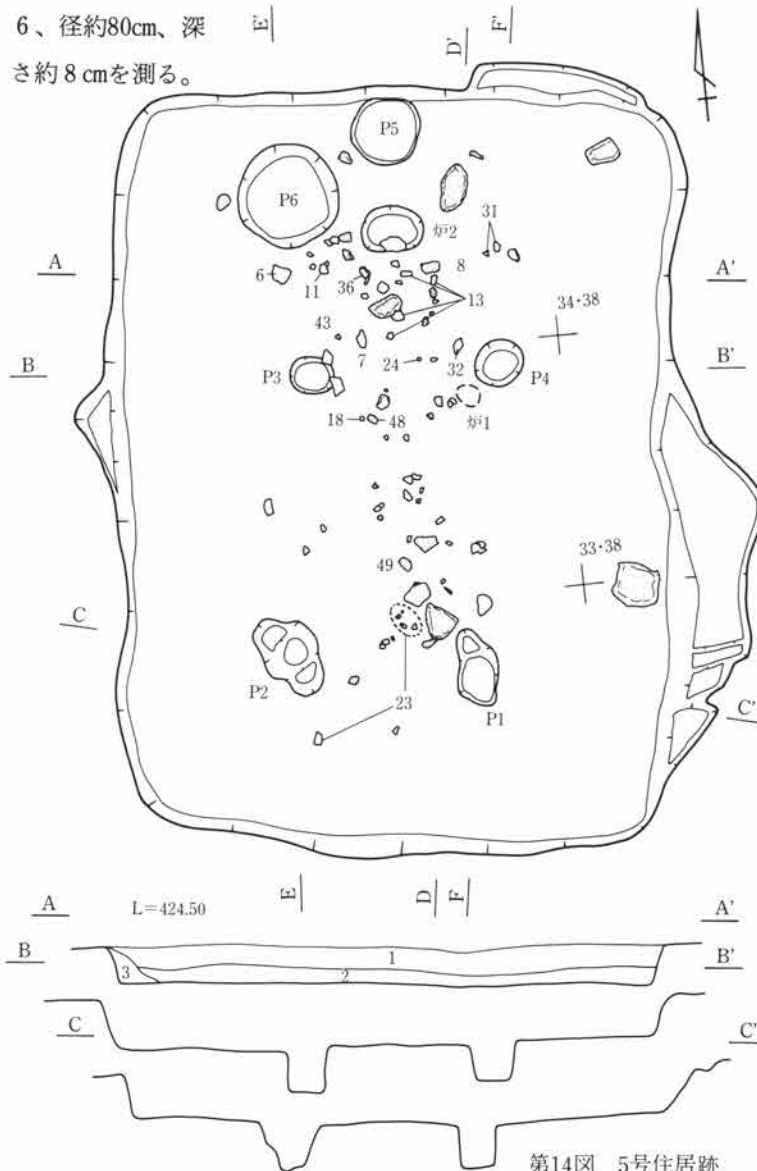


第12図 4号住居跡出土遺物(2)



第13図 4号住居跡出土遺物(3)

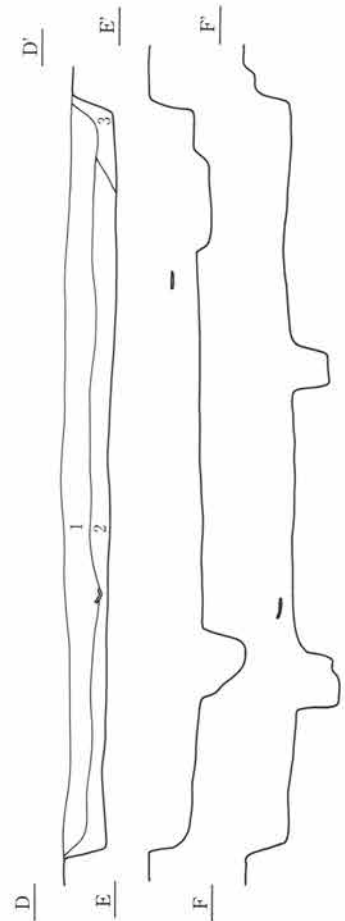
約15cmの焼土が検出され、炉2は15cm×10cmの焼土を検出した。炉2はさらに焼土の周辺が低くなっている。この規模は50cm×25cmを測る。床面上にはさらに6基の土坑が検出された。各々P1～6とした。規模はP1、65cm×35cm、深さ約35cm、北側で15cm、P2、75cm×45cm、深さは東側で35cm、中央部で40cm、西側で20cm、P3、35cm×30cm、深さ約40cm、P4、40cm×35cm、深さ約30cm、P5、径約55cm、深さ約10cm、P6、径約80cm、深さ約8cmを測る。



第14図 5号住居跡

5号住居跡 (第14・15・16・17図、P L. 3・22・23・24)

遺跡西北部に位置し、31～35・37～39の範囲にある。他の遺構との重複はない。当初北壁、西壁に張り出しが認められ、2軒の重複と考え5、6号住居跡としたが重複は認められなかった。張り出し部の規模は東壁で3m×70cm、床面より約10cm高くなっている。張り出し部の用途等は不明である。住居跡の規模は長辺5.8m、短辺4.5mを測る。壁高は30cm～40cmを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。床面上には多数の遺物が検出され、中央部、さらに北よりの部分の2箇所より、炉が検出され、各々炉1・2とした。規模は炉1は径



5号住居跡

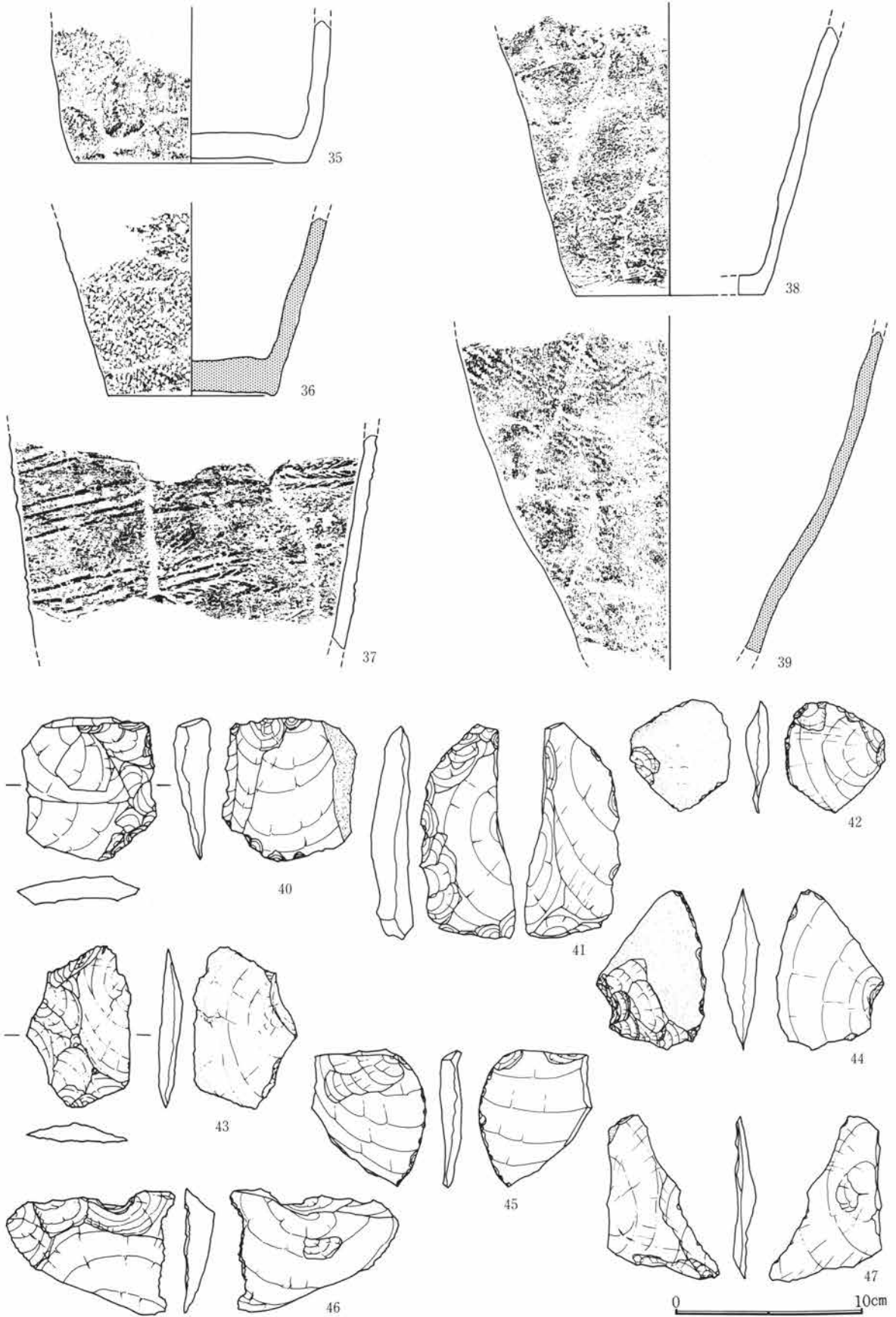
1. 黒褐色土層 軽石少量含む。
2. 黒褐色土層 軽石多量・ローム粒含む。
3. 黒褐色土層 軽石・ローム粒多量含む。

0 2m



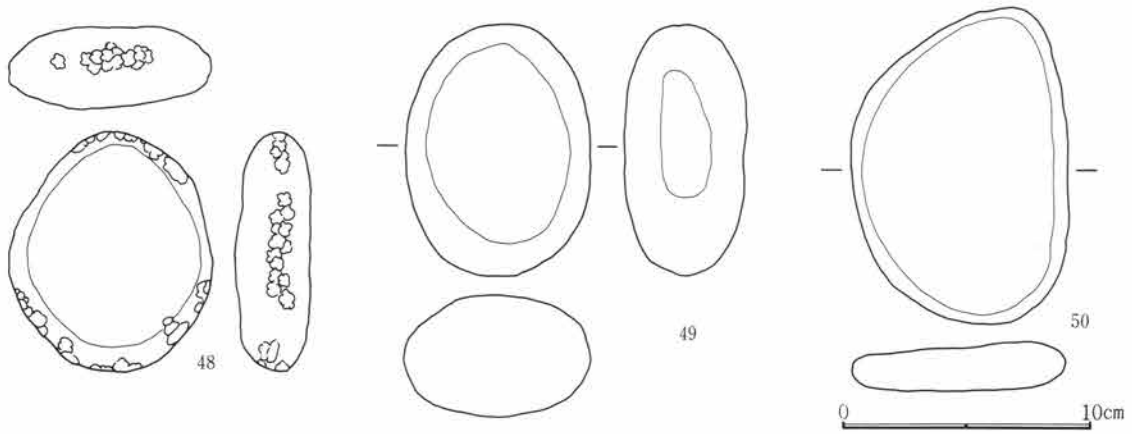
第15図 5号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



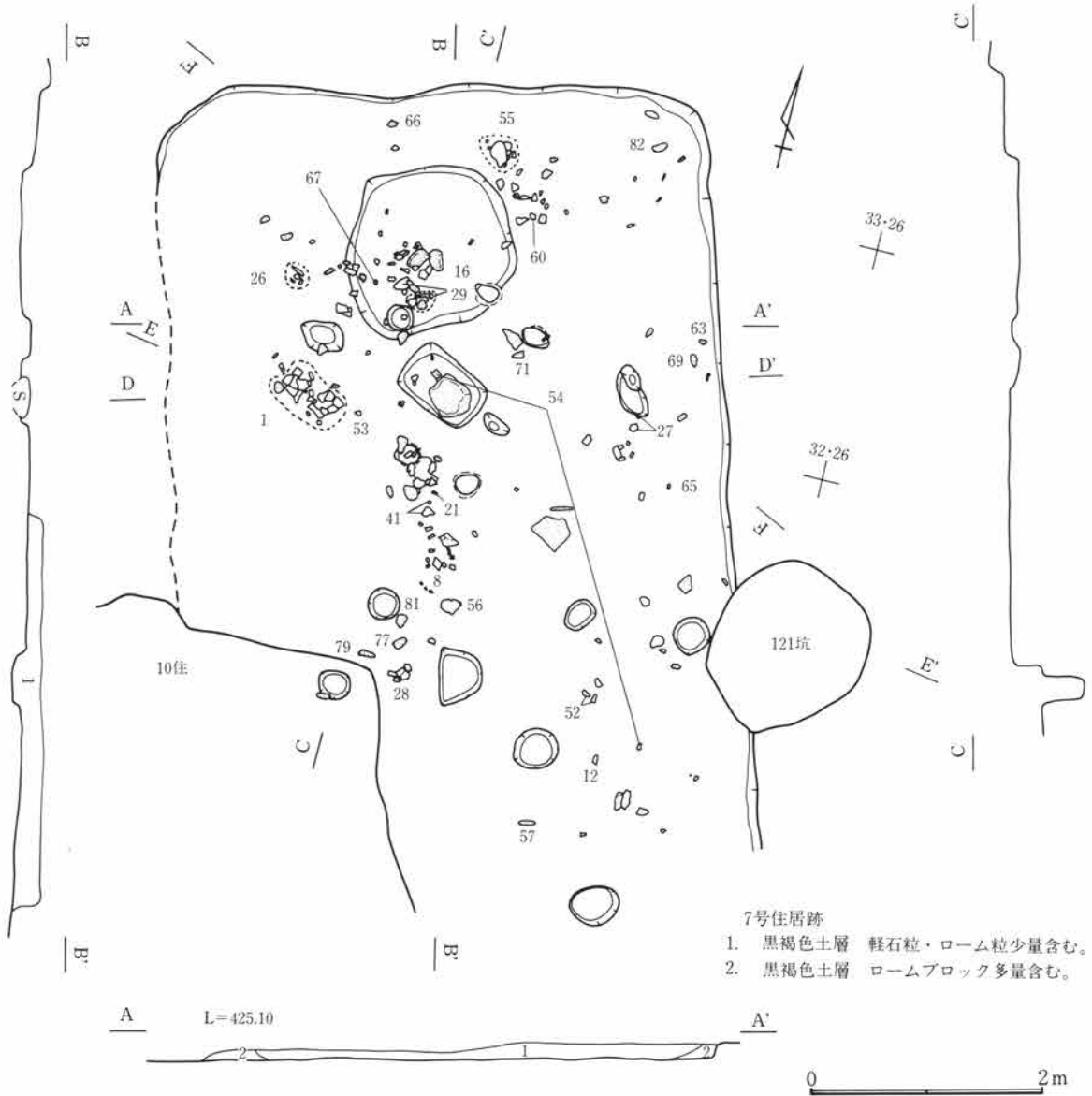
第16図 5号住居跡出土遺物(2)

第1節 竪穴住居跡



第17図 5号住居跡出土遺物(3)

7号住居跡 (第18・19・20・21・22・23・24図、P.L. 3・4・24・25・26・27)

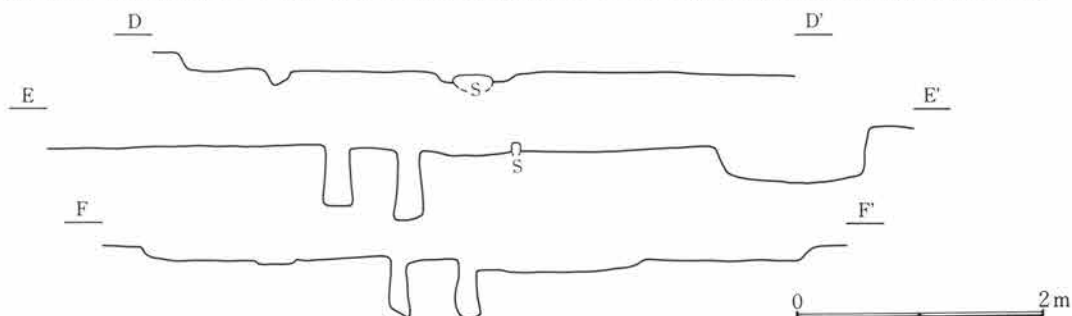


- 7号住居跡
1. 黒褐色土層 軽石粒・ローム粒少量含む。
 2. 黒褐色土層 ロームブロック多量含む。

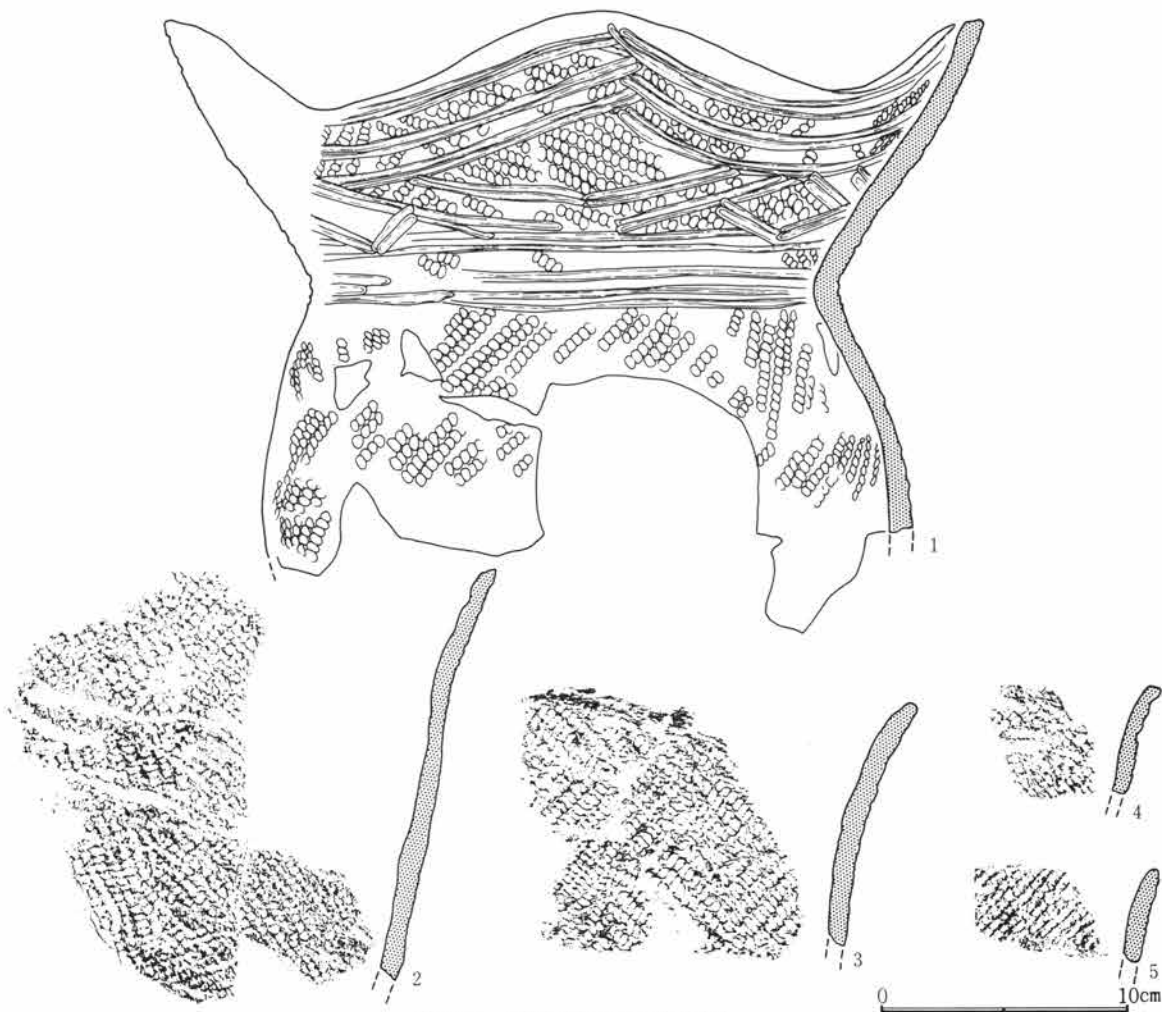
第18図 7号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

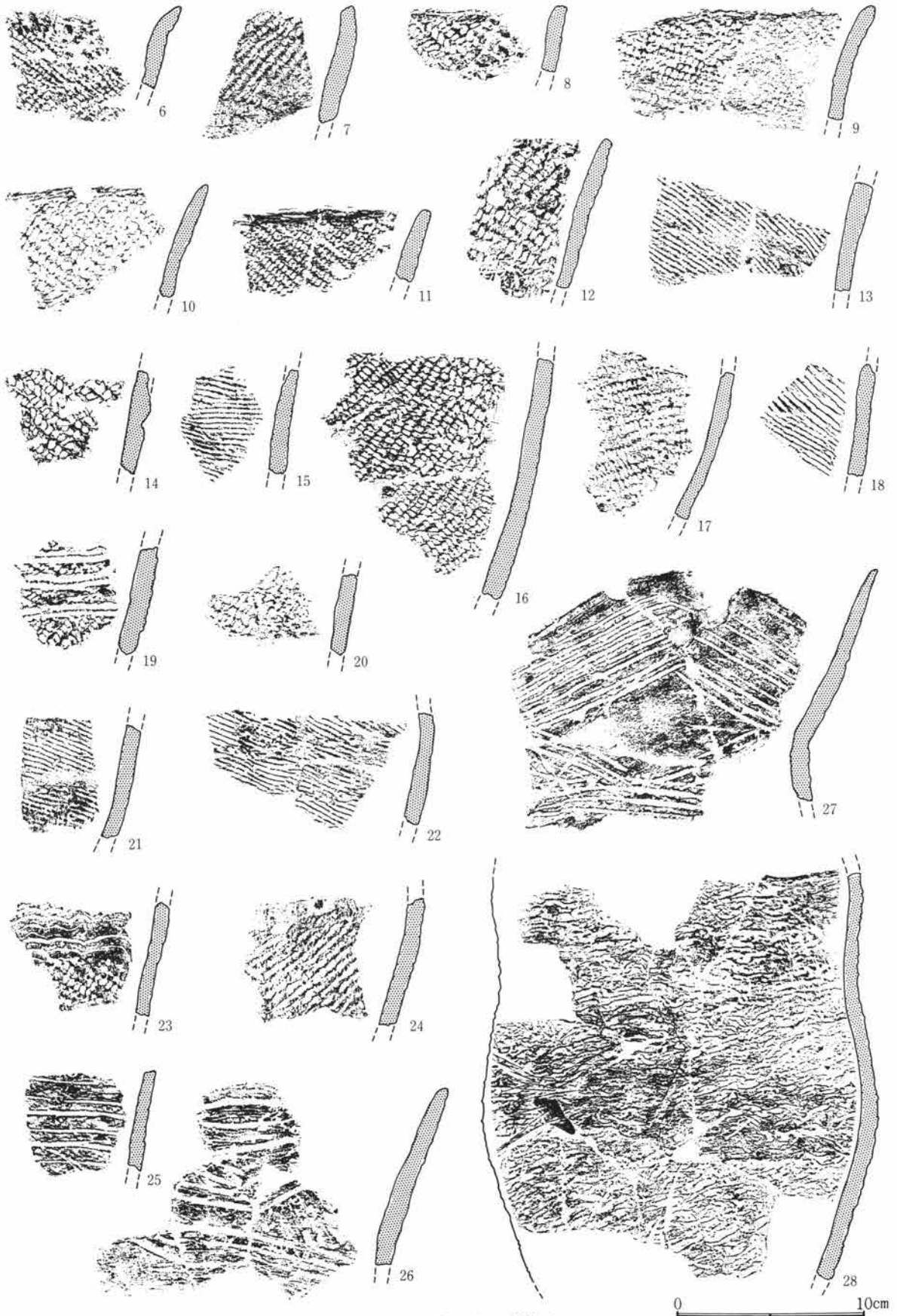
遺跡中央やや北寄りに位置し、29～31・25～29の範囲にある。他の遺構との関係は、南東部で10号住居跡、東壁で121号土坑と重複している。新旧関係は10号住居跡、121号土坑が新しい。南西部は試掘時のトレンチで壊されて、また東壁も明確に確認できなかった。東壁は部分的に5cm～10cmを測る。南壁は確認できなかった。床面を検出したが炉は検出できなかった。床面には小穴が13基検出され、各々P1～13とした。規模はP1、40cm×35cm、深さ約15cm、P2、径約40cm、深さ約5cm、P3、50cm×40cm、深さ約5cm、P4、30cm×20cm、深さ約12cm、P5、径約35cm、深さ約15cm、P6、径約25cm、深さ約50cm、P7、径約20cm、深さ約50cm、P8、径約20cm、深さ約40cm、P9、25cm×15cm、深さ約45cm、P10、50cm×20cm、深さ約10cm、P11、径約20cm、深さ約40cm、P12、径約15cm、深さ約10cm、P13、160cm×140cm、深さ約10cmを測る。



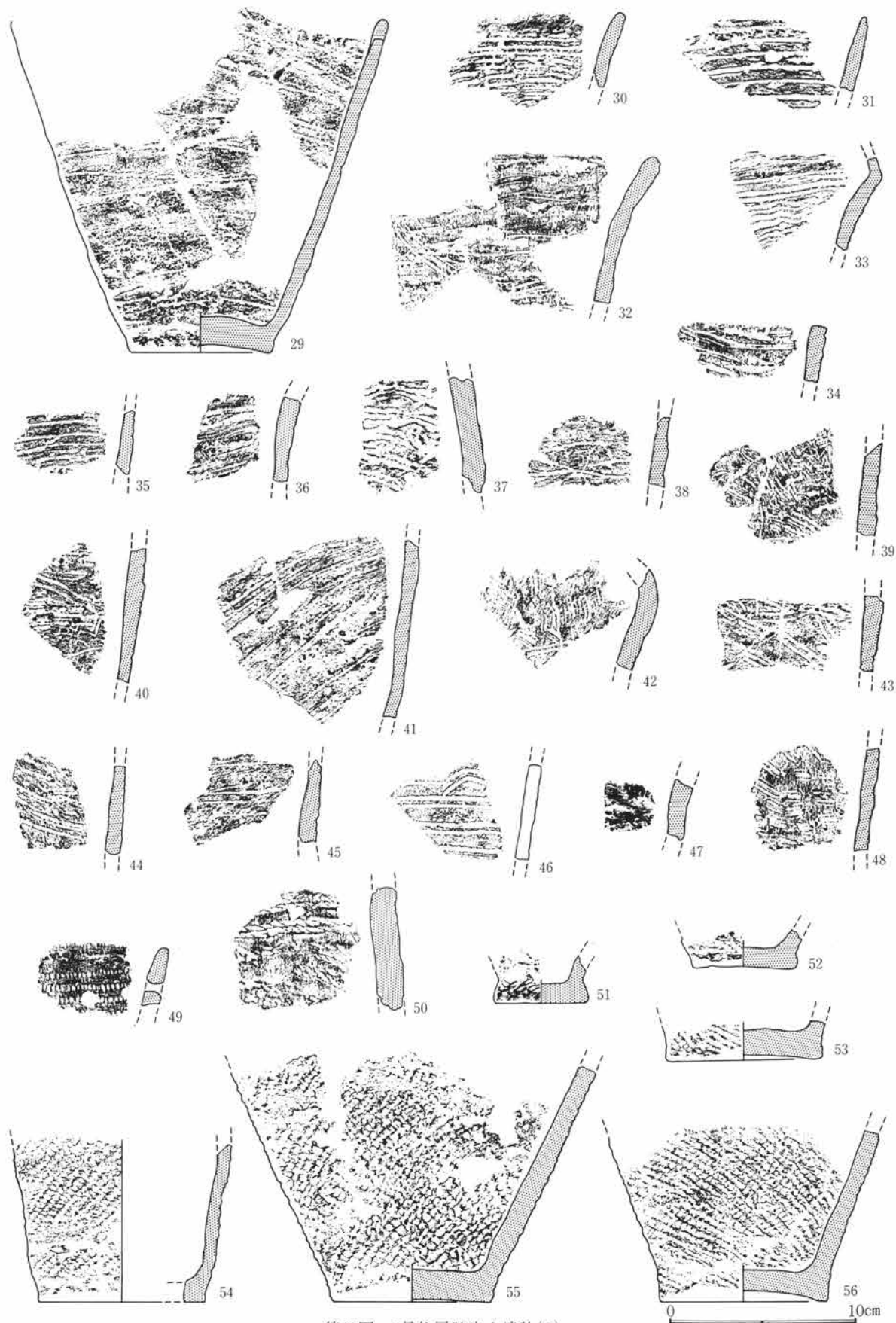
第19図 7号住居跡断面



第20図 7号住居跡出土遺物(1)

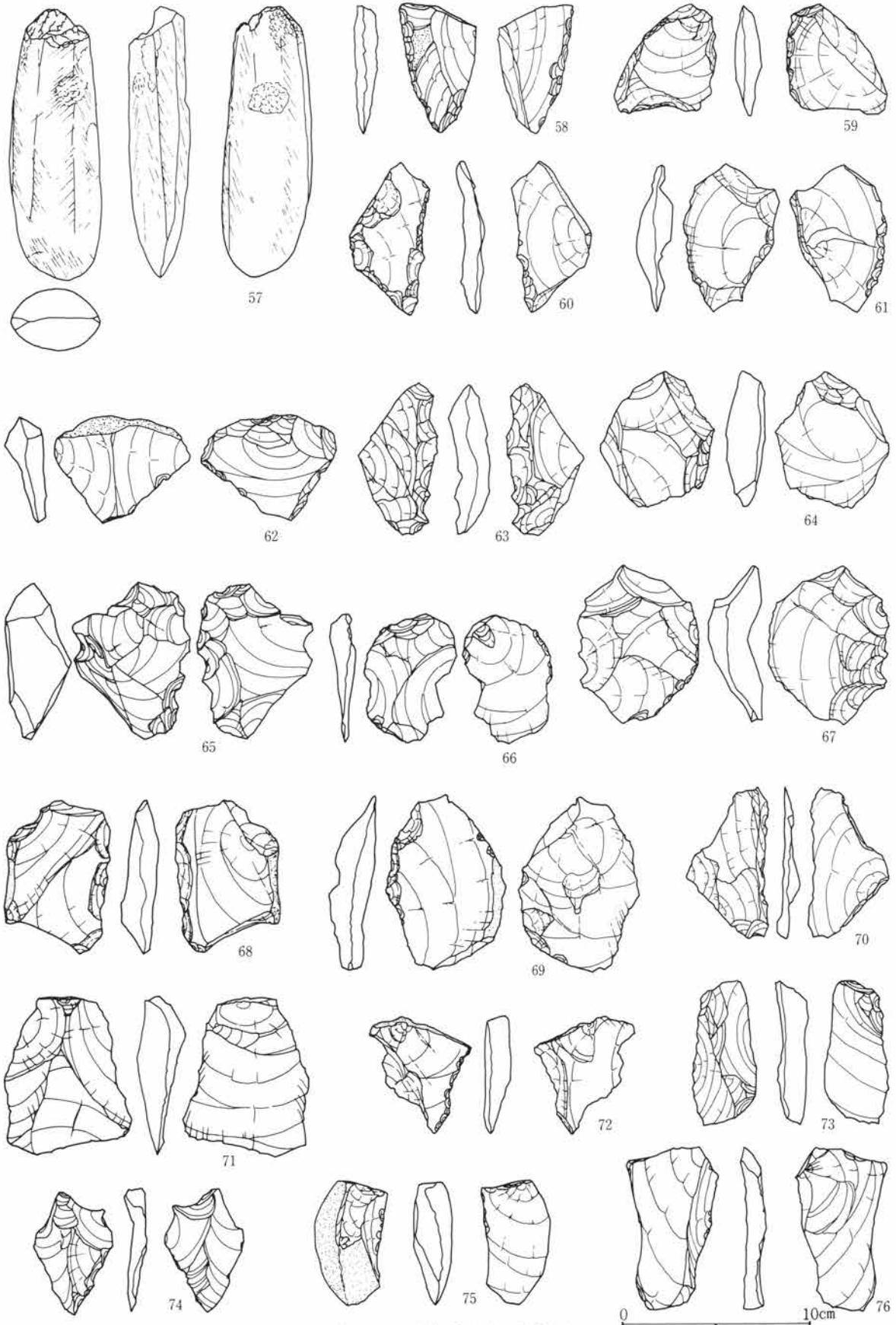


第21図 7号住居跡出土遺物(2)



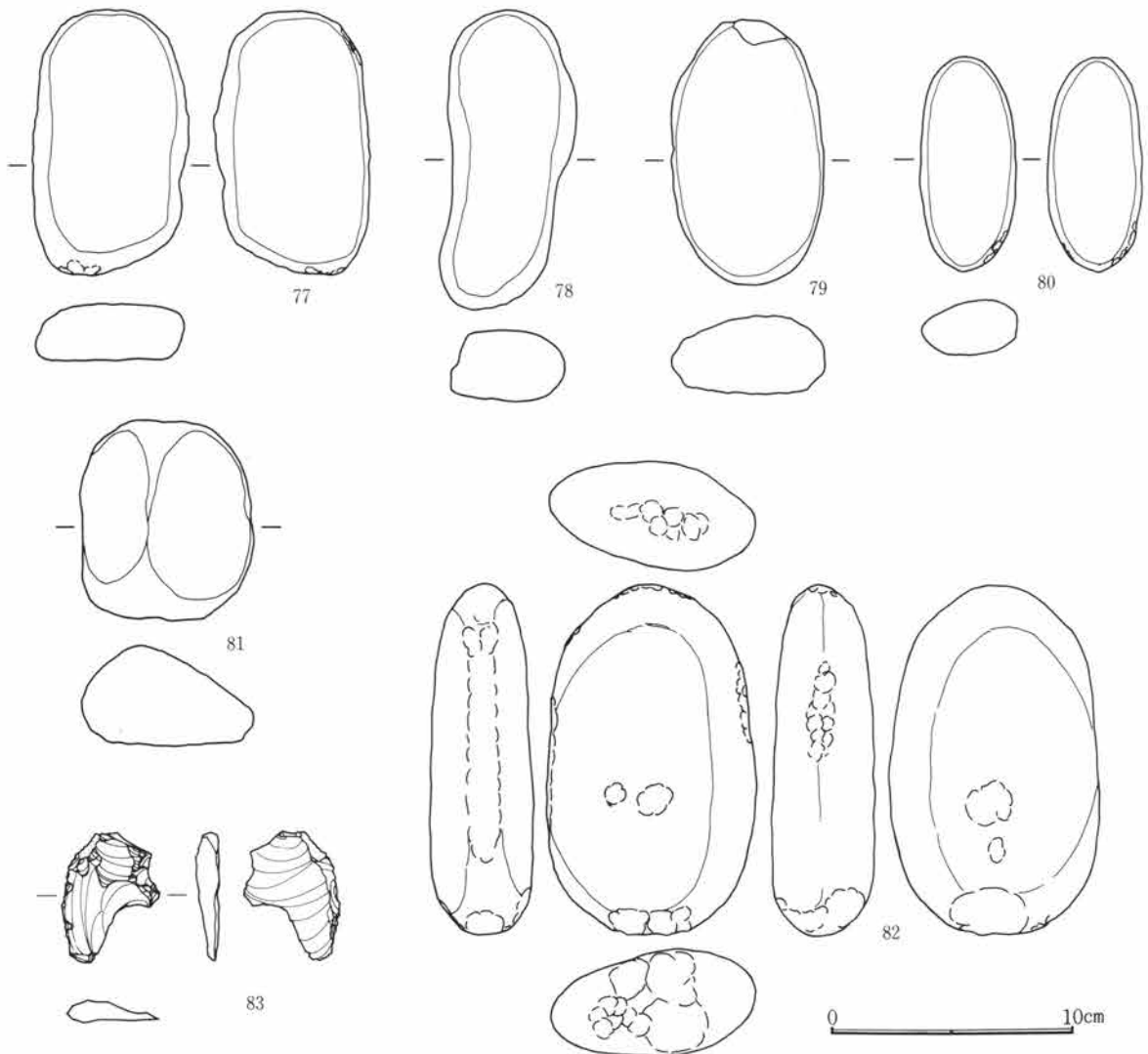
第22図 7号住居跡出土遺物(3)

第1節 豎穴住居跡



第23図 7号住居跡出土遺物(4)

第2章 検出された遺構と遺物

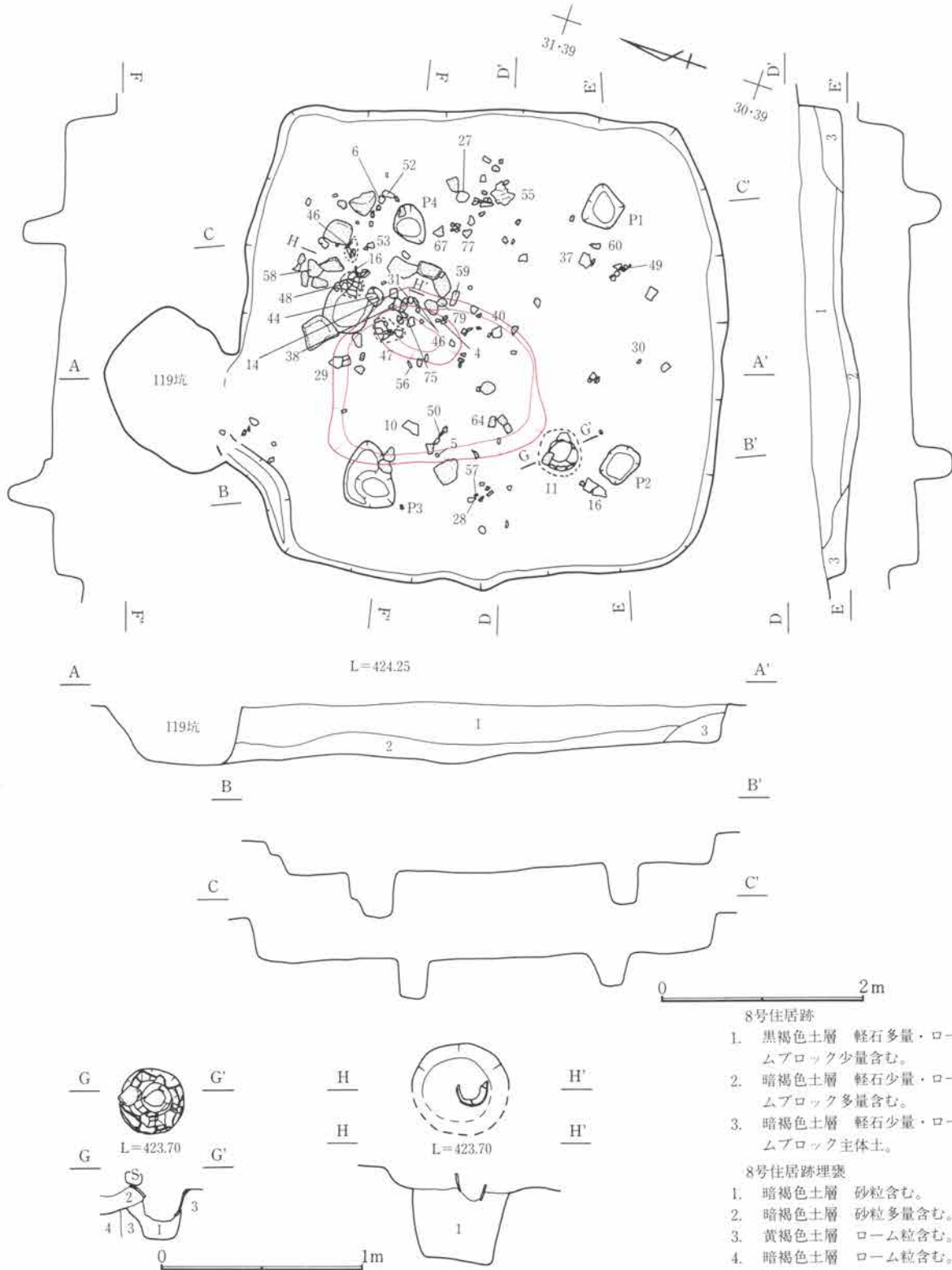


第24図 7号住居跡出土遺物(5)

8号住居跡 (第26・27・28・29・30図、P L. 4・5・6・27・28・29・30・31)

遺跡西北に位置し、29～32・31～33の範囲にある。他の遺構との関係は北壁で119号土坑と重複している。新旧関係は119号土坑が新しい。規模は長辺4.8m、短辺4.6mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は40cm～50cmを測る。床面には遺物が多数認められ、南西部に炉が検出された。炉は土器が埋設され、土器の口縁部に石がおかれている。土器と対角をなす北東部に埋甕が検出されているが、焼土等は検出されていない。床面には小穴が4基検出され、各々P 1～4とした。規模はP 1、径約45cm、深さ約30cm、P 2、40cm×30cm、深さ約40cm、P 3、70cm×45cm、深さ約30cm、P 4、45cm×30cm、深さ約40cmを測る。P 1～4は柱穴と考えられ、各々の柱間長はP 1～2は2.5m、P 2～3は2.5m、P 3～4は2.5m、P 4～1は1.9mを測る。

当住居跡の床下に2基の土坑が検出され、各々1・2とした。規模は1、2.1m×1.5m、深さ約20cm、2、85cm×70cm、深さ約5cmを測る。

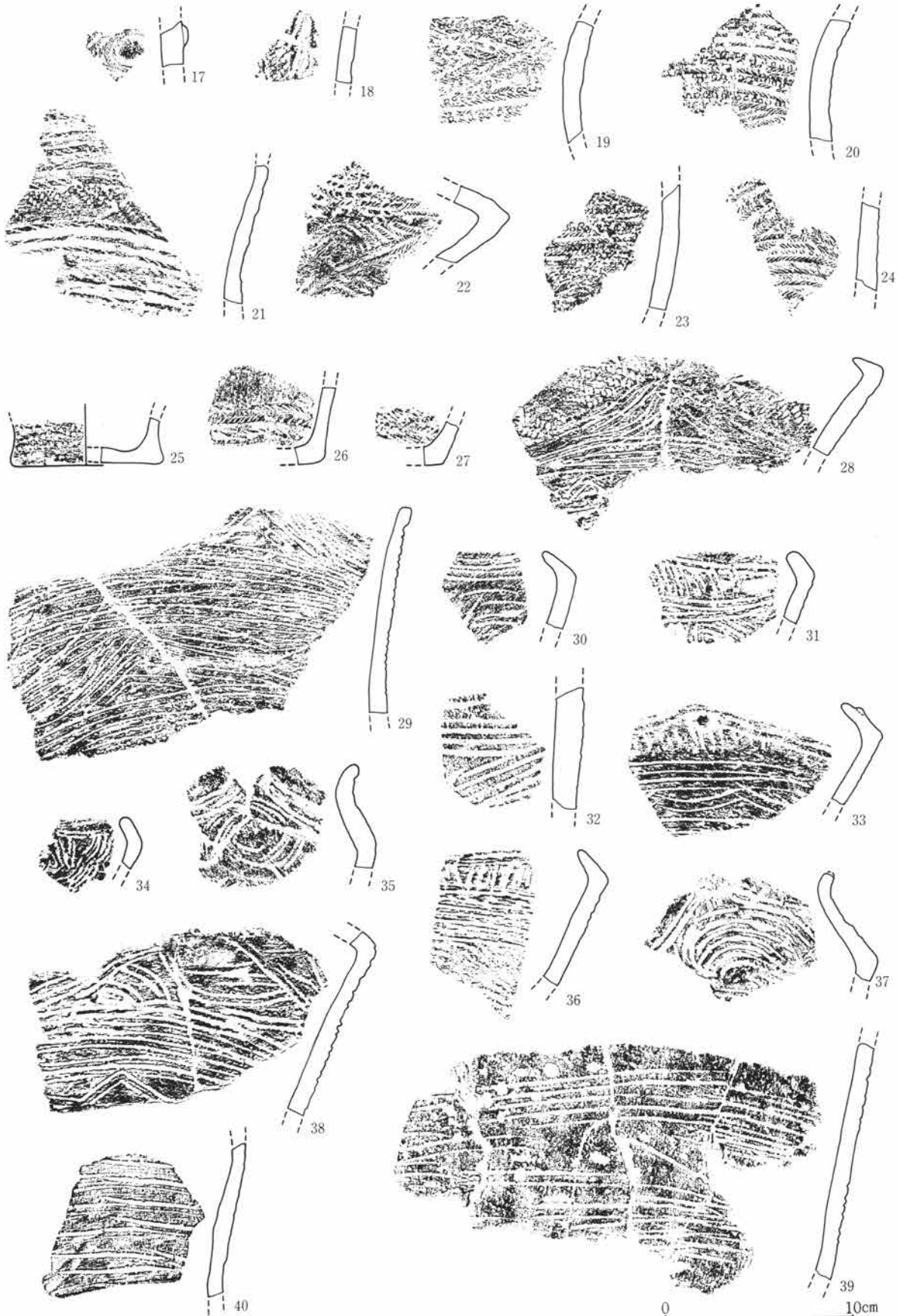


第25図 8号住居跡・埋裏炉

第2章 検出された遺構と遺物

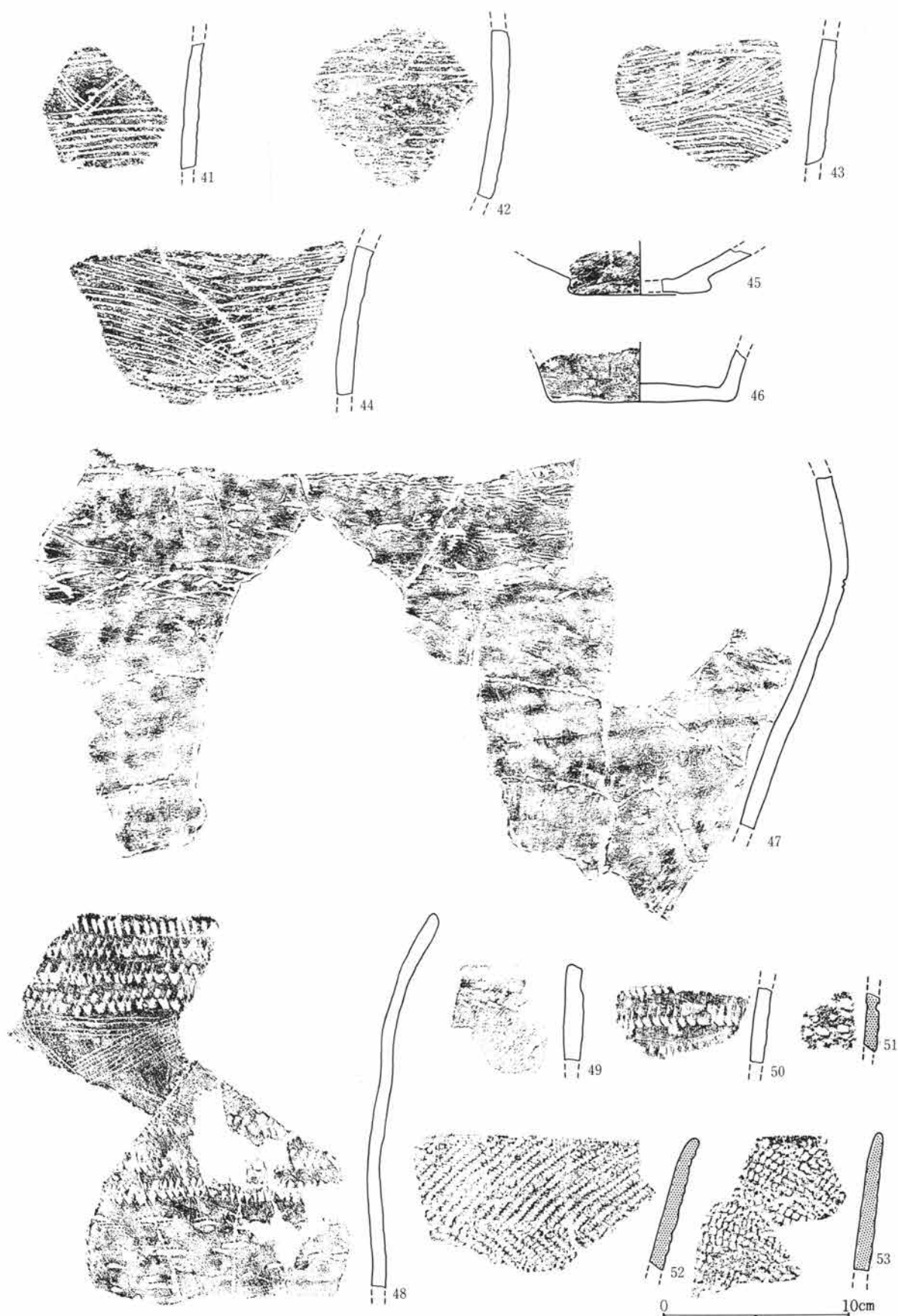


第26図 8号住居跡出土遺物(1)

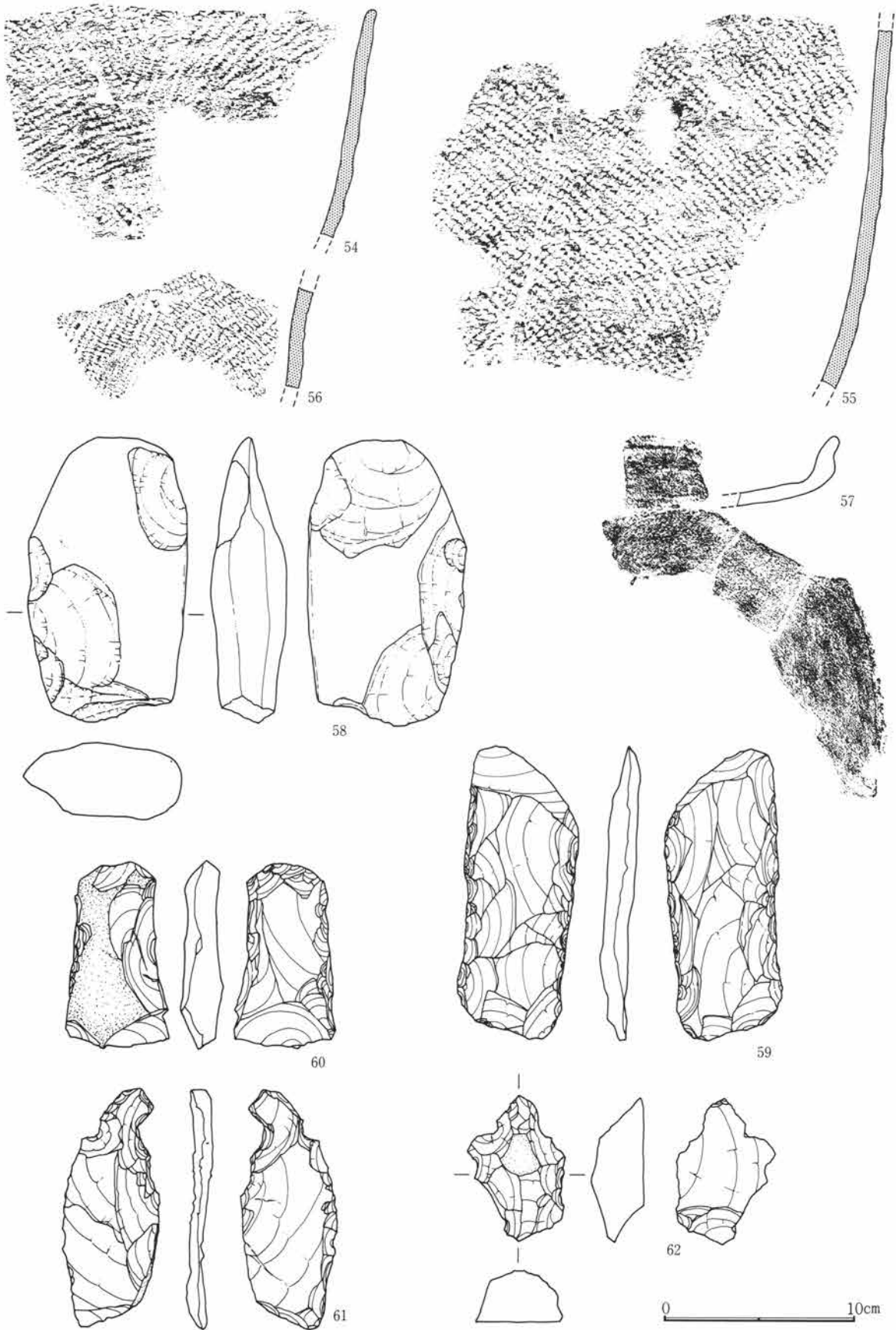


第27図 8号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物

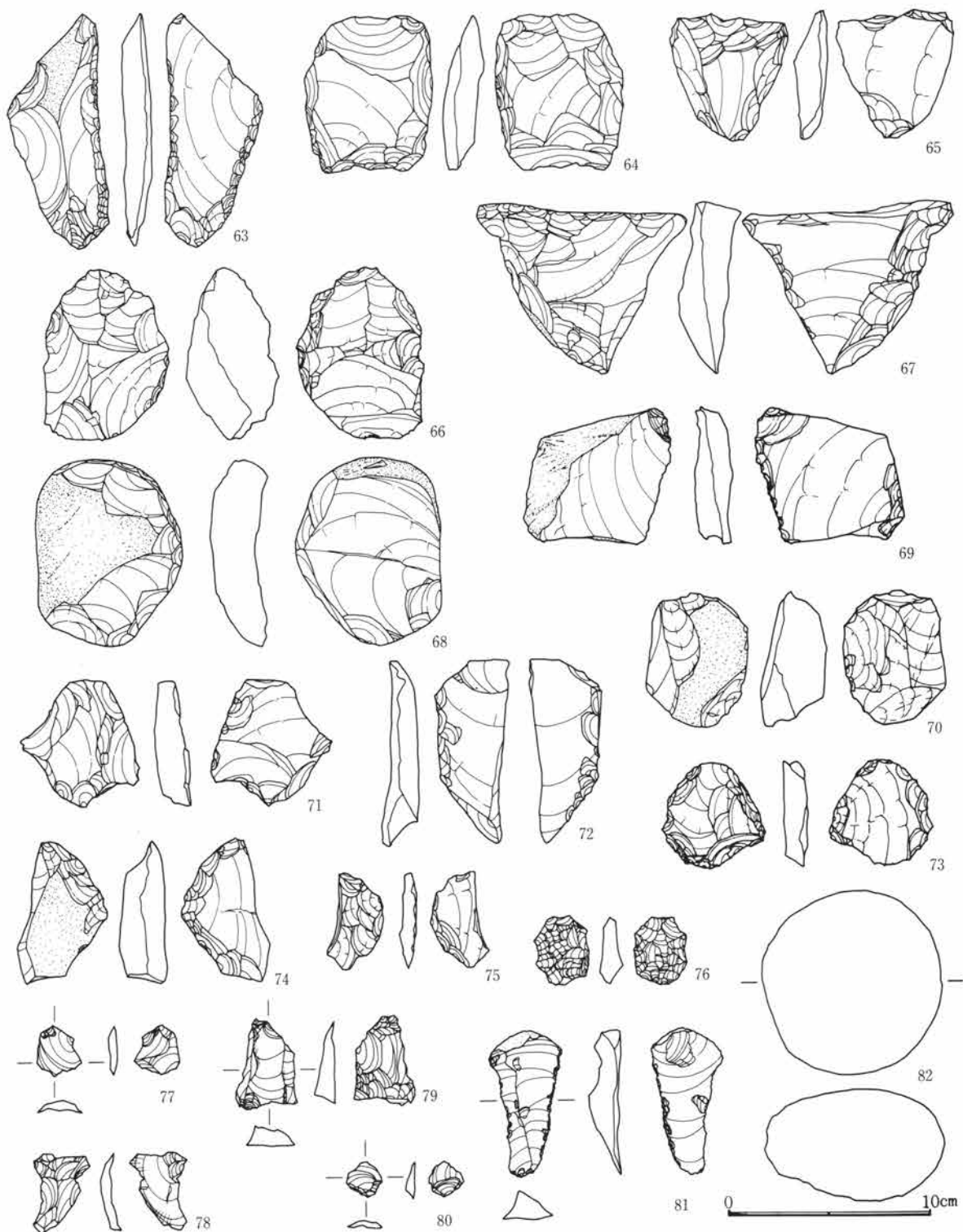


第28図 8号住居跡出土遺物(3)



第29図 8号住居跡出土遺物(4)

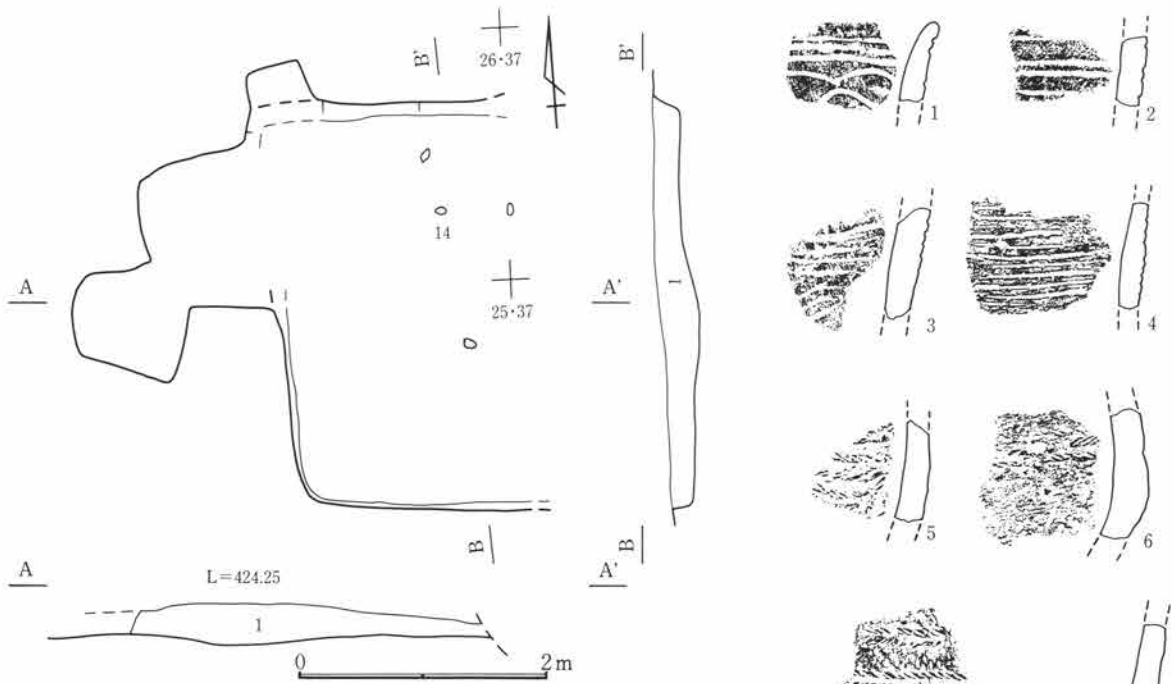
第2章 検出された遺構と遺物



第30図 8号住居跡出土遺物(5)

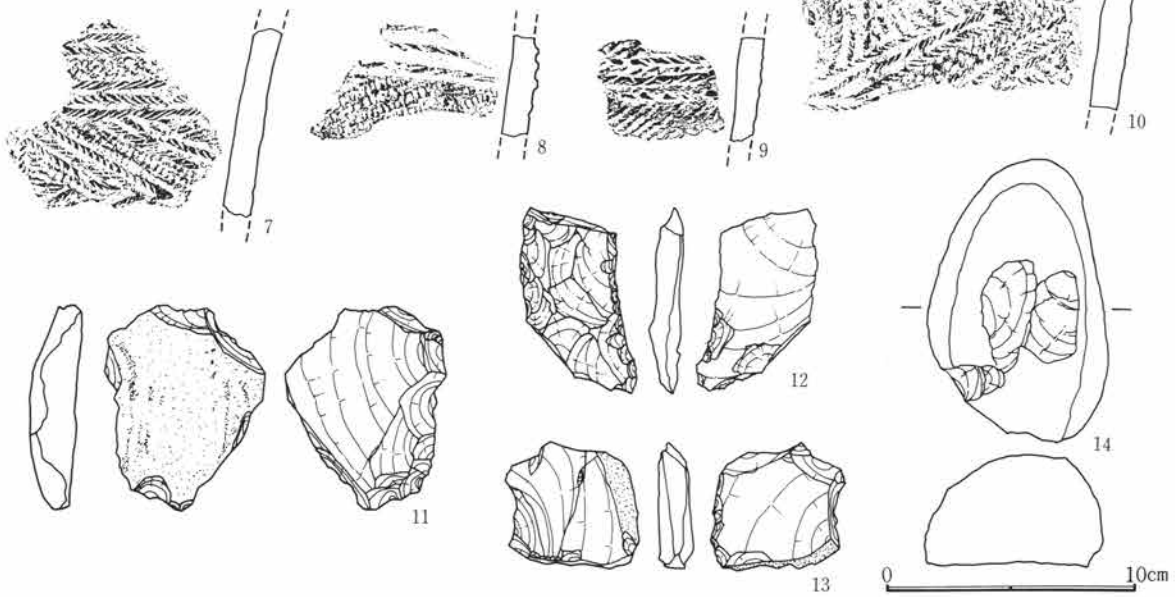
9号住居跡 (第31・32図、P.L. 6・31・32)

遺跡西北に位置し24・25・36・37の範囲にある。他の遺構との重複はない。北側は攪乱を受けている。南側は地形が南方向に傾斜するため壁・床面は確認できなかった。規模は南北で3.25mを測る。平面形態は不明である。検出された床面には炉・小穴等は検出されていない。



9号住居跡
1. 暗褐色土層 ロームブロック少量含む。

第31図 9号住居跡

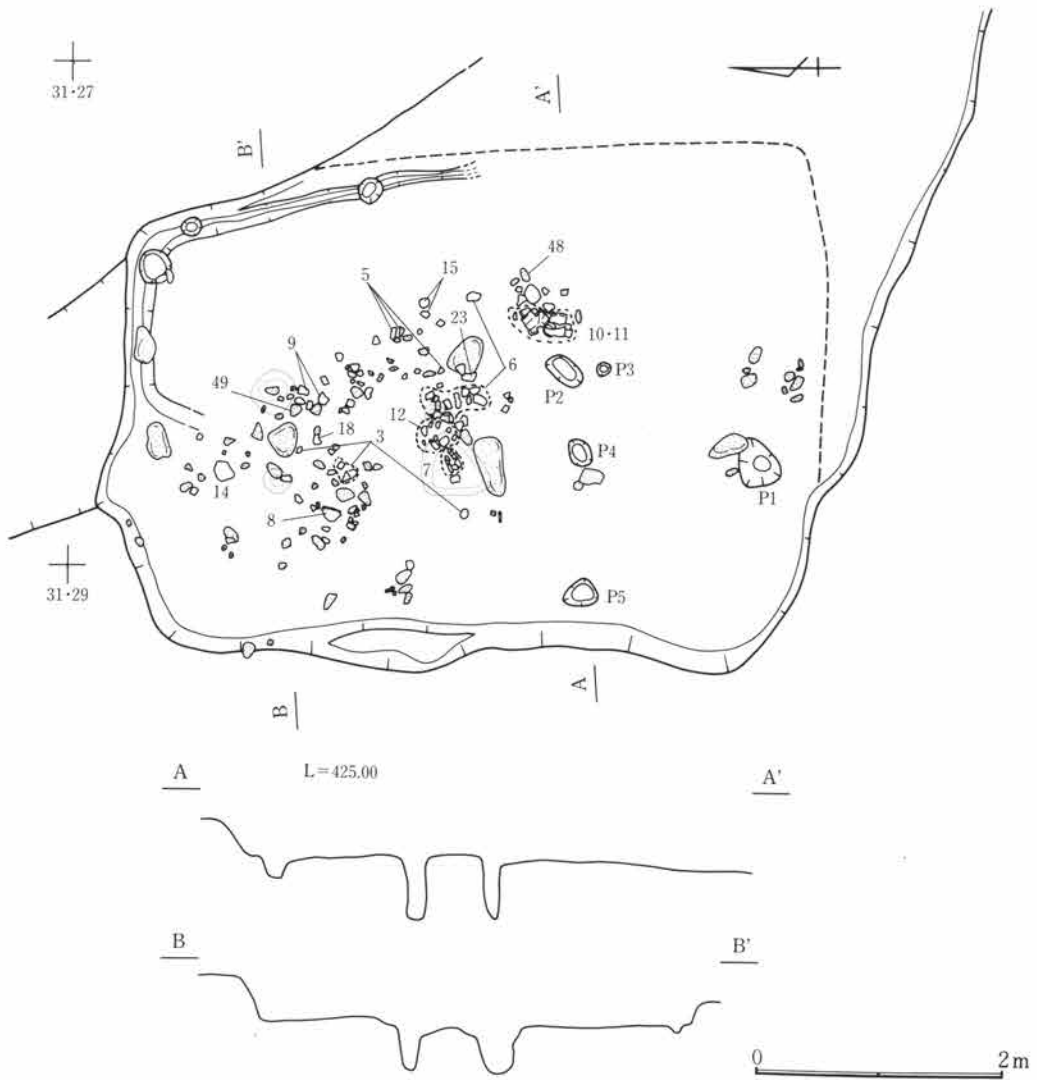


第32図 9号住居跡出土遺物

10号住居跡 (第33・34・35・36・37・38図、P L. 6・32・33・34・35)

遺跡中央やや北に位置し、29・30・26～29の範囲にある。他の遺構との関係は北東部で7号住居跡と重複している。新旧関係は当住居跡が新しい。規模は長辺約6m、短辺約3.7mを測る。平面形態は隅丸の長方形を呈する。東壁および、南東隅については明確な形で検出できなかった。床面には土坑が5基検出され、各々P1～5とした。規模はP1、40cm×30cm、深さ約20cm、P2、30cm×15cm、深さ約50cm、P3、径約10cm、深さ約20cm、P4、25cm×15cm、深さ約50cm、P5、35cm×25cm、深さ約20cmを測る。床面には炉は検出されていない。東壁には約20cm～25cm幅の周溝が認められ小穴を伴い約5cmの深さを測る。

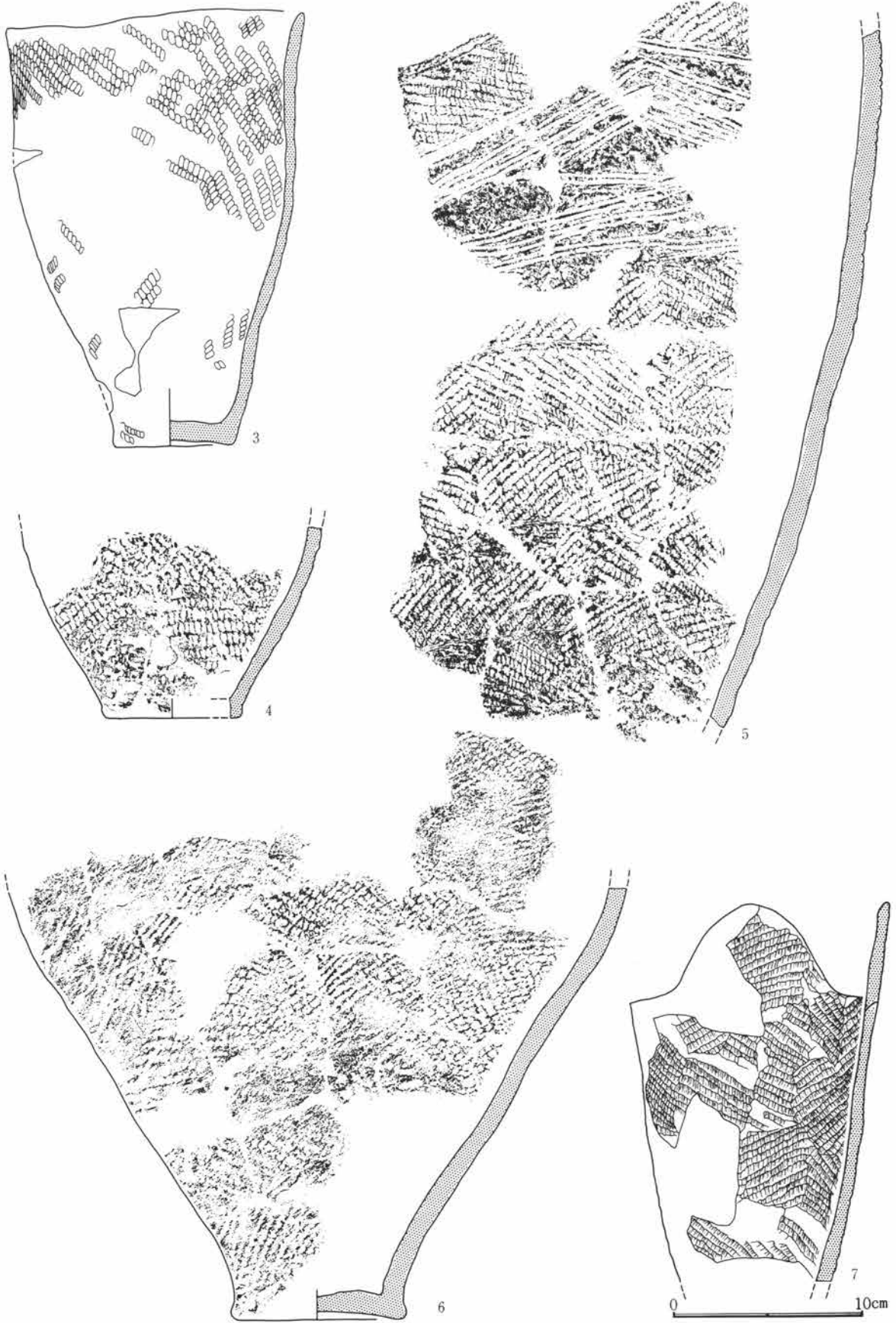
第2章 検出された遺構と遺物



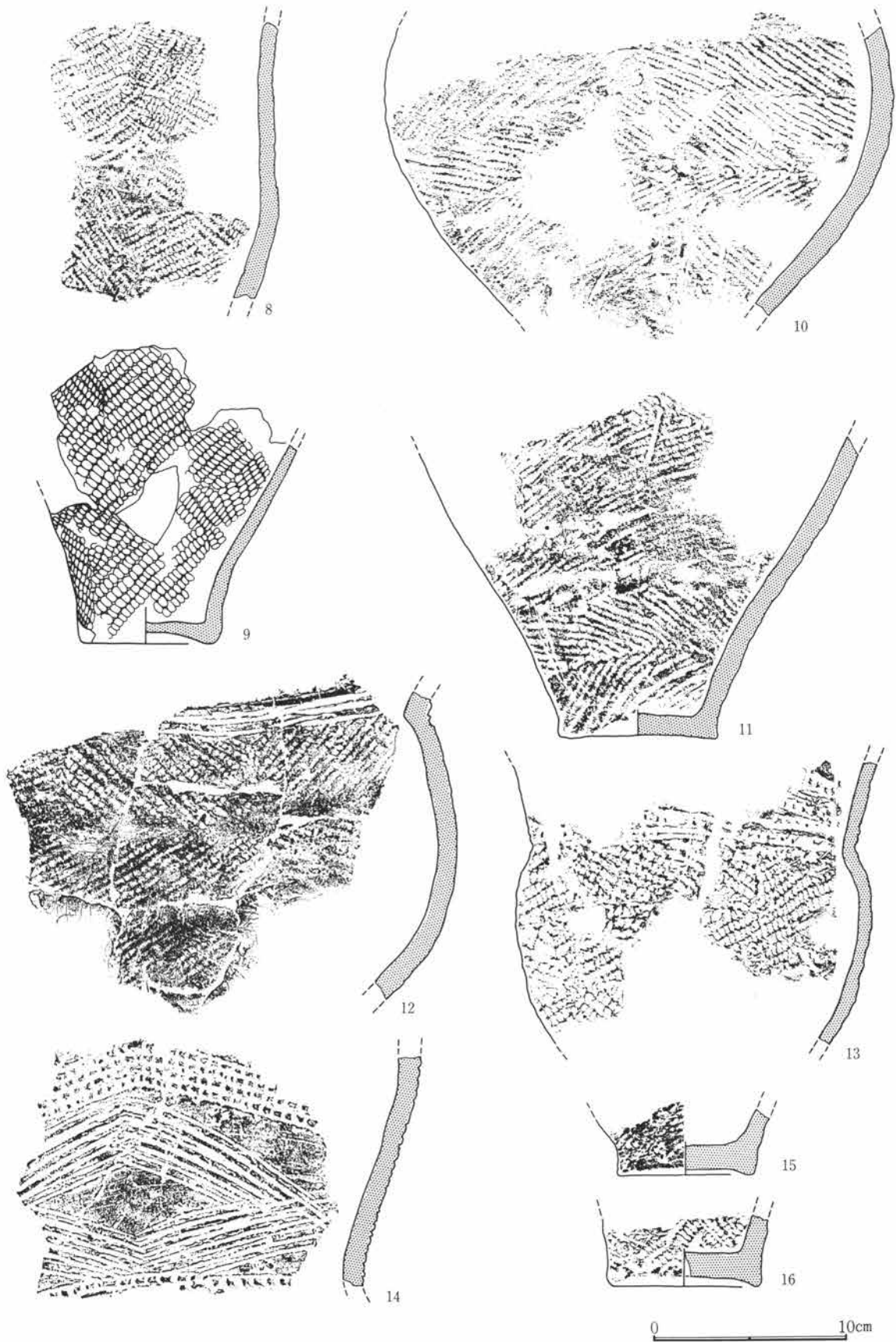
第33図 10号住居跡



第34図 10号住居跡出土遺物(1)



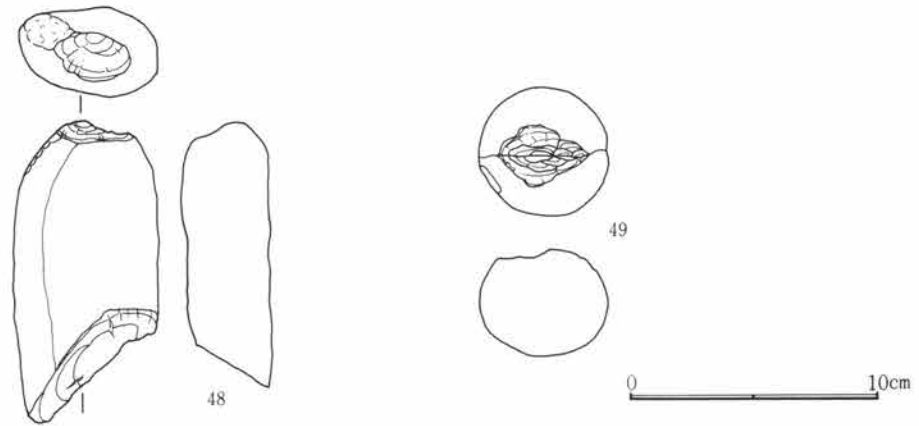
第35図 10号住居跡出土遺物(2)



第36図 10号住居跡出土遺物(3)



第37図 10号住居跡出土遺物(4)

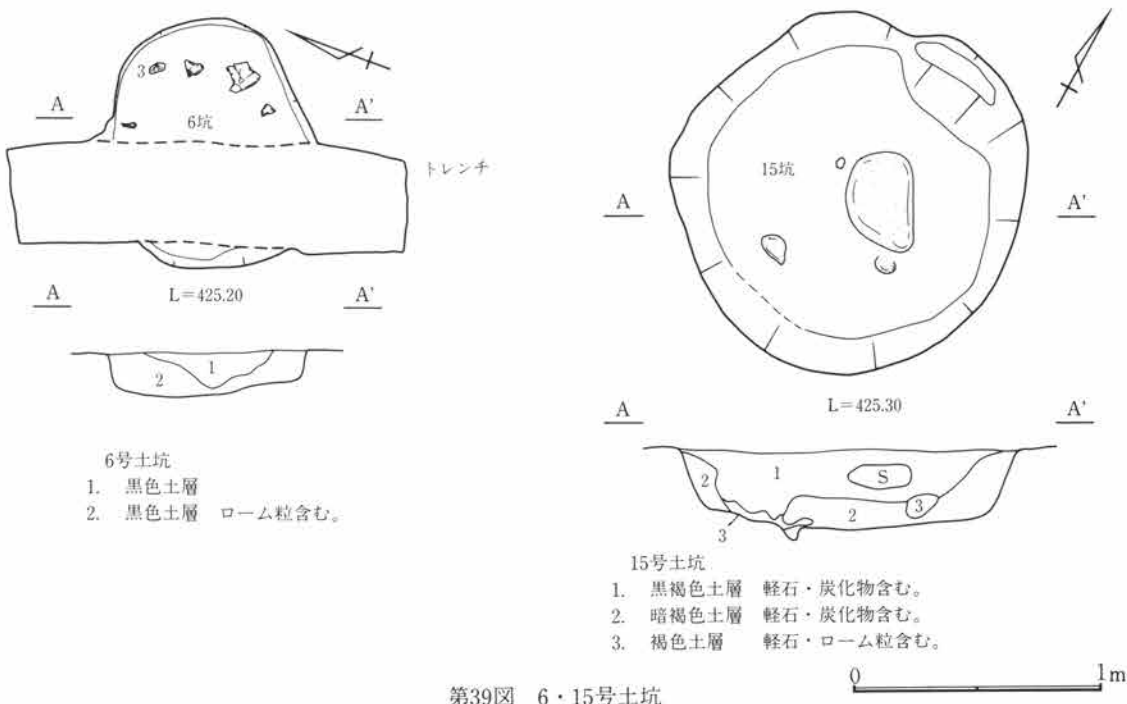


第38図 10号住居跡出土遺物(5)

第2節 土 坑

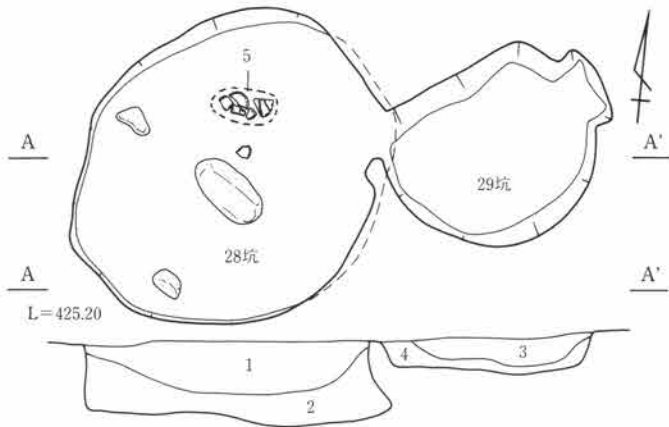
(第39～56図、P.L. 7～18・35～40)

下牧小竹遺跡では土坑114基が検出されている。遺跡内ほぼ全域にわたって検出された。この中でやや大型のもの、あるいは土坑内に平らなやや大型の石を伴うものがある。また遺跡地ほぼ中央部から西の部分は発掘調査の段階で断面を見たところローム面が低くなり、黒土が堆積している部分が認められていた。縄文土器が表面に認められるため、住居跡等の遺構が想定されたが中央部にトレンチをいれ断面確認後、調査した。最終的には黒土をすべて除去した結果表面から約20cmの間に縄文土器片が出土したが、さらに下部からは遺構、遺物ともに出土は認められなかった。このため中央部包含層とし、出土した遺物は土坑出土遺物、表採遺物とともに本節に掲載した。



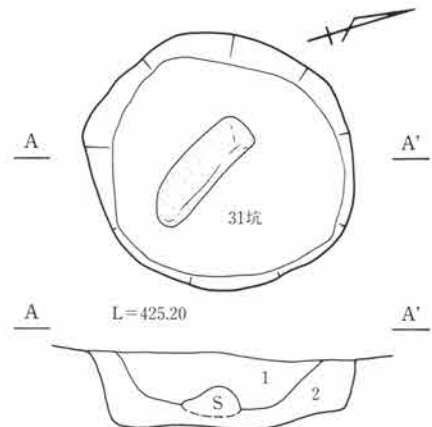
第39図 6・15号土坑

第2節 土 坑



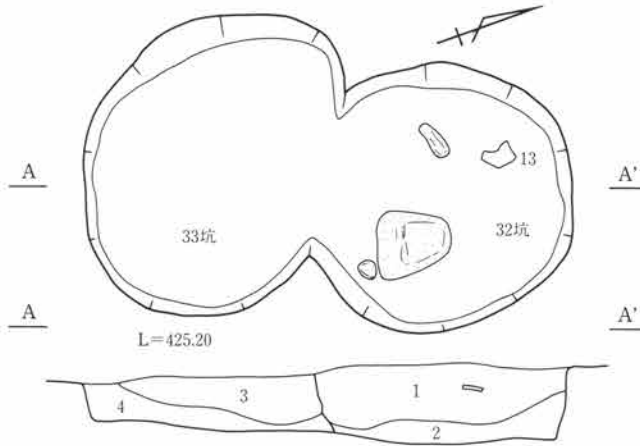
28・29号土坑

1. 黒褐色土層 軽石・ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。
3. 暗褐色土層 軽石・ローム粒多量含む。
4. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



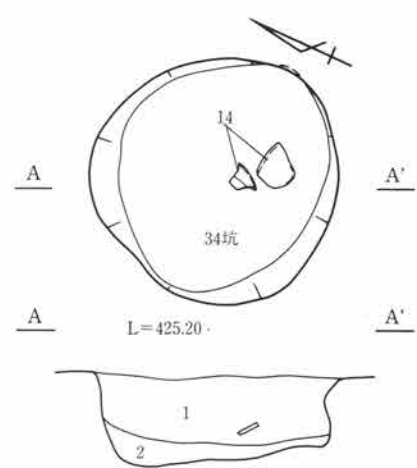
31号土坑

1. 黒褐色土層 軽石・ローム粒少量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



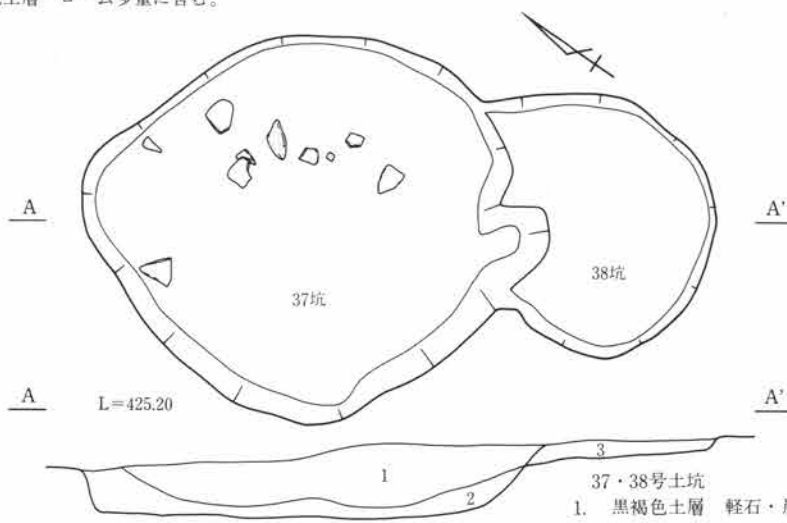
32・33号土坑

1. 黒褐色土層
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。
3. 黒褐色土層 軽石含む。
4. 黒褐色土層 ローム多量に含む。



34号土坑

1. 黒褐色土層 軽石粒多量含む。
2. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



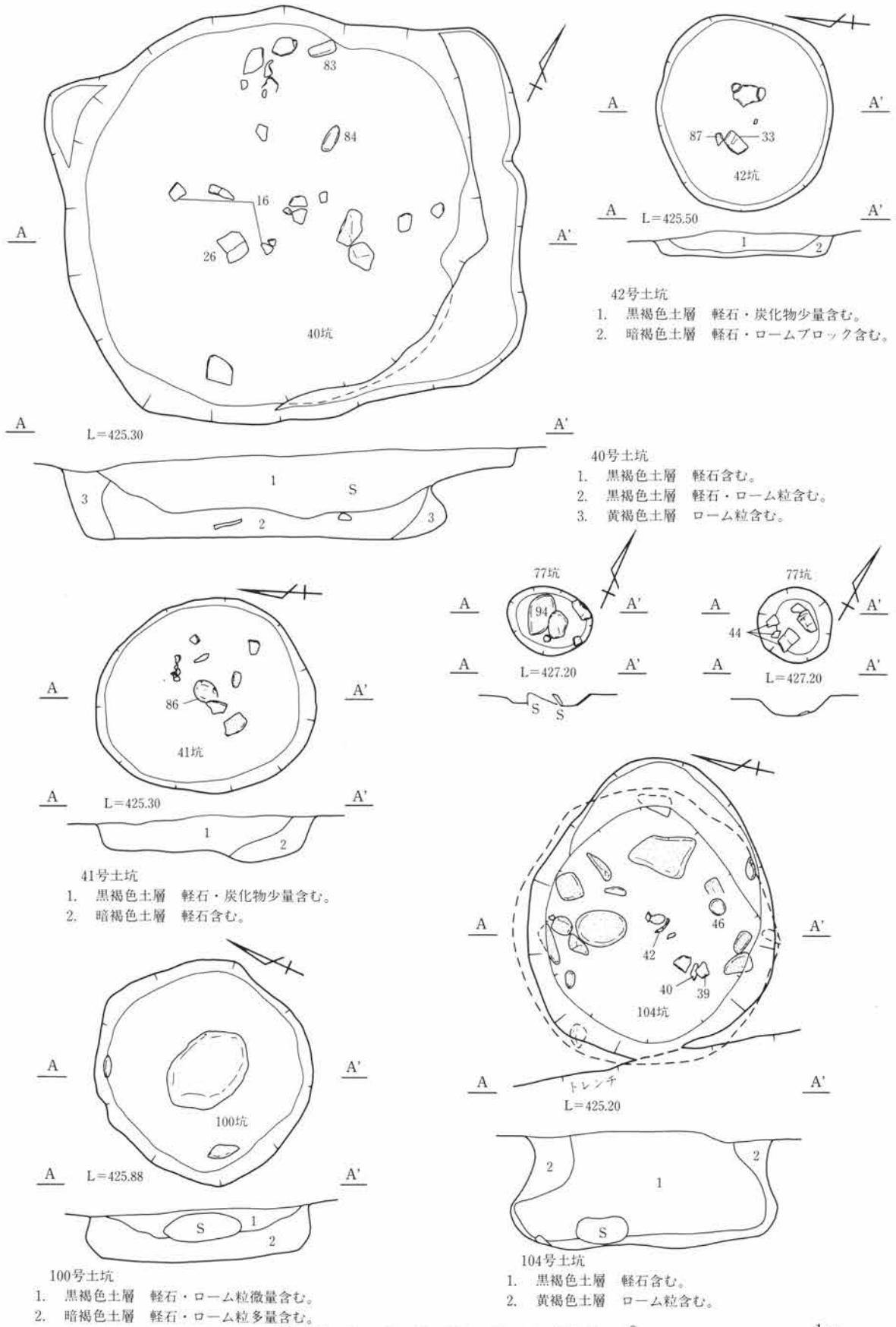
37・38号土坑

1. 黒褐色土層 軽石・炭化物少量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。
3. 暗褐色土層 ロームブロック含む。

第40図 28・29・31・32・33・34・37・38号土坑

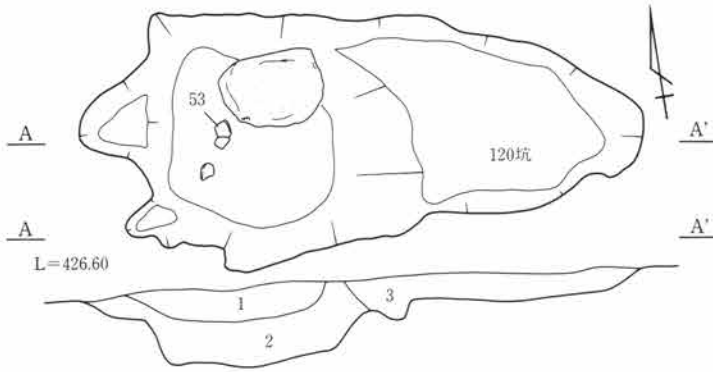
0 1m

第2章 検出された遺構と遺物



第41図 40・41・42・77・100・104号土坑

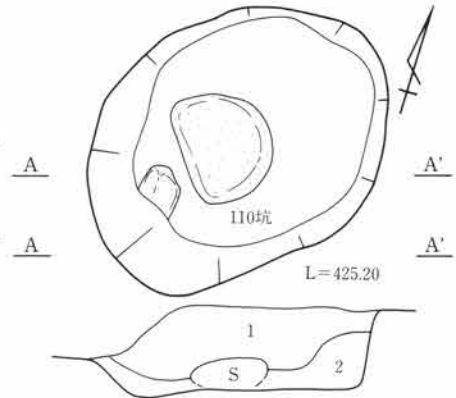
第2節 土 坑



L=426.60

120号土坑

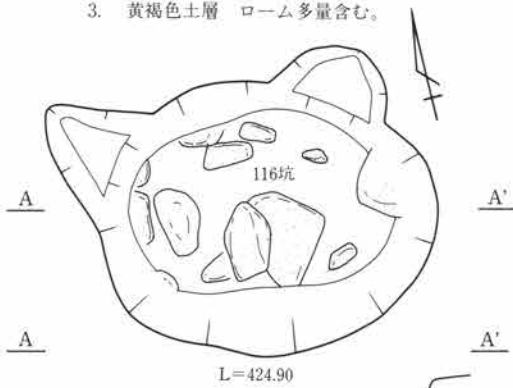
1. 黒褐色土層 軽石含む。
2. 暗褐色土層 ローム含む。
3. 黄褐色土層 ローム多量含む。



L=425.20

110号土坑

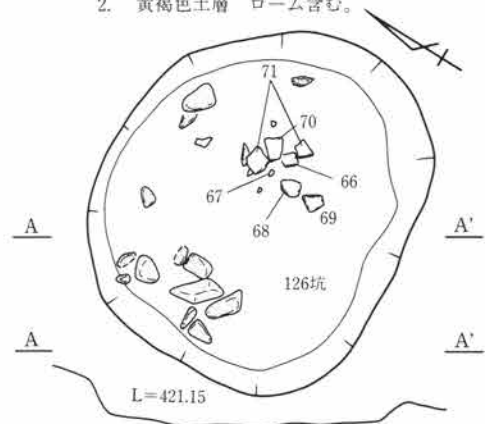
1. 黒褐色土層
2. 黄褐色土層 ローム含む。



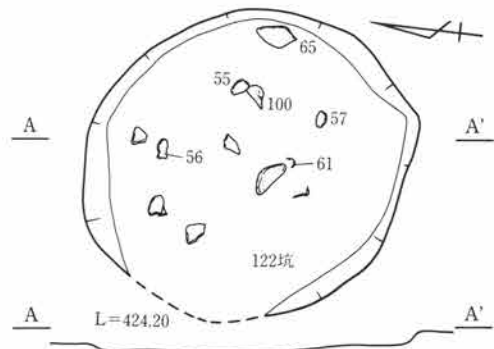
L=424.90

116号土坑

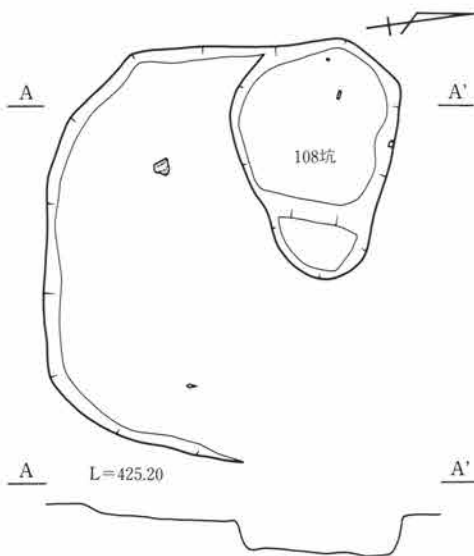
1. 黒褐色土層



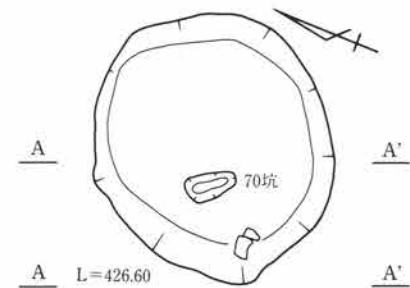
L=421.15



L=424.20



L=425.20



L=426.60

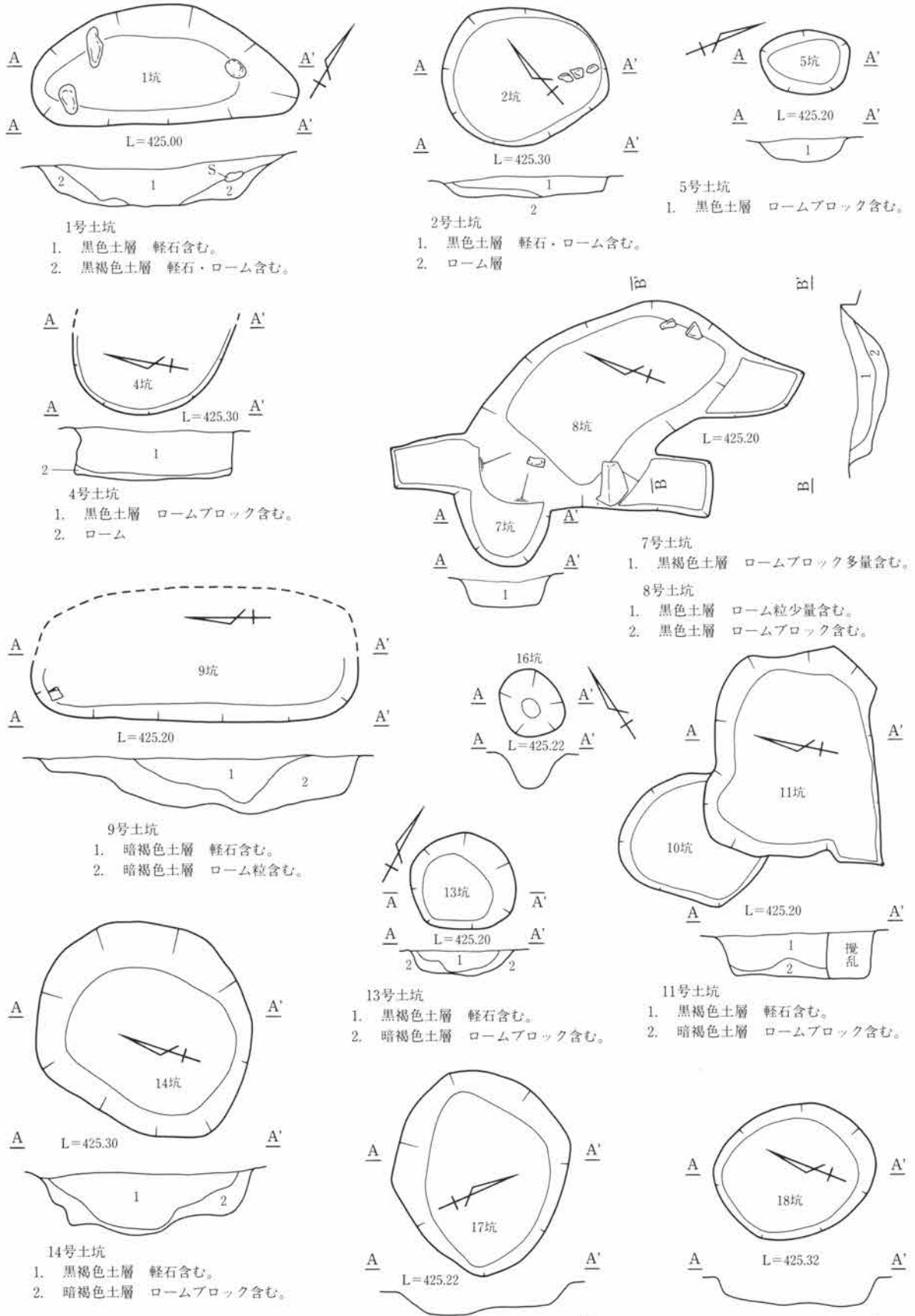
70号土坑

1. 暗褐色土層 軽石・炭化物含む。

第42図 70・108・110・116・120・122・126号土坑

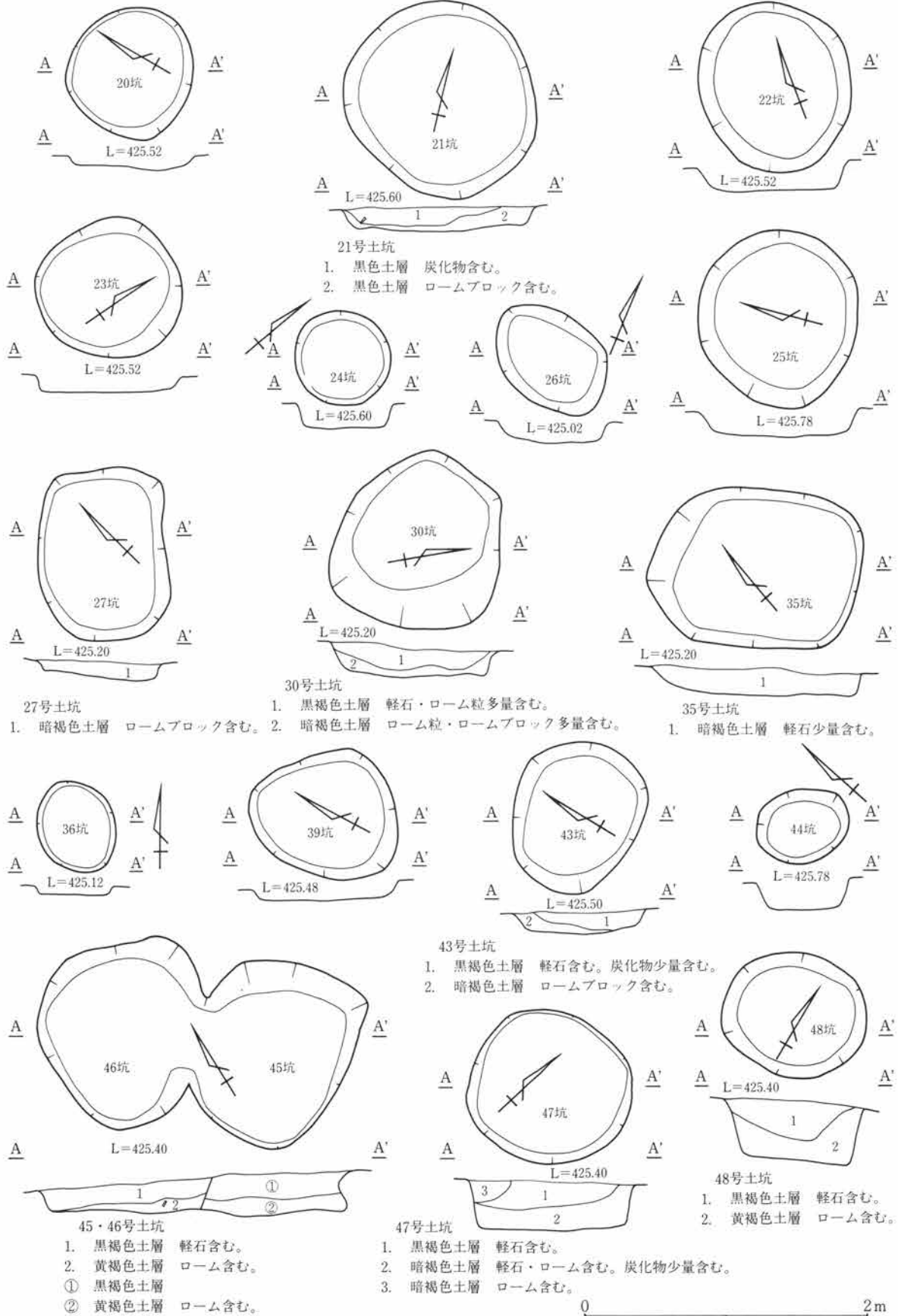
0 1m

第2章 検出された遺構と遺物



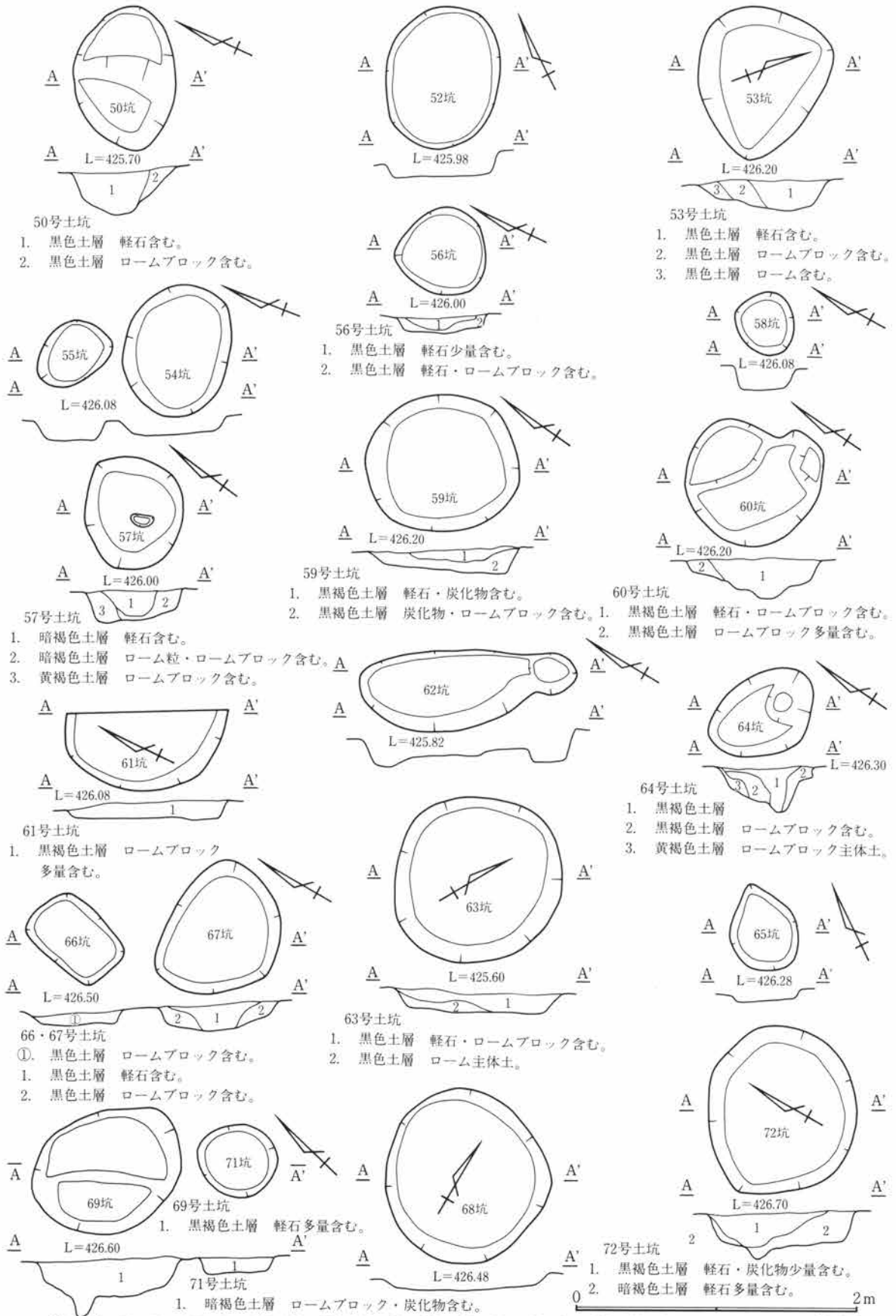
第43図 1・2・4・5・7・8・9・10・11・13・14・16・17・18号土坑

第2節 土 坑

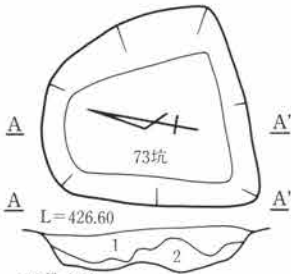


第44図 20・21・22・23・24・25・26・27・30・35・36・39・43・44・45・46・47・48号土坑

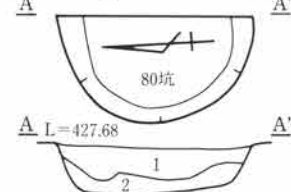
第2章 検出された遺構と遺物



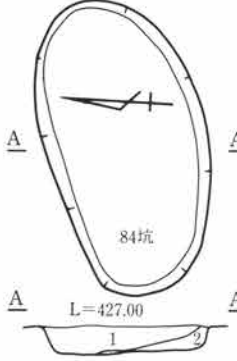
第45図 50・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・71・72号土坑



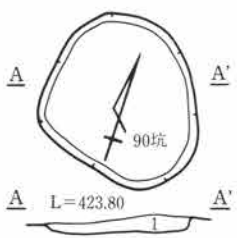
73号土坑
1. 黒色土層 軽石含む。
2. 黒色土層 ロームブロック含む。



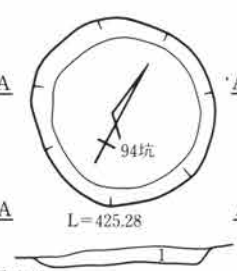
80号土坑
1. 黒褐色土層 ローム粒微量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



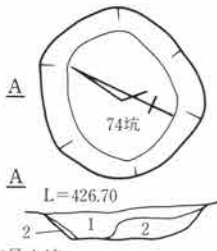
84号土坑
1. 黒色土層 軽石含む。
2. 黒色土層 ロームブロック含む。



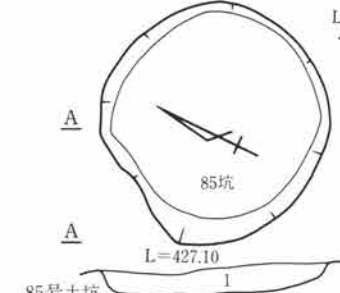
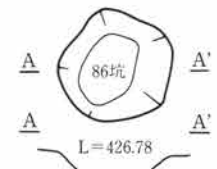
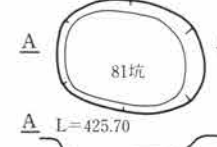
90号土坑
1. 黒褐色土層 ロームブロック多量含む。



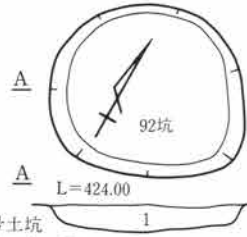
94号土坑
1. 暗褐色土層 軽石・ロームブロック含む。



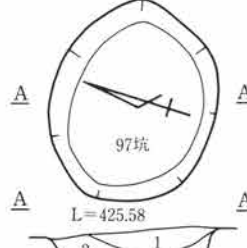
74号土坑
1. 黒色土層
2. 黒色土層 軽石・ロームブロック含む。



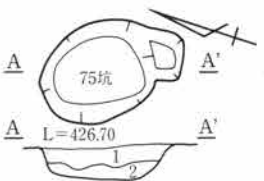
85号土坑
1. 黒褐色土層 軽石少量・ロームブロック含む。



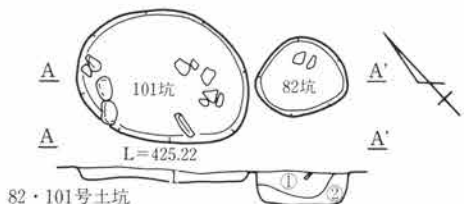
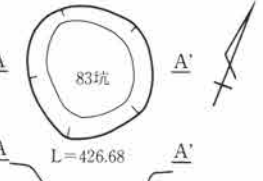
92号土坑
1. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック少量含む。



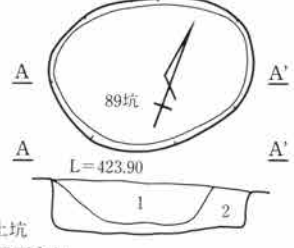
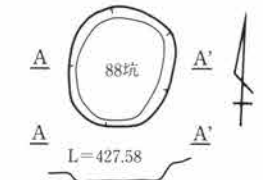
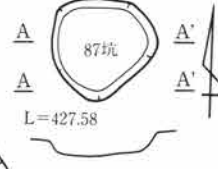
97号土坑
1. 黒褐色土層 軽石微量含む。
2. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



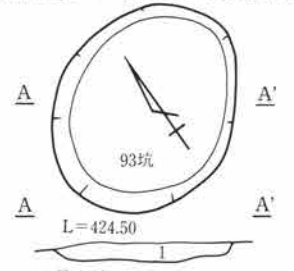
75号土坑
1. 暗褐色土層 軽石・ロームブロック含む。
2. 黒褐色土層 軽石含む。



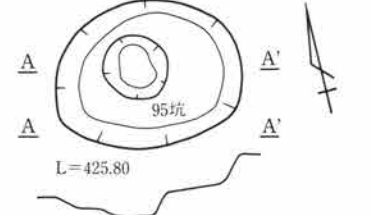
82・101号土坑
①. 黒褐色土層 ローム粒微量含む。
②. 暗褐色土層 ロームブロック含む。
1. 暗褐色土層 ローム粒・ロームブロック多量含む。



89号土坑
1. 黒褐色土層 軽石含む。
2. 黒褐色土層 軽石含む。ロームブロック多量含む。



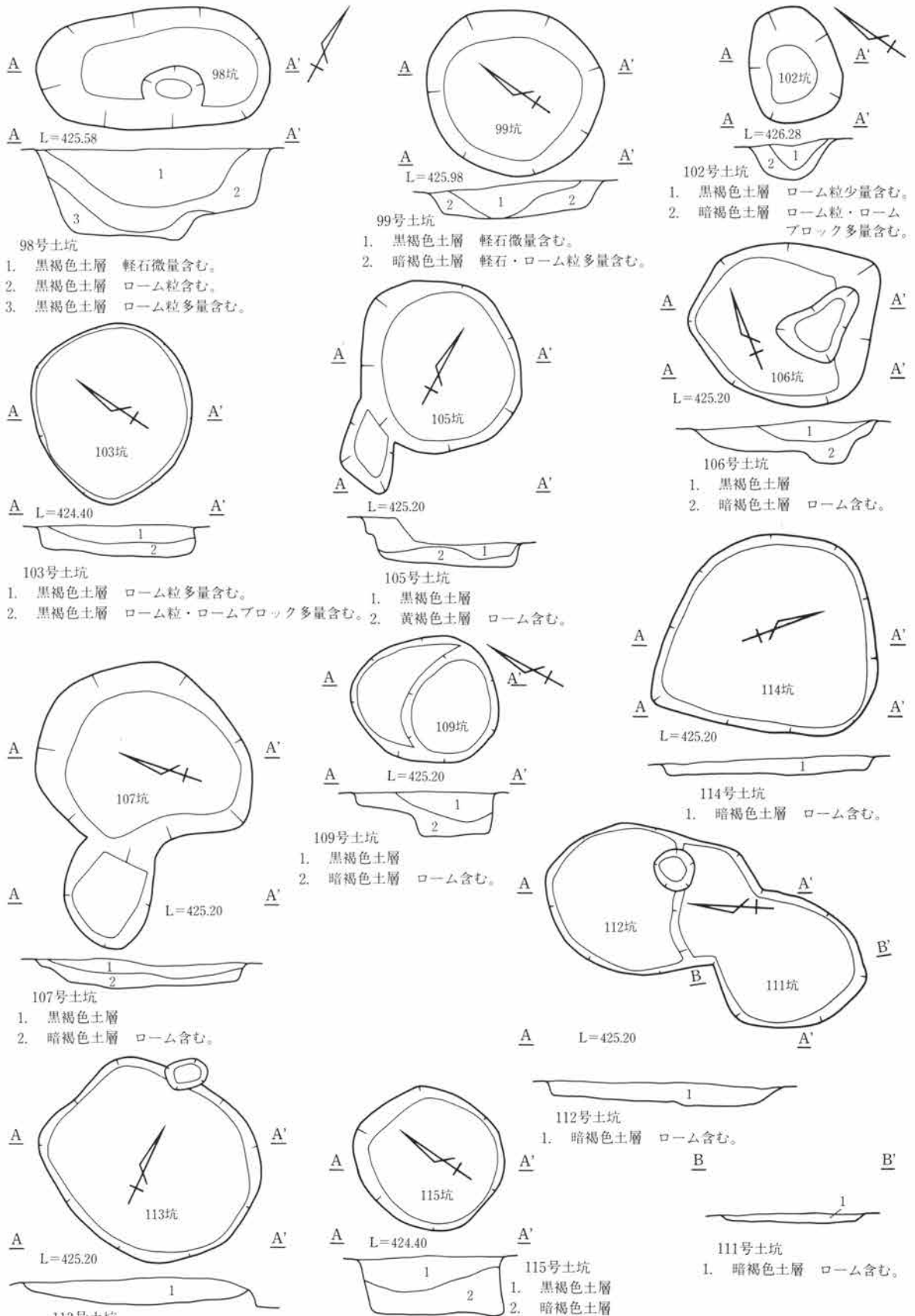
93号土坑
1. 黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック少量含む。



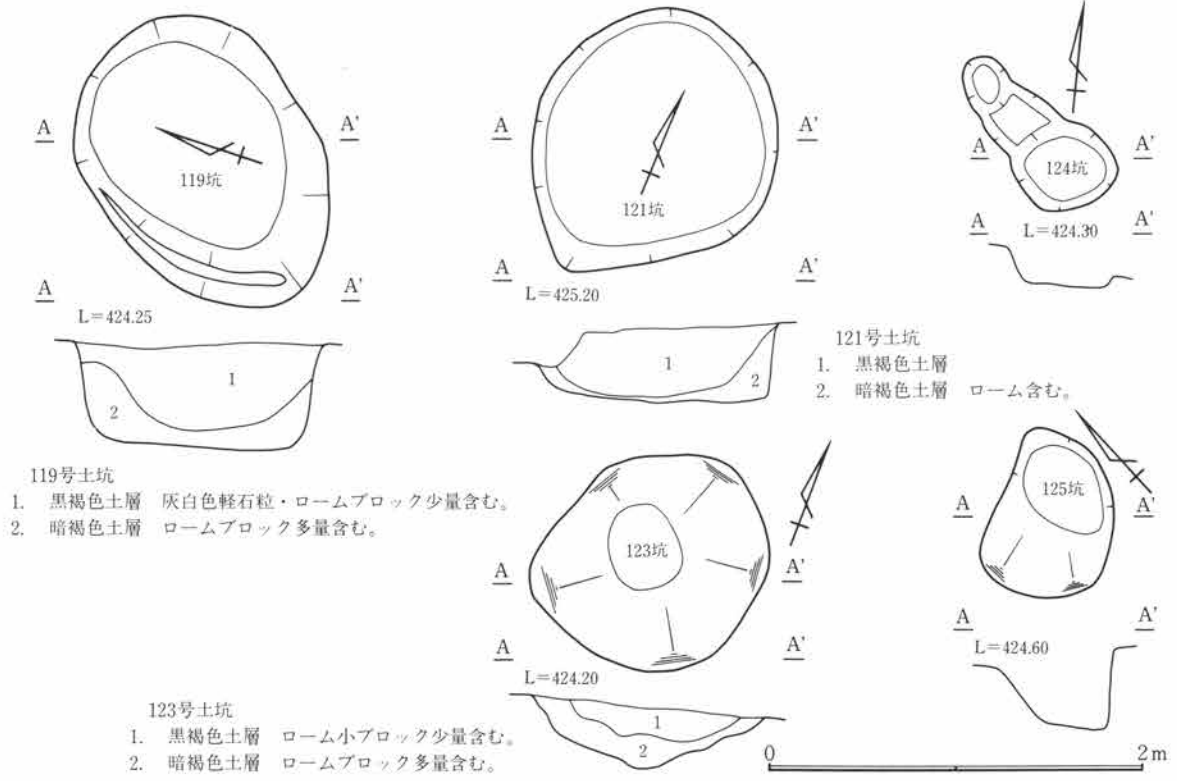
0 2m

第46図 73・74・75・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・92・93・94・95・97・101号土坑

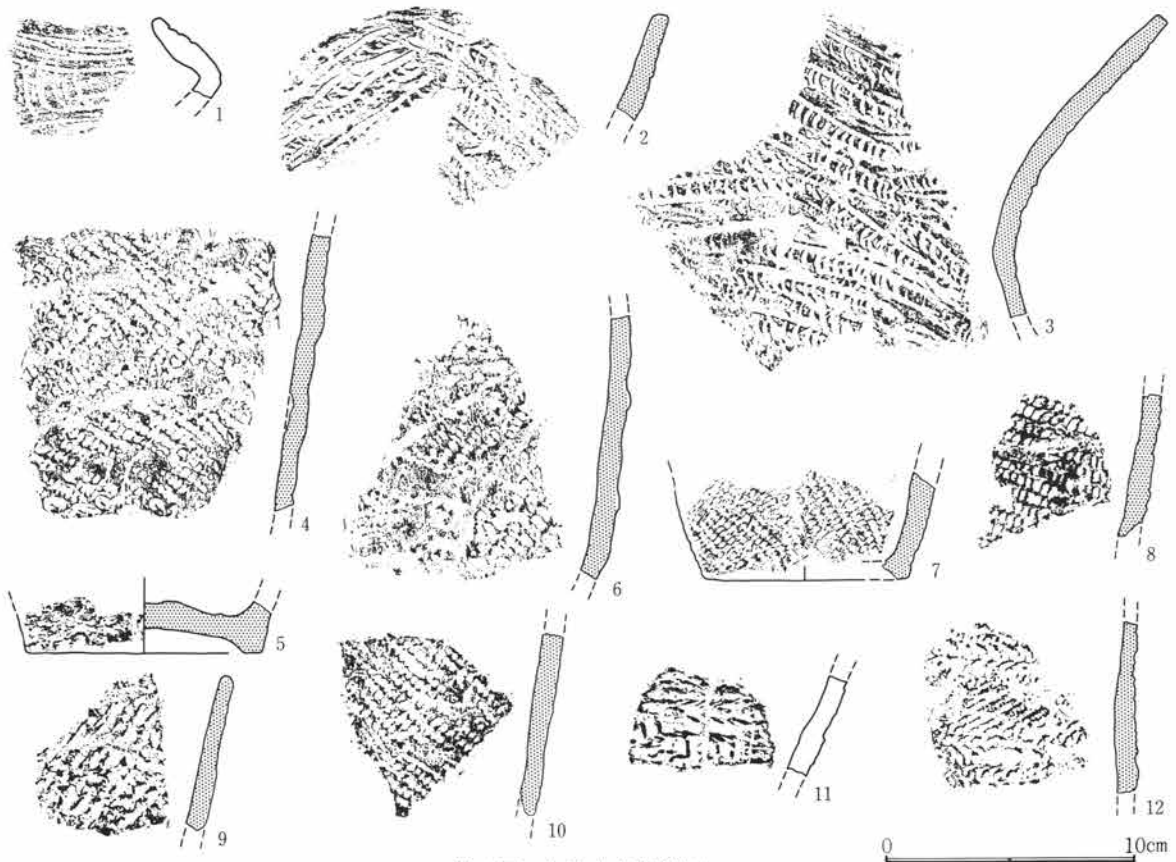
第2章 検出された遺構と遺物



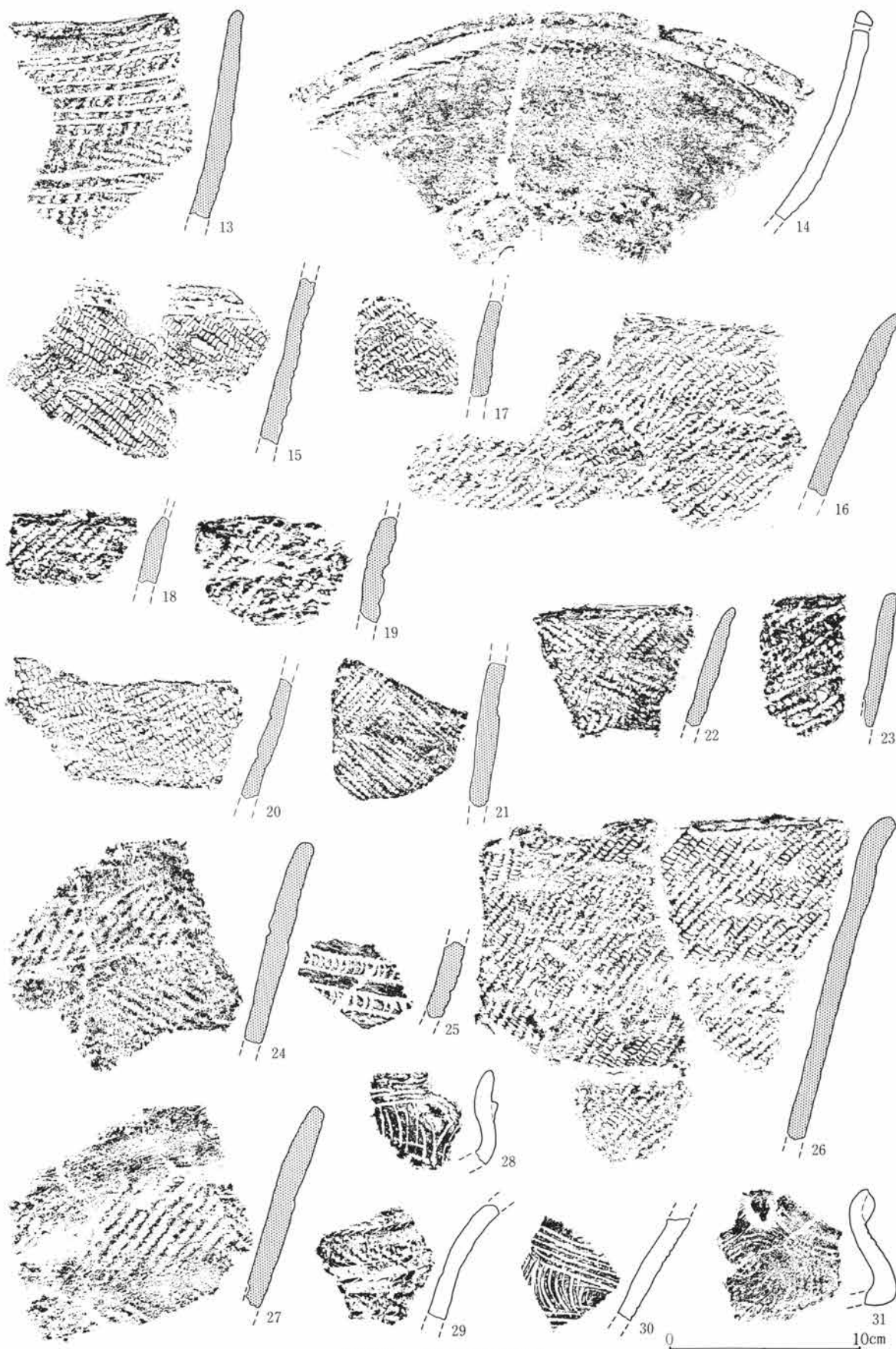
第47図 98・99・102・103・105・106・107・109・111・112・113・114・115号土坑



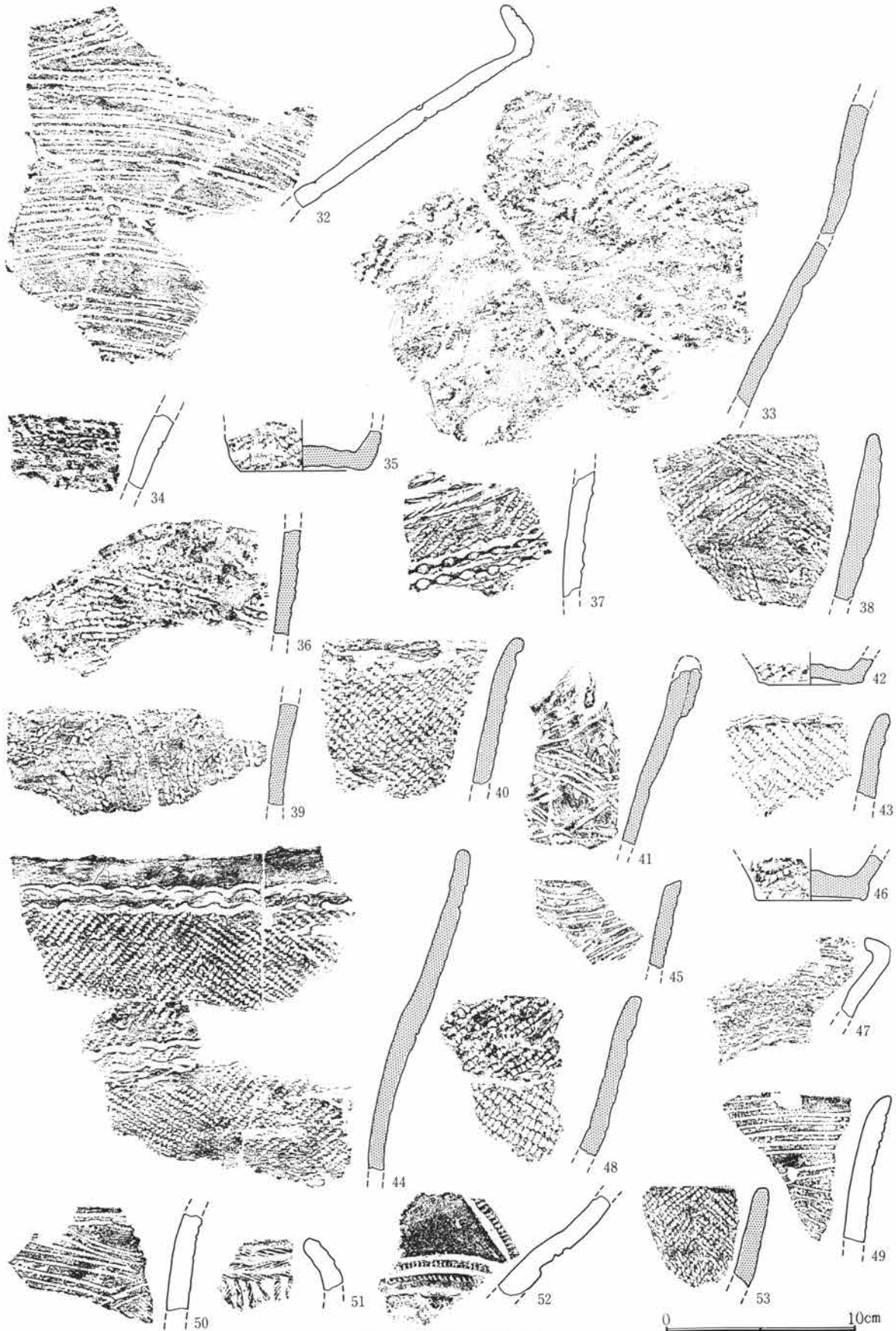
第48図 119・121・123・124・125号土坑



第49図 土坑出土遺物(1)

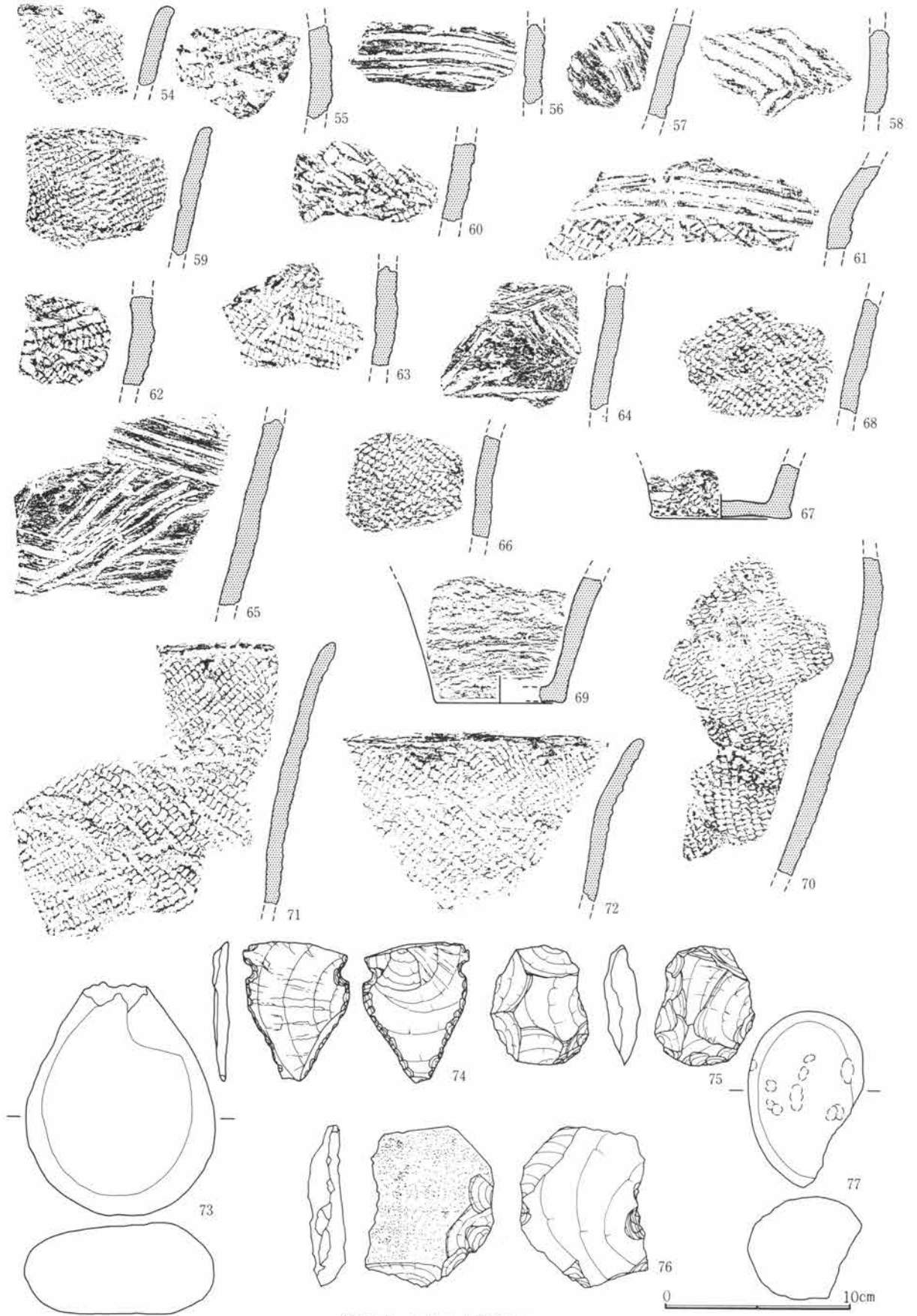


第50図 土坑出土遺物(2)

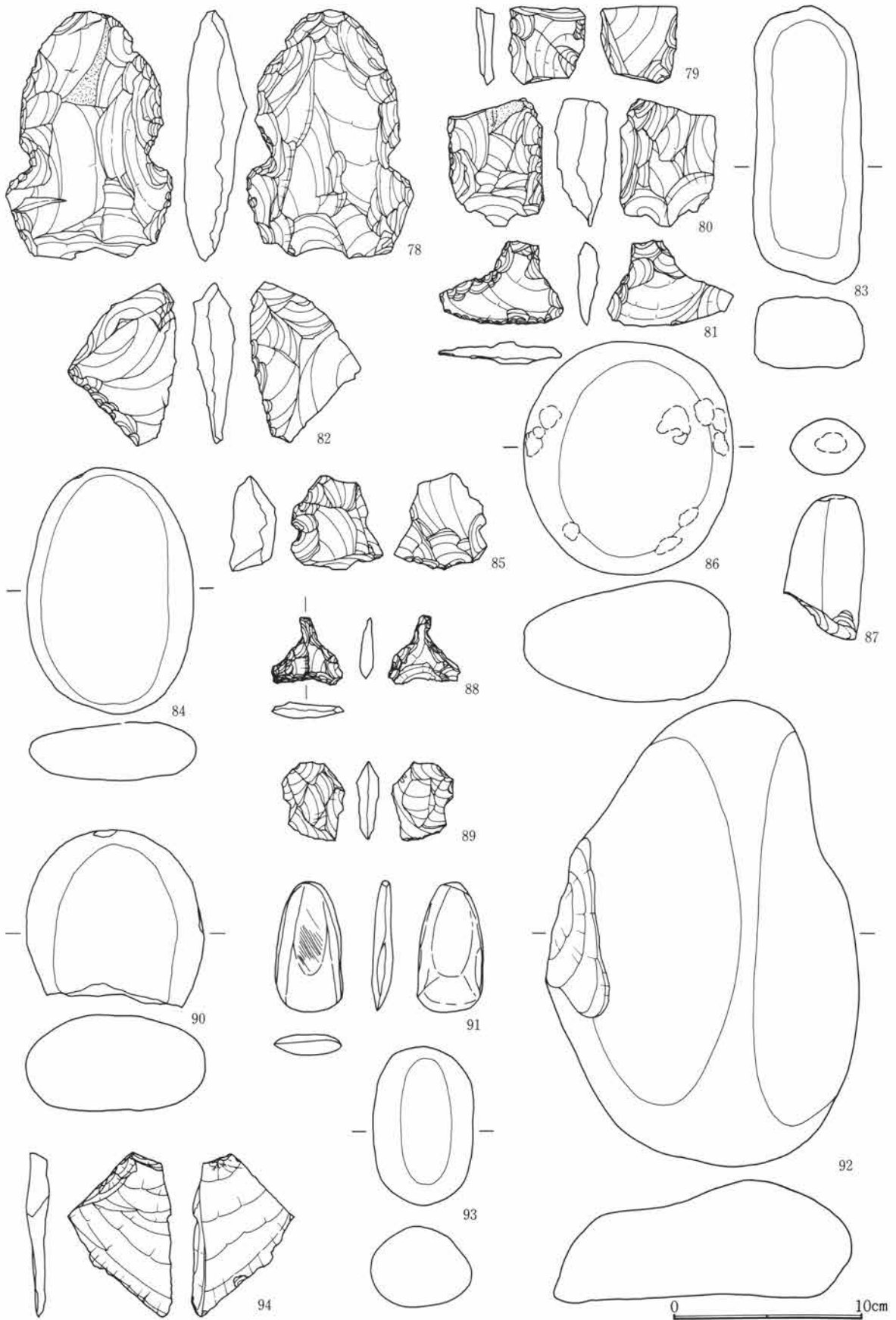


第51圖 土坑出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物

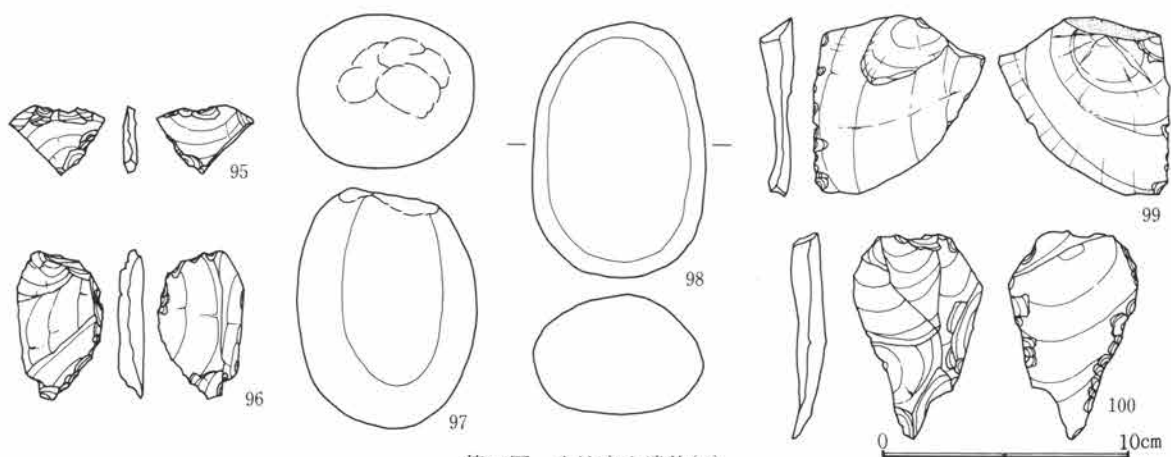


第52図 土坑出土遺物(4)

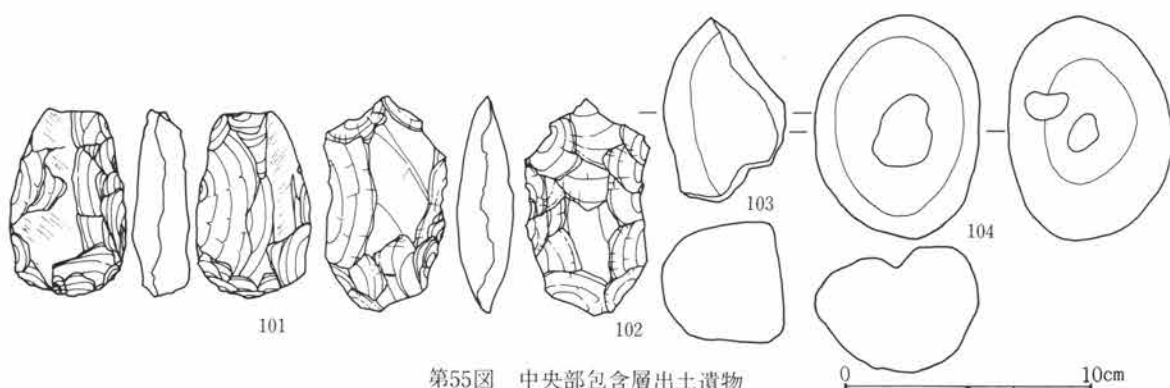


第53図 土坑出土遺物(5)

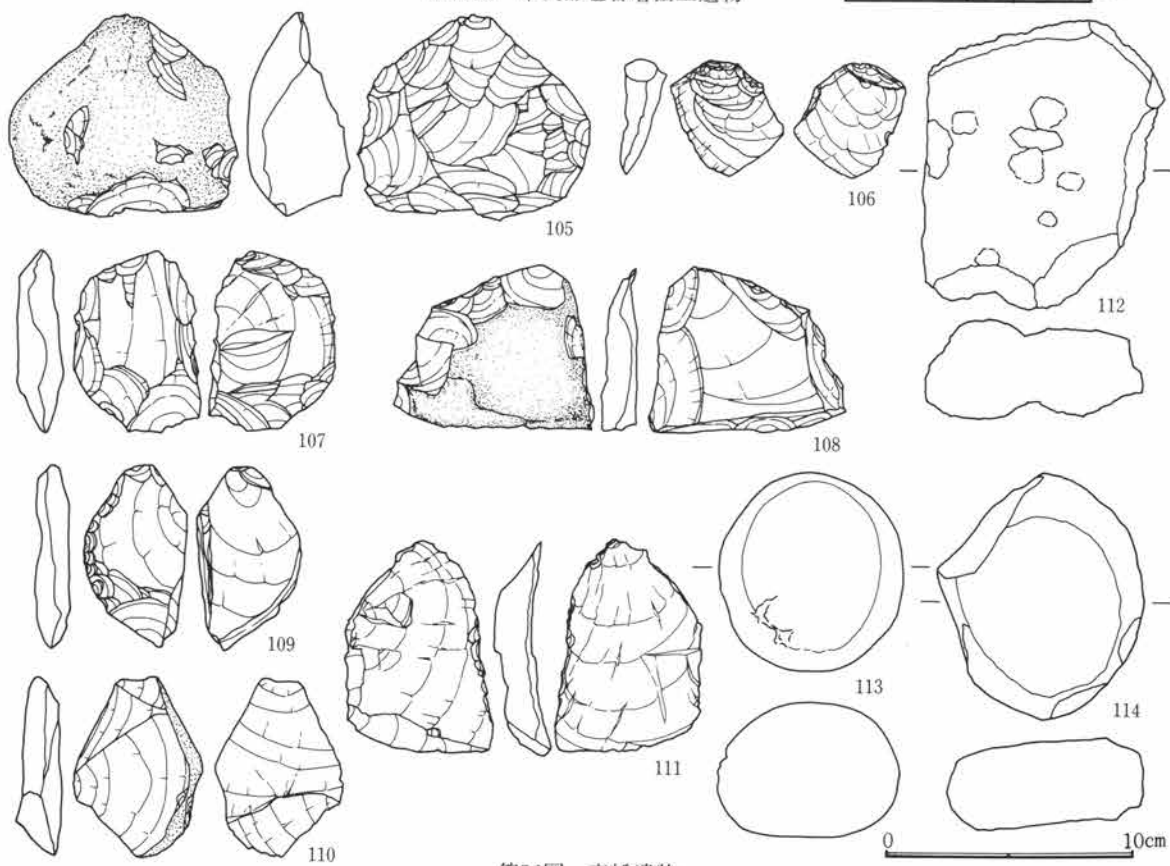
第2章 検出された遺構と遺物



第54図 土坑出土遺物(6)



第55図 中央部包含層出土遺物



第56図 表採遺物

第3節 遺物観察表

土坑番号	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	土坑番号	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	土坑番号	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)
1	180	130	27	42	100	92	12	85	129	121	13
2	114	91	14	43	108	91	16	86	67	59	14
4	114	—	31	44	66	50	21	87	54	51	11
5	60	41	17	45	131	108	29	88	63	56	7
6	90	80	18	46	139	131	22	89	111	89	28
7	73	—	17	47	118	107	33	90	93	85	10
8	193	111	23	48	100	85	43	92	103	97	16
9	228	113	39	50	103	71	29	93	114	97	9
10	93	—	—	52	98	79	17	94	99	97	9
11	139	126	29	53	106	91	21	95	97	79	32
13	75	69	15	54	90	76	8	97	105	87	19
14	156	137	43	55	51	40	13	98	161	81	66
15	150	140	30	56	63	58	10	99	121	113	23
16	49	41	23	57	78	71	29	100	120	117	26
17	139	127	17	58	48	38	19	101	47	39	6
18	113	91	19	59	108	93	17	102	79	60	21
20	93	87	9	60	98	89	29	103	116	107	20
21	137	119	17	61	113	—	13	104	162	130	60
22	119	107	17	62	163	56	21	105	117	110	15
23	102	95	13	63	119	119	14	106	136	128	29
24	68	67	17	64	80	58	31	107	151	128	19
25	121	115	19	65	65	43	11	108	170	140	14
26	95	63	13	66	63	46	9	109	106	86	31
27	118	90	11	67	97	79	19	110	130	104	33
28	130	125	32	68	121	117	14	111	135	98	13
29	95	72	15	69	108	88	41	112	100	93	7
30	132	116	22	70	108	94	24	113	153	137	18
31	110	100	30	71	106	93	21	114	167	129	12
32	110	90	22	72	119	104	33	115	103	92	39
33	125	100	30	73	110	106	17	116	163	110	—
34	100	100	32	74	90	83	18	119	167	117	27
35	150	107	19	75	78	47	16	120	230	100	31
36	62	55	7	77	48	34	22	121	149	128	39
37	186	154	30	80	106	—	23	122	136	130	—
38	108	70	8	81	80	58	11	123	128	112	31
39	107	89	11	82	93	71	17	124	98	45	15
40	250	220	48	83	69	65	16	125	85	52	41
41	115	106	14	84	154	88	17	126	148	123	13

第2章 検出された遺構と遺物

遺構名	打 斧	磨 斧	石 匙	石 錐	削 器	石 核	加工痕の ある剥片	使用痕の ある剥片	敲 石	磨 石	凹 石	礫	剥 片
1号住居跡	1										2		8
2 //				1									1
3 //	1												
4 //	3					4	5	6		3		2	9
5 //							2	6	1			2	13
7 //		1			3		11	6	4	2			10
8 //	3		1		2	1	10	2		1			4
9 //							2	1	1				1
10 //							2	5	1			1	6
15号土坑													
18 //			1							1			
21 //													1
28 //							1						
30 //							1						
32 //										1			1
35 //	1												
37 //													2
38 //							1						
40 //	1		1				1		1	1			
41 //							1			1			1
42 //		1											
44 //				1				1					
46 //										1			
77 //		1										1	
103 //												1	
104 //								1					3
108 //													3
115 //							2					1	4
119 //												1	
120 //								1					
122 //								1					
126 //													1
包含層 表 採		1					2			1	2	1	1
計	10	4	3	2	5	6	44	32	8	12	4	11	71
													212

第3節 遺物観察表

2号住

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴
4-1 PL-19	土師器 坏	1 完形	口-12.9 高-8.1	黒・白色鉾物 混入	良好	にぶい橙 色	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面ナデ後ミガキ、口縁部外反し、内面黒色。
4-2 PL-19	土師器 坏	2 完形	口-12.3 高-7.8	黒色鉾物混入	良好	橙 色	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面ミガキ、口縁部外反し、内面黒色。
4-3 PL-19	土師器 坏	3 完形	口-13.2 高-4.8	白色鉾物混入	良好	にぶい橙 色	口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、底部ヘラケズリ、内面ミガキ、黒色、口縁部弱く外反。
4-4 PL-19	土師器 坏	覆土 完形	口-12.6 高-5.4	白色粒混入	良好	橙 色	口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、下位ヘラケズリ、内面ミガキ、黒色、口縁部短く外反。
4-5 PL-19	土師器 坏	5 完形	口-10.2 高-6.6	白色粒含む	良好	にぶい橙 色	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面ミガキ、黒色、口縁部短く外湾する。

1号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
6-1 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒多く含み、 器面ザラつく	にぶい赤 褐色	口縁部外反し、口唇部はくの字状に内折する。文様は太目の沈線で斜走、弧状の構成をもち、口唇部外面にも横走線が加えられる。	諸磯b									
6-2 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒多く含む	にぶい褐 色	口縁部外反し、口唇部はくの字状に内折する。平行線文は深く明瞭で幅広(5mm)。縄文は認められない。	諸磯b									
6-3 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、堅 緻	にぶい橙 色	くの字状に内折する口唇部にわずかに湾曲が認められ、ゆるやかな波状口縁の可能性がある。平行線による横走文間に縦位沈線。	諸磯b									
6-4 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含む	にぶい褐 色	輪積部にて剝離。波状口縁頂部に折り返し状の小突起が付される。平行線により渦状、弧状文が加えられるが、施文はやや雑である。	諸磯b									
6-5 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒多く含み、 器面ザラつく	にぶい赤 褐色	口唇部わずかに外反する。文様は不明瞭であるが、平行線により斜行、三角状の区画文が加えられる。縄文は認められない。	諸磯b									
6-6 PL-19	深鉢	6 口縁部	砂粒多く含み、 器面ザラつく	にぶい赤 褐色	内面に炭水物付着。器面に幅2mm程度の不規則な平行線文が加えられるが、極めて不明瞭。	諸磯b									
6-7 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒多く含み、 焼成堅緻	にぶい赤 褐色	口唇部はくの字状に内折し、ゆるやかな波状口縁を呈す。平行線は深く明瞭で、屈曲部に梯子状平行線を加える。縄文はRL横位。	諸磯b									
6-8 PL-19	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器 面ざらつく	褐色	波状口縁頂部に貼付文。文様は幅5mmの平行線により加えられ、貼付文下部に渦状、口縁に沿って平行線、頸部に波状文を施文。	諸磯b									
6-9 PL-19	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成は堅緻	にぶい橙 色	幅5mmの平行線文が横走する。施文はやや粗雑で、部分的に不明瞭。縄文は認められない。	諸磯b									
6-10 PL-19	深鉢	10 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい橙 色	幅5mmの平行線文により、横走、波状文が交互に施される。施文は粗雑で、波状文は起伏が不規則となる。縄文は認められない。	諸磯b									
6-11 PL-19	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成は堅緻	にぶい橙 色	平行線は幅3mmで施文は深く明瞭、横走、波状文が交互に施される。器面は平滑で縄文は加えられない。	諸磯b									
6-12 PL-19	深鉢	12 胴部	砂粒多く含み、 器面ザラつく	にぶい赤 褐色	器面には不明瞭ながらRL横位が施される。他文様は認められない。	諸磯b									
6-13 PL-19	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成やや軟質	にぶい橙 色	浮線文は偏平で器体とは色調がやや異なる。刻目はヘラ状工具により、浮線間に円形が一行横走する。縄文はRL横位。	諸磯b									
6-14 PL-19	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成はやや軟質	にぶい橙 色	浮線文は偏平でやや不明瞭な部分もある。浮線には刻目が加えられ、浮線に沿って刺突文も加えられる。縄文はRL横位。	諸磯b									
6-15 PL-19	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成は堅緻	にぶい褐 色	器内外面とも器面調整良好。浮線文は細く、貼付は丁寧で刻目は鋭いが、器面にまで及ぶ部分もある。縄文はRL横位が施される。	諸磯b									
6-16 PL-20	深鉢	16 胴部	砂粒含み、焼 成はやや軟質	にぶい橙 色	浮線状のわずかな隆起部に斜位の刻目が加えられ、両側に丸棒状の刺突文が施される。文様は全体的にやや不明瞭。	諸磯b									
6-17 PL-19	浅鉢	覆土 胴部	細砂含み、焼 成は堅緻	にぶい褐 色	器内外面とも整形良好で、平滑面が形成される。文様、縄文等の施文は認められないが、一部に赤色塗彩の可能性はある。	諸磯b									
6-18 PL-20	深鉢	覆土 底部	砂粒含む	にぶい橙 色	平行線は幅4mmで、施文は深く明瞭、縄文は極めて不明瞭であるが、RL横位が部分的に観察される。	諸磯b									
6-19 PL-20	深鉢	19 底部	砂粒含み、焼 成はやや軟質	にぶい橙 色	浮線文は偏平で、矢羽根状の刻目が加えられる。浮線間には丸棒状の刺突文が加えられる。縄文は認められない。	諸磯b									
6-20 PL-20	浅鉢	覆土 胴部	細砂含み、焼 成は堅緻	にぶい褐 色	浅鉢胴下半部で、上位に稜が認められる。器内外面とも整形良好で文様は加えられない。17と同一個体の可能性がある。	諸磯b									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	7-21	覆土	打斧	8.7	5.8	1.3	75.0	黒頁
7-22	22	凹石	9.1	7.6	4.0	346.0	石閃	7-23	23	凹石	9.8	7.5	4.8	485.2	溶凝

第2章 検出された遺構と遺物

3号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
9-1 PL-20	深鉢	1 胴部	砂粒含み、焼成は良好	にぶい橙色	胴部は円筒状で、頸部から外反ぎみに開く深鉢、縄文は最終段R横位とみられるが、節・条に不規則な部分があり3段の可能性。	諸磯b									
9-2	深鉢	覆土 胴部	含繊維、焼成は堅緻	灰褐色	一部に沈線文が認められる縄文片、胎土中の繊維は器外へほとんど露出しない。L L R横位とみられる。	諸磯b									
9-3	深鉢	覆土 胴部	砂粒多く含み器面ザラつく	橙色	胴部に屈曲があり、上位に浮線文、下位にR L横位が施される。浮線上の刻目は丸みをもつ。	諸磯b									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	9-4	覆土	打斧	12.0	6.3	2.6	145.4	黒頁

4号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
11-1 PL-20	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器面ザラつく	明赤褐色	外反する波状口縁に沿って幅3mmの平行線文を施し、波頂部下に弧状文を加える。縄文は認められない。	諸磯b
11-2 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙色	横走する浮線文は偏平で、刻目は斜行し長く器面にも達する。縄文は大半が磨消しているが、一部にR L横位が観察される。	諸磯b
11-3 PL-20	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙色	波状口縁で、口唇部内側にふくらみをもつ。幅5mmの平行線は太く施文は明瞭。口縁に沿って斜行する平行線が三角状に構成。	諸磯b
11-4 PL-20	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼成は堅緻	にぶい橙色	口唇部はくの字状に内折し、丸みをもつ。平行線は幅4mmで横走波状の文様構成がみられる。施文は不規則で、縄文認められない。	諸磯b
11-5 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい橙色	平行線は幅4mmで、一方が強めに施文される傾向がある。縄文は認められない。	諸磯b
11-6 PL-20	深鉢	6 胴部	砂粒含み、焼成良好	灰褐色	幅4mmの平行線文により弧状、横走線文が施される。施文は粗雑でやや不規則、縄文は不明瞭ながらL横位とみられる痕跡がある。	諸磯b
11-7 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成は堅緻	黒褐色	器面調整良好で平滑面を形成する。平行線は幅4mmで施文は深く明瞭、縄文は認められない。	諸磯b
11-8 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	明褐色	平行線は幅4mmで施文は深く明瞭、横走線文帯間にやや不規則な山形状文が施される。縄文は認められない。	諸磯b
11-9	深鉢	覆土 胴部	含繊維、焼成良好	褐色	胎土中の繊維は器外へほとんど露出しない。横位の単一沈線は植物茎を用いた痕跡が残る。縄文はL R横位とみられる。	諸磯b
11-10 PL-20	深鉢	10 胴部	砂粒含み、焼成堅緻	橙色	器内とも整形良好で平滑面を形成する。横位の擦痕面上に長さ1~1.5cmのヘラ状刺突文が斜位に加えられる。	諸磯b
11-11 PL-20	深鉢	11 胴部	砂粒含み、焼成はやや軟質	にぶい橙色	口縁部・底部欠。現高8cm、径14cmで口縁に向って外反ぎみに開く。横位の平行線文は幅5mmで深い施文はやや粗雑。R L横位。	諸磯b
11-12 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成は堅緻	にぶい赤褐色	内外面とも整形良好。浮線文も丁寧で横位、弧状構成部には長く鋭い刻目を加え、斜行交差構成部は無文とする。R L横位施文。	諸磯b
11-13 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい赤褐色	磨耗が多く浮線文上の加飾は不明瞭。一部に刻目が観察される。構成は横位および4状文が施される。縄文は不明。	諸磯b
11-14 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成はやや軟質	明赤褐色	横走する浮線文は偏平で、矢羽根状の刻目が加えられる。縄文は大部分が磨消するが一部にR L横位が観察される。	諸磯b
11-15 PL-20	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成は堅緻	にぶい橙色	浮線文は偏平で、弧状の刻目が加えられることによりさらに低平化する。浮線間に一部ナゾリが認められる。縄文はR L横位施文。	諸磯b
11-16 PL-21	深鉢	覆土 口縁部	砂粒多く含み器面ザラつく	明赤褐色	口縁部がくの字状に内曲する波状口縁。磨耗が著しく浮線文も不明瞭であるが、口縁には渦状、胴部には横位の文様構成をもつ。	諸磯b
11-17 PL-20	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼成良好	明赤褐色	横位の浮線文上に矢羽根状の刻目が加えられる。縄文は不明瞭ながらR L横位が観察される。	諸磯b
11-18 PL-21	浅鉢	18 口縁部?	細砂を含み、焼成良好	明褐色	口縁部がくの字状に短く内折する浅鉢。器面は平滑であるがややザラつく。文様、縄文とも施されない。	諸磯b
11-19 PL-21	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい褐色	横位の連続爪形文間は刻目が加えられる。頸部および上部の連続爪形文帯間には弧状の連続爪形文が構成され、胴下半にR L横位。	諸磯b
11-20 PL-21	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい赤褐色	縄文はR L横位。施文はやや粗く、条間隔が不規則な部分がある。	諸磯b
11-21 PL-21	浅鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成やや軟質	にぶい橙色	内外面とも整形良好で平滑面を形成するが、ややザラつく。文様、縄文とも施されない。	諸磯b
11-22 PL-21	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい橙色	器面は風化が著しく荒れている。文様、縄文とも認められない。	諸磯b

第3節 遺物観察表

番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重g	石 材	12-34	34	石核	7.3	6.7	3.6	187.7	黒 頁
12-23	覆 土	打斧	6.0	4.9	1.6	49.5	黒 頁	12-35	覆 土	使剝	9.5	4.6	1.2	45.4	黒 頁
12-24	覆 土	打斧	10.4	5.1	1.8	96.1	黒 頁	12-36	覆 土	使剝	9.9	6.8	1.6	68.8	黒 頁
12-25	覆 土	打斧	6.6	4.6	1.4	32.0	黒 頁	12-37	覆 土	使剝	6.3	4.7	1.2	28.7	黒 頁
12-26	覆 土	石核	7.7	5.9	4.5	228.6	黒 安	12-38	覆 土	使剝	6.3	3.5	1.4	20.3	珪 頁
12-27	覆 土	石核	6.0	5.3	1.5	53.0	黒 頁	12-39	39	使剝	5.1	5.0	1.2	21.5	黒 頁
12-28	覆 土	石核	10.6	7.2	2.6	152.0	黒 頁	12-40	40	磨石	10.3	7.4	4.3	478.1	石 閃
12-29	覆 土	加剝	8.8	6.1	1.3	74.4	黒 頁	12-41	覆 土	磨石	11.2	7.3	4.5	675.2	粗 安
12-30	覆 土	加剝	4.7	5.4	1.5	18.3	白 凝	12-42	覆 土	磨石	14.8	11.9	7.0	1644.0	蛇
12-31	覆 土	加剝	5.2	4.9	1.7	40.2	黒 安	13-43	43	礫	6.4	4.5	3.0	123.6	石 閃
12-32	覆 土	加剝	4.6	4.5	0.9	21.7	黒 安	13-44	覆 土	礫	8.3	7.1	4.2	368.9	花 崗
12-33	覆 土	加剝	8.0	7.9	2.8	139.1	黒 頁								

5号住

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置 遺存状態	胎 土	色 調	器形・文様・縄文等の観察	備 考
15-1	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	口縁に沿って平行線文が2条巡り、その間に連続爪形文を加える。 以下縄文が施されるが、原体種別は不明。	黒 浜
15-2 PL-22	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	胎土中の繊維は器外へあまり露出しない。水平口縁であるが、口縁部にはわずかに歪みが認められる。縄文はLR縦位で施文良好。	黒 浜
15-3 PL-22	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	胎土中の繊維は器外へほとんど露出しない。器内は厚く、整形良好。縄文は同一縄文帯にRL、LR横位を施しヒシ形状構成。	黒 浜
15-4	深 鉢	覆 土 胴 部	砂粒含む、焼 成堅緻	褐 色	内外面とも整形良好。縄文はRL ³ 横位。	黒 浜
15-5 PL-22	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	縄文はLR、RLの2種が観察される。条が縦走する傾向があり底部付近と考えれば、尖底に近い器形を呈するようにみられる。	黒 浜
15-6 PL-22	深 鉢	6 胴 部	含繊維、焼成 良好	灰褐色	同一縄文帯に異方向縄文を横位に施し、ヒシ形の構成をする。原体はRL、LR、R ¹ が観察される。	黒 浜
15-7 PL-22	深 鉢	7 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	同一縄文帯に異方向縄文を横位に施し、ヒシ形状の構成をする。原体は、RLr ³ 、LRl ³ が観察される。	黒 浜
15-8 PL-22	深 鉢	8 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	同一縄文帯にRL、LR横位が施され、ヒシ形状構成となる。胎土中の繊維は器外へあまり露出しない。	黒 浜
15-9 PL-22	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	LL、RRが横位施文される。両者は部分的に重複し、条が交差している。器内面は整形が特に良好で滑沢面を形成する。	黒 浜
15-10	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	縄文は附加条第1種で、軸縄LR+Rが用いられ横位施文する。内面は整形良好で平滑。	黒 浜
15-11 PL-22	深 鉢	11 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	同一縄文帯に異方向縄文を横位施文し、ヒシ形の構成となる。原体は附加条第1種で、軸縄RL+R2条、同LR+R2条である。	黒 浜
15-12 PL-23	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	横位の連続爪形文は幅広く施文は深い。縄文はRL横位。胎土中の繊維は器外へほとんど露出しない。内面は横位整形痕が残る。	黒 浜
15-13 PL-23	深 鉢	13 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	RL、LR横位によるやや不規則なヒシ形状の縄文構成となる。器面に回転施文時の粘土の盛り上がり部分が部分的に残る。整形良好。	黒 浜
15-14 PL-22	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	褐 色	縄文はLR、RL横位が認められる。内面は剝落が著しい。	黒 浜
15-15	深 鉢	覆 土 胴 部	砂粒含む、焼 成堅緻	褐 色	縄文は節が不規則に連続し、条間隔も広めである。原体種別不明。内外面とも整形良好。	黒 浜
15-16	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	橙 色	縄文は不規則ながら条が波状をなす。確定できないが、附加条第1種に巻きながら軸縄の条を乗り越える原体の可能性がある。	黒 浜
15-17 PL-23	深 鉢	覆 土 胴 部	砂粒含む、焼 成堅緻	褐 色	口縁部文様帯は重畳する平行線文により構成される。施文は深くやや粗雑。以下胴部にRL横位が施される。	黒 浜
15-18	深 鉢	18 口縁部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	幅2mmの平行線により波状文が施される。口唇部は欠損するが平行線が巡る。内外面とも整形良好。	黒 浜
15-19	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	褐 色	幅8mmの連続爪形文が2条横走する。一部は爪形文が欠落し平行線のみ部分もある。内外面とも整形良好。	黒 浜
15-20	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	褐 色	胴上半部片。斜行する平行線文間に列点状刺突文が加えられる。器面は整形良好。縄文は認められない。	黒 浜(有尾)
15-21	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、焼成 良好	にぶい橙 色	絡条体の回転施文が観察される。	黒 浜
15-22	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい橙 色	幅7mmの連続爪形文が1条横走する。器内外面とも整形良好。	黒 浜
15-23 PL-23	深 鉢	23 胴 部	砂粒含む、器 面ザラつく	明赤褐色	浮線文は偏平で矢羽根状の刻目を加える。横位、渦状の文様構成をもつ。縄文は観察されない。	諸磯b

第2章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
15-24 PL-23	深鉢	24 胴部	砂粒含み、焼成堅緻	にぶい橙色	刻目をもつ浮線文により横位、渦状の文様が構成される。浮線文に沿って円形刺突文が連続的に加えられる。縄文はLR横位施文。	諸磯b									
15-25	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	褐色	浮線文貼付前にRL横位を施し、貼付後にさらに浮線文上に縄文を施文する。内面整形良好。	諸磯b									
15-26 PL-23	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	褐色	浮線文上加えられる刻目は深く、長い。縄文はRL横位が施される。	諸磯b									
15-27	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	隆線文が1条横走し、太目の絡条体丘痕文が加えられる。器内は厚手で、胎土中の繊維量は多い。	絡条体丘痕文土器									
15-28 PL-23	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	褐色	浮線文上にへら状工具による鋭く、長めの刻目加えられる。縄文はRL横位。	諸磯b									
15-29 PL-23	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙色	浮線文は細く偏平で、半截竹管による連続爪形状の刻目加えられる。縄文は認められない。	諸磯b									
15-30	浅鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成は堅緻	黒褐色	器内外面とも整形良好。深く太目のへら切り文により木葉状入組文が施され、頸部に刻目が巡る。この部分に赤色塗彩が残存する。	諸磯b									
15-31 PL-23	深鉢	31 底部	含繊維	にぶい橙色	胎土中の繊維量は多く、器内外面に露出する。底面は上げ底となり、器面にLR横位が一部観察できる。	黒浜									
15-32 PL-23	深鉢	32 底部	含繊維	にぶい橙色	上げ底状の底面は整形良好で、平滑面を形成する。	黒浜									
15-33 PL-23	深鉢	覆土 底部	含繊維	にぶい黄褐色	上げ底状の底面はやや歪みが認められる。一部にRL、LR横位が観察できる。	黒浜									
15-34	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい橙色	浮線文上の刻目は太目で深く、器面に達する。	諸磯b									
16-35 PL-23	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙色	器面は剝落が著しく、部分的にRL横位が観察される。底部は円筒状に立ち上がる。	諸磯b									
16-36 PL-23	深鉢	36 底部	含繊維	にぶい橙色	わずかに上げ底となり、底面は平滑面を形成。器面は剝落が著しいが、RL、LRを軸縄とした附加条第1種が観察される。	黒浜									
16-37 PL-23	深鉢	覆土 胴部	砂粒含む	にぶい橙色	浮線文は細目で、矢羽根状の刻目加えられる。器面は剝落部が多いが、LR横位が観察される。	諸磯b									
16-38 PL-23	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙色	上半部に一部RL横位が観察され、以下無文部となる。器面は剝落が著しい。胎土等35と類似する。	諸磯b									
16-39 PL-23	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい黄橙色	器下半部は剝落が特に著しく、内面には炭化物付着が認められる。縄文は不明瞭ながらRL、LR横位が観察される。	黒浜									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重g	石材	16-45	覆土	使剝	7.1	6.0	1.2	65.1	黒頁
16-40	覆土	加剝	7.5	7.1	2.0	89.0	黒頁	16-46	覆土	使剝	6.4	8.8	1.6	57.3	黒頁
16-41	覆土	加剝	11.2	5.0	2.3	106.1	黒頁	16-47	覆土	使剝	8.5	5.9	1.2	22.7	黒頁
16-42	覆土	使剝	5.8	5.3	1.2	39.4	黒頁	17-48	48	敲石	9.4	8.2	3.2	359.9	石閃
16-43	43	使剝	8.3	5.2	1.3	49.0	黒頁	17-49	49	礫	10.0	7.3	4.9	515.2	石閃
16-44	覆土	使剝	8.4	5.8	2.0	74.5	黒頁	17-50	覆土	礫	12.2	8.5	1.9	346.3	石閃

7号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
20-1 PL-24	深鉢	1 口縁~胴	含繊維、焼成良好	明褐色	大形波状口縁土器で、口縁に沿って平行線文によりヒシ形状の文様が構成される。RL、LR横位で羽状(ヒシ形状)縄文施文。	黒浜(有尾)
20-2 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	黒褐色	整形良好。口唇部は内側にわずかに面をもつ。縄文はRL、LR横位が観察されるが、条走向に一部不規則な部分もある。	黒浜
20-3 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐灰色	器面整形良好。ゆるやかな波状口縁を呈する。RL、LRを交互に横位施文し、ヒシ形状構成となる。	黒浜
20-4 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐灰色	器面整形良好。口唇部がわずかに外反し、上端に面をもつ。RL、LR横位による羽状縄文が観察される。	黒浜
20-5 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐色	口縁部にわずかな起伏が認められ、波状口縁の可能性ある。縄文は直前段反燃LR横位が用いられる。器面整形良好。	黒浜
21-6 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい褐色	口縁部外反ぎみに開く。器面は剝落が著しいが、LR、RL横位による羽状縄文が観察される。	黒浜
21-7 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい橙色	口縁部やや内湾ぎみで、口唇部は内側に面をもつ。羽状縄文は両者とも無節であるが、条走向からみて直前段反燃と考えられる。	黒浜
21-8 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい褐色	口縁形状からみて波状口縁の可能性ある。縄文は単節であるが節が条毎に右傾、左傾しておりL、Rの然り合せと考えられる。	黒浜
21-9 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐色	不規則な波状口縁を示し、起伏は小さい。器内面の整形は良好。RL横位が施される。	黒浜

第3節 遺物観察表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
21-10 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐灰色	口唇部内側に面をもち、内面は整形良好。縄文はやや太目で、RL横位が施される。一部に他繩縛痕が観察される。	黒浜
21-11 PL-24	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい褐色	口唇部は丸みをもち、内面は整形良好。縄文施文は丁寧でRL横位が加えられる。	黒浜
21-12 PL-25	深鉢	12 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	褐灰色	RL、LR横位による羽状縄文を構成。縄文帯の幅は3cm程度でやや狭い。内面整形良好で、円孔(補修孔)が1穴認められる。	黒浜
21-13 PL-24	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい赤褐色	縄文は無節であるが、条走向からみて直前段反撚RR横位と観察される。	黒浜
21-14 PL-24	深鉢	覆土 胴部	含繊維	灰褐色	内面は縦方向の整形痕が残る。縄文は8と同様の特徴を示し、胎土等の類似とあわせ、同一個体とみられる。	黒浜
21-15 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	縄文は直前段反撚RR横位。接合関係はないが13と同一個体とみられる。	黒浜
21-16 PL-25	深鉢	16 胴部	含繊維	にぶい褐色	内面整形良好。RL、LR横位によりヒシ形状の縄文を構成する。回転時の粘土の盛り上がりも一部に残る。3と同一個体の可能性。	黒浜
21-17 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維量は少ない	灰褐色	内面整形良好。LR横位が施される。	黒浜
21-18 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	器面整形良好。縄文は直前段反撚RR横位が施される。	黒浜
21-19 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	灰褐色	平行線文は幅4mm程度で施文は深い。縄文はLR、RL横位による羽状縄文が構成される。	黒浜
21-20	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤褐色	内面整形良好。RL、LR横位による羽状縄文が構成され、施文時に残る粘土の盛り上がりも明瞭に認められる。	黒浜
21-21 PL-25	深鉢	21 胴部	含繊維	暗褐色	器面整形良好。縄文は直前段反撚RR横位が施される。	黒浜
21-22 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	器面整形良好。縄文は直前段反撚RR横位が施される。接合関係はないが21と同一個体と考えられる。	黒浜
21-23 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐灰色	器面整形良好。幅5mmの平行線文により不規則な小波状文が施される。縄文はRL横位が加えられる。	黒浜
21-24 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい褐色	内面整形良好。縄文は直前段反撚LL横位が施される。	黒浜
21-25 PL-25	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい橙色	口唇部は上端に面をもち、内傾する。平行線文は幅9mmで、施文はやや粗雑である。縄文は認められない。	黒浜
21-26 PL-25	深鉢	26 口縁部	含繊維	にぶい橙色	ゆるやかな波状口縁を呈する。平行線によりヒシ形状の文様を構成するが、施文はやや粗雑である。縄文は認められない。	黒浜(有尾)
21-27 PL-25	深鉢	27 口縁部	含繊維	にぶい橙色	器面整形良好。大きな波状口縁を呈し、口縁形状に沿って平行線によりヒシ形状の文様を構成する。施文はやや粗雑。縄文はなし。	黒浜(有尾)
21-28 PL-25	深鉢	28 胴部	含繊維	灰褐色	内面整形良好。縄文は横走する条が波状を示すもので、軸繩の条を乗り越えながら附加条第1種に巻く種類の原体を用いる。	黒浜
22-29 PL-25	深鉢	29 口縁欠損	含繊維	にぶい黄橙色	器高18cmの波状口縁を呈す小型深鉢。底部は上げ底状で、単一沈線により粗雑な横走線文が施される。縄文は認められない。	黒浜
22-30 PL-25	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	灰褐色	器面整形良好。口縁に沿って平行線文を巡らせ、以下平行線文を断続的に加える。縄文は認められない。	黒浜
22-31 PL-25	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい橙色	器面整形良好。口唇部上端に面をもつ。口縁部はわずかに湾曲が認められ波状口縁の可能性がある。幅7mmの平行線文を巡らせる。	黒浜
22-32 PL-25	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐灰色	器内面整形良好。幅2mmの平行線により文様構成するが、施文は粗雑である。縄文は認められない。	黒浜
22-33 PL-25	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	褐色	頸部に稜をもち、その上下に平行線による横走、小波状文が施される。縄文は認められない。	黒浜
22-34	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	灰褐色	内面整形良好。波状口縁を呈する。幅2mmの平行線を口縁に沿って施す。施文はやや粗雑。縄文は認められない。	黒浜
22-35	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい褐色	波状口縁を呈する。平行線は幅7mmで口縁に沿って巡り、下位に連続爪形文が一部認められる。縄文は認められない。	黒浜
22-36	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	灰褐色	内面には縦位の整形痕が残る。平行線は施文具とする植物茎の痕跡が残る。	黒浜
22-37 PL-25	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい褐色	内面整形良好。縄文は2条1単位の絡条体が用いられる。	黒浜
22-38	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維量は少ない	にぶい黄橙色	内面整形良好。単一沈線により、不規則な横走線文が施される。縄文は認められない。	黒浜
22-39	深鉢	覆土 胴部	含繊維	明赤褐色	内面整形良好。粗雑な平行線文により不規則な文様が構成される。	黒浜

第2章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
22-40	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい褐色	内面整形良好。平行線文により斜走、波状および押し引状の文様が加えられる。接合関係はないが、39と同一個体とみられる。	黒浜									
22-41 PL-26	深鉢	41 胴部	含繊維、繊維 量は少ない	暗赤褐色	内面整形良好。幅2mmの平行線文により横走、斜行文が不規則に施される。縄文は認められない。	黒浜									
22-42	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量は少ない	にぶい赤褐色	縦長の貼付文が加えられ、平行線文により横走、押し引状の文様が施される。	黒浜									
22-43	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい褐色	幅3mmの平行線文により粗雑な格子状文が施される。縄文は認められない。	黒浜									
22-44	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい黄褐色	内面整形良好。横位の平行線文が施されるが、施文はやや粗雑である。	黒浜									
22-45	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい黄褐色	内面整形丁寧。幅4mmの平行線文が横走するが、施文はやや粗雑である。	黒浜									
22-46 PL-25	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙色	幅4mmの平行線文により横走線文、波状文が施される。縄文は認められない。	諸磯b									
22-47	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤褐色	不規則な連続爪形文が施される。	黒浜									
22-48	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量は少ない	橙 色	内面整形良好。半截竹管により押し引状の文様が加えられる。縄文は認められない。	黒浜									
22-49 PL-26	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐 色	波状口縁となる可能性がある。口縁に沿って列点状櫛歯文が施され、口縁下2cmに円孔(φ4mm)が穿たれる。	黒浜(有尾)									
22-50 PL-26	深鉢	覆土 胴部	含繊維	灰褐色	器内厚手。器面整形良好。縄文は2条1単位の絡条体が用いられ、施文は粗雑である。	前期前半									
22-51 PL-25	深鉢	覆土 底部	含繊維	にぶい黄褐色	底部は張り出しぎみで、わずかに上げ底状となる。底面は平滑面を形成。	黒浜									
22-52 PL-26	深鉢	52 底部	含繊維	褐 色	底部はやや張り出しぎみで、わずかに上げ底状となる。底径5.5cm。RLR ³ 横位が観察される。	黒浜									
22-53 PL-26	深鉢	53 底部	含繊維	にぶい橙色	底部は上げ底状で、底面は平滑面を形成する。	黒浜									
22-54 PL-26	深鉢	54 底部	含繊維	にぶい橙色	LR横位が施される。器内面に炭化物付着。	黒浜									
22-55 PL-26	深鉢	55 胴～底部	含繊維	にぶい橙色	底面は平滑面を形成する。RL、LRを交互に横位施文し、ヒシ形の縄文構成とする。	黒浜									
22-56 PL-26	深鉢	56 胴～底部	含繊維	にぶい黄褐色	底部は上げ底状で平滑面を形成する。縄文はRL横位が施される。	黒浜									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	23-70	覆土	使剝	7.9	4.3	1.1	14.4	黒 頁
23-57	57	磨斧	14.1	4.8	3.2	320.6	変 玄	23-71	71	使剝	8.2	6.7	2.6	95.5	黒 頁
23-58	覆土	削器	6.6	4.0	1.3	27.2	点 頁	23-72	覆土	加剝	6.0	5.3	1.4	24.8	黒 頁
23-59	覆土	削器	5.7	5.4	1.4	33.4	黒 頁	23-73	覆土	使剝	7.4	3.4	1.8	26.2	黒 頁
23-60	60	削器	7.8	4.2	1.6	28.5	黒 頁	23-74	覆土	使剝	6.5	4.1	0.9	16.0	黒 頁
23-61	覆土	加剝	7.6	5.1	1.9	38.6	黒 頁	23-75	覆土	使剝	6.5	3.8	2.1	31.6	珪 頁
23-62	覆土	加剝	5.5	7.1	2.2	49.2	黒 頁	23-76	覆土	使剝	8.5	4.7	1.3	42.2	黒 頁
23-63	63	加剝	7.8	4.1	2.0	47.1	珪 頁	24-77	77	敲石	10.8	6.4	2.3	256.6	変 安
23-64	覆土	加剝	7.6	5.1	1.9	89.7	黒(石理) 頁	24-78	覆土	敲石	12.0	5.5	2.8	300.8	ひ ん
23-65	65	加剝	8.0	6.1	3.5	133.6	黒 頁	24-79	79	敲石	10.7	6.2	3.2	321.4	石 閃
23-66	66	加剝	6.6	4.8	1.3	28.2	黒 頁	24-80	覆土	敲石	8.8	3.8	2.3	112.7	変 安
23-67	覆土	加剝	8.1	6.3	2.8	85.1	黒 頁	24-81	81	磨石	8.2	7.0	4.0	310.3	石 閃
23-68	覆土	加剝	7.9	5.6	2.0	80.3	黒 頁	24-82	82	磨石	14.1	8.2	4.2	805.0	石 閃
23-69	69	加剝	9.0	6.4	1.5	106.7	黒 頁	24-83	覆土	剝片	3.5	2.6	0.5	4.0	黒 曜

8号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
26-1 PL-27	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙色	口唇部は外側にふくらみをもつ。波状口縁。口縁に沿って幅7mmの連続爪形文を施す。器面整形良好。	諸磯b
26-2 PL-27	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	橙 色	口唇部は外側にふくらみをもつ。波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を巡らせ、爪形文間には刻目を加える。	諸磯b
26-3 PL-27	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい黄褐色	口縁部がくの字状に内曲する波状口縁。浮線文は細く、貼付も丁寧で、矢羽根状の刻目を加える。部分的に浮線間に刺突文施文。	諸磯b
26-4 PL-27	深鉢	4 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙色	口縁がくの字状に内曲する波状口縁。波状口縁頂部下に円形貼付文が加えられる。浮線文上には矢羽根状の刻目が施される。	諸磯b

第3節 遺物観察表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
26-5 PL-27	深鉢	5 口縁部	砂粒含み、焼成堅緻	橙色	口縁がくの字状に内湾する波状口縁。波状口縁頂部下に円形貼付文が加えられる。浮線文上には矢羽根状の刻目が施される。	諸磯b
26-6 PL-27	深鉢	6 口縁部	砂粒含み、焼成堅緻	にぶい黄 橙色	口縁がくの字状に内湾する波状口縁。口縁に沿って刻目をもつ浮線文が横走り、一部に孤状の構成が認められる。整形良好。	諸磯b
26-7 PL-27	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼成堅緻	灰黄褐色	口縁がくの字状に内湾する波状口縁。浮線文の貼付は丁寧で矢羽根状の刻目を加える。RL横位。3と同一個体の可能性がある。	諸磯b
26-8 PL-27	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成はやや軟質	明黄褐色	横走する浮線文上にRL横位の縄文が施される。	諸磯b
26-9	深鉢	覆土 胴部	砂粒含む	橙色	浮線文上にRL横位の縄文が施される。	諸磯b
26-10 PL-28	深鉢	10 口縁部	砂粒含む	褐色	キャリバー状の深鉢。口縁部は渦状、胴部には横位の浮線文が施される。浮線文上には刻目が加えられ、器面の剥落著しい。	諸磯b
26-11 PL-28	深鉢	11 胴部	砂粒含み、焼成はやや軟質	にぶい黄 橙色	キャリバー状の深鉢。浮線文は矢羽根状の刻目を加え、口縁部は渦状、胴部は3条1単位とする横位に施す。RL横位施文。	諸磯b
26-12 PL-27	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい黄 橙色	浮線文はやや太目で、貼付は丁寧。浮線文上には矢羽根状の刻目が加えられる。縄文は認められない。	諸磯b
26-13 PL-27	深鉢	覆土 胴部	砂粒多く含み器面ザラつく	にぶい橙 色	器面は磨耗が著しい。浮線文上には円形の刺突文が加えられる。縄文は認められない。	諸磯b
26-14 PL-27	深鉢	14 胴部	砂粒含み、焼成良好	橙色	浮線文上の刻目は矢羽根状に加えられ、長めで深く器面に達する。縄文はRL横位が観察される。	諸磯b
26-15 PL-28	深鉢	覆土 口縁付近	砂粒含み、器面ザラつく	橙色	口縁屈曲部。円形の貼付文が貼付され、平行線文が施される。縄文は認められない。	諸磯b
26-16 PL-28	深鉢	16 胴部	砂粒多く含み器面ザラつく	橙色	2～4条単位で浮線文が横走る。浮線文上には矢羽根状の刻目が加えられる。器面は磨耗が著しい。	諸磯b
27-17	深鉢	覆土 口縁付近	砂粒含み、焼成堅緻	にぶい赤 褐色	円形貼付文が付され、その周囲に刻目をもつ偏平な浮線文が加えられる。	諸磯b
27-18 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい黄 橙色	浮線状のわずかな隆起部に長めで深い刻目が加えられる。縄文はRL横位が観察される。	諸磯b
27-19 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成堅緻	橙色	浮線文は偏平で貼付は丁寧。矢羽根状の刻目が施され、浮線文間に円形刺突文が加えられる。	諸磯b
27-20 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成堅緻	明黄褐色	浮線文は偏平で貼付は丁寧。矢羽根状の刻目が施され、浮線文間に刺突文が加えられる。接合関係ないが19と同一個体とみられる。	諸磯b
27-21 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい橙 色	横走する浮線文上に矢羽根状の刻目が施される。縄文はRL横位が加えられる。	諸磯b
27-22 PL-28	深鉢	覆土 口縁付近	砂粒含み、焼成良好	明黄褐色	口縁屈曲部。偏平な浮線文により孤状、渦状の文様が構成される。浮線文上の刻目は細かく丁寧。	諸磯b
27-23 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成良好	にぶい橙 色	横走する浮線文は偏平で、刻目は細かく丁寧。浮線文間に円形刺突文が加えられる。	諸磯b
27-24 PL-28	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼成堅緻	にぶい黄 褐色	浮線文は偏平で貼付は丁寧。浮線文間に円形刺突文が加えられる。	諸磯b
27-25 PL-28	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、器面ザラつく	明赤褐色	底部は張り出しきみ。円形の刺突文列が加えられる。	諸磯b
27-26 PL-28	深鉢	覆土 底部	砂粒含み、焼成良好	黄橙色	浮線文は偏平で、矢羽根状の刻目は深め。RL横位の縄文がわずかに観察される。	諸磯b
27-27	深鉢	27 底部	砂粒含み、器面ザラつく	橙色	矢羽根状の刻目が長めで深いため、浮線文の隆起はほとんど低平化する。	諸磯b
27-28 PL-28	深鉢	28 口縁付近	砂粒含み、器面ザラつく	灰褐色	口縁部がくの字に屈曲し、外側に大きく張り出す。屈曲部上位はRL横位、下位に平行線による三角状、波状文が施される。	諸磯b
27-29 PL-29	深鉢	29 口縁付近	砂粒含み、器面ザラつく	灰褐色	波状口縁。幅5mmの平行線により三角状、横走線文を施し文様帯を構成する。縄文は認められない。	諸磯b
27-30 PL-28	深鉢	30 口縁部	砂粒含み、器面ザラつく	橙色	口縁がくの字状に屈曲する波状口縁。幅5mmの平行線文は深く明瞭だが、一方が強く施文される傾向がある。	諸磯b
27-31 PL-28	深鉢	31 口縁部	砂粒含み、器面ザラつく	橙色	口縁がくの字状に屈曲する波状口縁。幅3mmの平行線により横走、縦走、孤状文が施される。施文は深く、やや粗雑。	諸磯b
27-32 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器面ザラつく	明褐色	器肉がやや厚手。幅5mmの平行線により斜行状文が施され、横走文の一部に連続爪形文が観察される。	諸磯b
27-33 PL-29	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器面ザラつく	橙色	口縁がくの字に屈曲する波状口縁。ゆるやかな波頂部には円形貼付文が加えられる。幅5mmの平行線により横走、孤状文を施文。	諸磯b
27-34 PL-29	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器面ザラつく	にぶい赤 褐色	口縁がくの字状に屈曲する波状口縁。幅2mmの平行線により横走、孤状文が施される。施文は深いが、やや粗雑で不規則。	諸磯b

第2章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
27-35 PL-29	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器 面ザラつく	橙 色	口縁部が内曲し、口唇部は外反ぎみに立ち上る波状口縁。波頂部に切れ目をもち折り返し口縁となる。幅3mmの平行線による渦文。	諸磯 b									
27-36 PL-29	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	橙 色	口縁がくの字状に屈曲する波状口縁。幅4mmの平行線により横走線文を施し、口縁屈曲部に縦位文を加える。粗雑なRL横位施文。	諸磯 b									
27-37 PL-29	深鉢	37 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	橙 色	頸部に強い屈曲をもち、波状口縁頂部に外反ぎみの小突起を加える。幅4mmの平行線により渦状文を構成。施文深いがやや粗雑。	諸磯 b									
27-38 PL-29	深鉢	38 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	褐色	口唇部欠。口縁がくの字状に屈曲する波状口縁。幅4mmの平行線により横走、孤状、山形状文を構成。施文深いが、やや粗雑。	諸磯 b									
27-39 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	明褐色	幅6mmの平行線により、粗雑な横走線文が施される。縄文は認められない。器内面に炭化物付着。	諸磯 b									
27-40 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	灰褐色	平行線は幅4mmで横走するが、平行線の一方が強く施文される傾向がある。縄文は認められない。	諸磯 b									
28-41 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	橙 色	幅3mm強の平行線により横走線文を重畳させ、その間に山形状文を加える。器内面に炭化物付着。	諸磯 b									
28-42 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	橙 色	幅6mmの平行線により横走線文が施される。施文は粗雑であり、平行線も一方のみ加えられる部分もあり、極めて不規則である。	諸磯 b									
28-43 PL-29	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	褐色	幅4mmの平行線により孤状文が加えられる。施文は密で、重複する部分も多い。縄文は認められない。	諸磯 b									
28-44 PL-29	深鉢	44 胴部	砂粒含み、焼 成良好	明赤褐色	幅4mmの平行線により横走、孤状文が密に加えられる。接合部はないが、43と同一個体と観察される。	諸磯 b									
28-45 PL-29	浅鉢	覆土 底部	砂粒多く含み、 焼成良好	橙 色	底部張り出しぎみ。文様は認められないが、整形はやや粗雑。	諸磯 b									
28-46 PL-29	深鉢	46 底部	砂粒含み、焼 成堅緻	橙 色	文様は認められない。底面は平坦で、器面整形は丁寧。	諸磯 b									
28-47 PL-30	深鉢	47 胴部	砂粒含み、焼 成良好	明褐色	頸部に屈曲部をもつ深鉢。屈曲上部に貝殻波状文を施し、その上に押し状の刺突文を加える。	浮島									
28-48 PL-30	深鉢	48 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙 色	口縁外反ぎみに開くゆるやかな波状口縁。口唇部外側に刻目を加え、貝殻波状文帯、三角状平行線文帯により文様帯構成する。	浮島									
28-49 PL-29	浅鉢	49 口縁部	砂粒含み、焼 成堅緻	橙 色	器内外面整形良好で、平滑面を形成。口唇部は外側に面をもち、口縁部の低い突帯部に斜位の刻目を横位に加える。	諸磯 b									
28-50 PL-29	深鉢	50 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	灰褐色	幅1cm程度の貝殻波状文が横位に加えられる。	浮島									
28-51	深鉢	覆土 胴部	含繊維	橙 色	棒状工具により刺突文が加えられる。器内面に繊維痕が多少露出する。	黒浜									
28-52 PL-29	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	灰褐色	水平口縁。LR ¹ 、RL ¹ 横位による羽状縄文を構成。縄文帯は5cm程度の幅をもつ。	黒浜									
28-53 PL-29	深鉢	53 口縁部	含繊維	灰褐色	器外に胎土中の繊維がやや露出する。RL横位が施される。	黒浜									
29-54 PL-30	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、整形 良好	褐灰色	口縁は不規則ながら小波状を呈する。RL、LR横位による羽状縄文を構成するが、部分的に条走向に不規則な部分がある。	黒浜									
19-55 PL-30	深鉢	55 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	RL横位。器面に繊維痕が認められる。	黒浜									
29-56 PL-29	深鉢	56 胴部	含繊維	にぶい橙 色	器面整形良好。表面には繊維痕ほとんど露出しないLR ¹ 横位。	黒浜									
29-57 PL-30	浅鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器 面ザラつく	橙 色	口縁がくの字状に屈曲し、短く立ち上る。屈曲上部に凹面を1条巡らせ、胴部は無文で整形良好。	諸磯 b									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石 材	30-70	覆土	加剝	6.5	4.9	3.3	96.8	黒 頁
29-58	58	打斧	14.5	8.3	3.9	535.8	粗 安	30-71	覆土	加剝	6.1	5.8	1.7	46.5	黒 頁
29-59	59	打斧	15.1	6.2	2.1	191.3	黒 頁	30-72	覆土	加剝	8.8	3.6	2.0	46.7	黒 頁
29-60	60	打斧	9.5	5.5	2.3	104.9	黒 頁	30-73	覆土	加剝	5.1	5.0	1.2	35.3	黒 頁
29-61	覆土	石匙	12.2	5.0	1.2	59.1	黒 頁	30-74	覆土	加剝	6.9	4.3	2.4	67.1	黒 頁
29-62	覆土	石核	7.5	5.2	2.7	90.6	黒 安	30-75	75	加剝	4.6	3.0	0.8	7.6	黒 頁
30-63	63	削器	11.3	4.6	1.3	69.0	黒 頁	30-76	覆土	加剝	3.1	2.6	1.2	7.6	チ
30-64	覆土	削器	7.5	6.3	2.1	95.9	黒 頁	30-77	77	剝片	1.7	1.5	0.3	0.5	黒 曜
30-65	覆土	加剝	6.2	5.7	1.7	53.1	黒 頁	30-78	覆土	剝片	2.5	1.9	0.7	1.4	黒 曜
30-66	覆土	加剝	8.3	6.2	4.6	183.2	黒 頁	30-79	79	剝片	2.1	3.0	0.7	3.7	黒 曜
30-67	67	加剝	8.2	10.2	3.0	145.0	黒 頁	30-80	覆土	剝片	1.2	1.1	0.3	0.2	黒 曜
30-68	覆土	加剝	9.0	7.2	2.1	251.4	灰 安	30-81	覆土	剝片	4.7	2.3	0.9	2.6	黒 曜
30-69	覆土	加剝	6.6	7.3	1.9	86.8	黒 頁	30-82	覆土	磨石	8.8	9.1	5.4	578.6	石 閃

第3節 遺物観察表

9号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
32-1 PL-31	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい橙 色	単一沈線により口縁に沿って3条、その下位に弧状文を組み合せ 文様帯を構成する。	諸磯 b									
32-2	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい橙 色	幅4mmの平行線を横位に加える。	諸磯 b									
32-3	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい橙 色	幅5mmの平行線により斜状文を施し、文様を構成する。	諸磯 b									
32-4 PL-31	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい赤 褐色	幅4mmの平行線を横位に施す。平行線の一方が強く施文される傾 向があり、文様はやや粗雑。	諸磯 b									
32-5 PL-31	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい赤 褐色	浮線文は低く、矢羽根状の刻目を加える。	諸磯 b									
32-6 PL-31	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい橙 色	浮線文は低く、矢羽根状の刻目を加える。屈曲部下位にはRL横 位が施される。	諸磯 b									
32-7 PL-31	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙 色	RL横位を施した後、浮線文を加える。浮線は低く、貼付は丁寧。 矢羽根状の刻目は長目で、施文は深く密接する。	諸磯 b									
32-8 PL-32	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい橙 色	浮線文は高く、両端にナゾリを加える。以下、胴部にはLR横位 が施される。	諸磯 b									
32-9 PL-32	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい黄 褐色	浮線文は粘土紐状で、矢羽根状の刻目を加える。縄文は直前段反 燃LLと観察される。	諸磯 b									
32-10 PL-32	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい橙 色	浮線文上の刻目はヘラ状工具により、深く長い。縄文はRL横位。	諸磯 b									
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	32-13	覆土	使剝	5.0	5.3	1.5	37.0	黒頁
32-11	覆土	加剝	8.0	6.3	2.1	104.1	黒頁	32-14	14	敲石	11.1	7.2	4.2	474.3	石閃
32-12	覆土	加剝	7.3	4.5	1.5	36.2	黒安								

10号住

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
34-1 PL-32	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい黄 褐色	口唇上端に面をもつ。RL ^r 、LRを同一縄文帯横位に加える。 両者の接点に施文時の粘土の盛り上がりが残る。	黒浜
34-2 PL-32	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	灰褐色	RL、LR横位により羽状縄文を構成。	黒浜
35-3 PL-32	深鉢	3 1/2欠損	含繊維	にぶい褐 色	胴部にくらみもち、底面は上げ底状。口縁はやや不規則な水 平口縁。RL、LR横位で施文は粗雑。一部に指頭痕が残る。	黒浜
35-4 PL-32	深鉢	覆土 胴下部	含繊維	にぶい橙 色	RL、LR横位。施文は不規則で、条走向も一定しない。	黒浜
35-5 PL-32	深鉢	5 口~胴部	含繊維	褐色	波状口縁。口唇上面に凹面をもつ。口縁下に縄文帯(RL ^r 、L R ^l) その下位にヒシ形状平行線文を加え、以下縄文帯とする。	黒浜(有尾)
35-6 PL-33	深鉢	6 底部	含繊維	明褐色	胴部が大きく開く深鉢。RL、LRを同一縄文帯横位に施し、ヒ シ形状縄文を構成。施文時の粘土の盛り上がりも部分的に残る。	黒浜
35-7 PL-33	深鉢	7 底部欠損	含繊維	にぶい褐 色	波状口縁をもつ小型深鉢。LL、RRを同一縄文帯横位に施し、 やや不規則なヒシ形状構成の縄文とする。	黒浜
36-8 PL-33	深鉢	8 胴部	含繊維	にぶい褐 色	胴下半部にふくらみをもつ深鉢。RL、LRを同一縄文帯横位施 文し、ヒシ形状縄文を構成する。整形良好。繊維の露出痕少ない。	黒浜
36-9 PL-33	深鉢	9 底部	含繊維	にぶい褐 色	RL、LR横位により、ヒシ形状構成の縄文を施す。底面は上げ 底状となり、内面にスス状炭化物付着する。	黒浜
36-10 PL-33	深鉢	10 胴部	含繊維	にぶい橙 色	胴部が球状にふくらむ深鉢。前々段反燃RL ^l 、LRR横位によ り羽状縄文を施す。一部にclose-end、施文時の粘土盛り上がり残る。	黒浜
36-11 PL-33	深鉢	11 底部	含繊維	にぶい褐 色	底面わずかに上げ底状。前々段反燃RL ^l 、LRR横位により羽 状縄文を形成。一部に結束第1種が認められる。	黒浜
36-12 PL-34	深鉢	12 胴部	含繊維	にぶい橙 色	頸部に平行線を横位に施す。胴部にRL、LR横位による羽状縄 文構成。節の不明瞭な条もあり前々段反燃も使用される可能性有。	黒浜
36-13 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	口縁部に加えられる連続爪形文は施文が深く、やや粗雑。RL、LR横位 によりヒシ形状縄文を構成。一部にclose-endがみられる。	黒浜
36-14 PL-34	深鉢	14 口縁部	含繊維	にぶい褐 色	波状口縁、口縁および頸部に連続爪形文を施し、その間に平行線 によるヒシ形状文を構成する。施文は深く、太め。器面整形良好。	黒浜(有尾)
36-15 PL-32	深鉢	15 底部	含繊維	にぶい橙 色	底面は上げ底状。LR横位。	黒浜

第2章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考									
36-16 PL-32	深鉢	覆土 底部	含繊維	にぶい橙 色	底面は上げ底状。附加条第1種RL+R、LR+L横位によりヒシ形縄文を構成。	黒浜									
37-17 PL-32	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい赤 褐色	LR、附加条第1種RL+Rを同一縄文帯横位に施す。	黒浜									
37-18 PL-32	深鉢	18 胴部	含繊維	褐色	頸部に平行線を横位に施し、以下RL、LR横位により、ヒシ形状縄文を構成する。施文時の粘土の盛り上がりが残る。	黒浜									
37-19 PL-32	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい褐 色	RLR ³ 、LR ³ 横位によりヒシ形状縄文を構成。	黒浜									
37-20 PL-33	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	褐灰色	口縁はやや不規則で起伏をもつ。LR横位。整形良好で、器面は平滑面形成。	黒浜									
37-21 PL-33	深鉢	覆土 胴部	含繊維	暗褐色	前々段反撚RL、LR横位により羽状縄文を構成する。縄文帯の幅に広狭が認められる。	黒浜									
37-22 PL-33	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	附加条第2種LR+L、LR横位。	黒浜									
37-23 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	明赤褐色	LR、RL横位により羽状縄文を構成。器内面に横位の整形痕が明瞭に残る。	黒浜									
37-24 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐灰色	RL、LR横位によりヒシ形状縄文を構成する。	黒浜									
37-25 PL-33	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	暗褐色	直前段反撚LL横位。	黒浜									
37-26 PL-34	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	黒褐色	片口土器。附加条第1種LR+R横位。内面整形良好、平滑面を形成する。	黒浜									
37-27 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	橙色	附加条第1種(軸縄RL)、LR ³ 横位。	黒浜									
37-28 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	前々段反撚LR横位。	黒浜									
37-29 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	押引状の列点刺突文帯下にコンパス文(小波状文)が加えられる。	黒浜(有尾)									
37-30 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい褐 色	LおよびR条を左方向にねじり合わせた原体を用いているものと観察される。	黒浜									
37-31 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	直前段反撚LL横位。	黒浜									
37-32 PL-34	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	黒褐色	波状口縁。口縁に沿って連続爪形文を巡らせる。爪形文の間隔は密で、やや幅広。	黒浜									
37-33 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	前々段反撚RL、LR横位による羽状縄文を構成。	黒浜									
37-34 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	直前段反撚LL横位。	黒浜									
37-35 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	暗褐色	幅5mmの平行線により横走、山形状文が施される。施文は太く、深い。器面に縄文認められるが種別不明。	黒浜									
37-36 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい黄 褐色	直前段反撚LL横位と観察される。	黒浜									
37-37 PL-34	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい褐 色	波状口縁。列点刺突文による文様構成。口唇上端に面をもつ。器面整形良好。	黒浜(有尾)									
37-38 PL-34	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	幅5mmの連続爪形文を横位に加える。爪形文の施文は太く、深い。	黒浜									
37-39 PL-32	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい赤 褐色	列点刺突文による文様構成。接合部はないが、37と同一個体とみられる。	黒浜(有尾)									
37-40 PL-34	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成堅緻	にぶい黄 褐色	器内外面に細かな条痕を加え、絡条体圧痕文を斜位に組み合わせる。(早期)										
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	37-45	覆土	使剝	8.0	4.3	1.7	54.1	黒頁
37-41	覆土	加剝	8.8	4.1	2.7	78.4	黒頁	37-46	覆土	使剝	12.5	3.5	2.1	60.6	黒頁
37-42	覆土	加剝	3.9	5.5	1.5	31.4	黒頁	37-47	覆土	使剝	5.1	3.6	1.4	21.7	黒頁
37-43	覆土	使剝	6.8	4.2	2.0	34.9	珪凝	38-48	48	敲石	12.0	5.8	3.6	341.4	石閃
37-44	覆土	使剝	8.6	6.5	1.3	39.6	黒頁	38-49	49	磔	5.2	5.1	4.2	103.0	流

第3節 遺物観察表

土 坑

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置 遺存状態	胎 土	色 調	器形・文様・縄文等の観察	備 考
49-1 PL-35	深 鉢	覆 土 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい赤 褐色	くの字状に屈曲する波状口縁。幅5mmの平行線により横走、弧状文が施される。	諸磯 b 4 坑
49-2 PL-35	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	波状口縁。口唇上端に面をもつ。口縁に沿って連続爪形文を重畳して施す。平行線は肉厚で幅7mm、施文はやや粗い。	黒浜(有尾) 6 坑
49-3 PL-35	深 鉢	3 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	波状口縁。口唇上端に面をもつ。連続爪形文によりヒシ形状構成とする。接合部はないが2と同一個体とみられる。	黒浜(有尾) 6 坑
49-4 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい橙 色	繊維はあまり器外に露出しない。RL、LR横位により羽状縄文を構成。	黒浜 28坑
49-5 PL-35	深 鉢	5 底 部	含繊維	暗褐色	上げ底をなす。LR横位が一部に観察される。	黒浜 28坑
49-6 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい赤 褐色	LR横位。器表面には粘土付着し、凸凹する。器内面にスス状炭化物付着。	黒浜 28坑
49-7 PL-35	深 鉢	覆 土 底 部	含繊維、繊維 量は少ない	にぶい黄 橙色	器面整形良好。底面上げ底状。RL横位。含まれる繊維はほとんど器外へ露出しない。	黒浜 28坑
49-8 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい褐 色	RL横位。内面にスス状炭化物付着。接合部はないが6と同一個体とみられる。	黒浜 32坑
49-9 PL-35	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	浅黄色	波状口縁。器面整形良好で、内面は平滑面形成。直前段反摺LL横位。	黒浜 32坑
49-10 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、繊維 量少ない	褐灰色	器面整形良好。RL横位。	黒浜 32坑
49-11 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい黄 橙色	刻目をもつ浮線文により4状、横位状文を構成。	諸磯 b 33坑
49-12 PL-35	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい褐 灰色	LR ¹ 、RL ^r のLoopを横位重畳施文。器肉やや薄手で器内面は平滑面を形成する。	黒浜 33坑
50-13 PL-35	深 鉢	13 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	波状口縁、口唇上端に面をもつ。LR、RL ^r 横位による羽状縄文を施し、幅7mmの平行線文を加える。	黒浜 32坑
50-14 PL-35	浅 鉢	14 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい黄 橙色	口唇部外側に面をもち、口縁下に凹面を1条加える。文様は認められない。	諸磯 b 34坑
50-15 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維、繊維 量少ない	褐灰色	幅6mmの押し引状の連続爪形文を横位に施す。RL ^r 横位を加える。繊維は器外にあまり露出しない。	黒浜(有尾) 37坑
50-16 PL-35	深 鉢	16 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	褐 色	水平口縁。器内面は平滑面を形成。LR横位。	黒浜 37坑
50-17 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁付近	含繊維	褐灰色	口唇部欠。LR横位。	黒浜 38坑
50-18 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維	にぶい黄 橙色	水平口縁。LR横位。	黒浜 38坑
50-19 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	褐灰色	LR横位。繊維痕器外に露出する。	黒浜 38坑
50-20 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	褐 色	LR横位。整形良好だが、繊維痕やや器外に露出する。	黒浜 38坑
50-21 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい橙 色	R ¹ / _k 、L ¹ / _k 横位によりヒシ形状の縄文を構成。	黒浜 40坑
50-22 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維	にぶい赤 褐色	口縁部にわずかに起伏が認められる。RL、LR横位によりヒシ形状縄文を構成。	黒浜 40坑
50-23 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維	赤褐色	口唇上端に平坦面をもつ。LR横位。	黒浜 40坑
50-24 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	赤褐色	口唇上端に平坦面をもつ。器面は磨耗が著しいが、RL、LR横位による羽状縄文が構成される。	黒浜 40坑
50-25 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	含繊維	にぶい赤 褐色	幅9mmの連続爪形文が横位に施される。	黒浜 40坑
50-26 PL-36	深 鉢	26 口縁部	含繊維	にぶい橙 色	口唇部わずかに折り返し状で、口縁にはわずかに起伏がある。器面整形良好。LR ¹ / _r 横位。	黒浜 40坑
50-27 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	含繊維	にぶい赤 褐色	器面磨耗著しい。LR、RL横位による羽状縄文が認められる。接合部はないが24と同一個体とみられる。	黒浜 40坑
50-28 PL-36	深 鉢	覆 土 口縁部	砂粒混入。焼 成良好	にぶい赤 褐色	口縁部は内湾きみで、口唇部わずかに外反する波状口縁。波頂部下に粘土粒貼付。	諸磯 b 40坑
50-29 PL-36	深 鉢	覆 土 胴 部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい黄 橙色	RL横位を施し、刻目をもつ浮線文を横位に加える。器面と浮線文部の胎土色調異なる。	諸磯 b 41坑

第2章 検出された遺構と遺物

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察	備考
50-30 PL-36	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	橙 色	幅3mmの平行線により横走、孤状文を施す。	諸磯 b 41坑
50-31 PL-36	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	橙 色	口縁内湾し、口唇部わずかに外反する波状口縁。波頂部下に貼付文を加える。	諸磯 b 41坑
51-32 PL-36	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい赤 褐色	口縁部がくの字状に屈曲する波状口縁。幅5mmの平行線文により文様構成。施文は深く明瞭。	諸磯 b 41坑
51-33 PL-36	深鉢	33 胴部	含繊維	にぶい橙 色	L R横位。施文は粗雑で、縄文の加えられない部分もある。	黒浜 42坑
51-34 PL-36	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、器 面ザラつく	にぶい黄 橙色	平行刺突文が横位に施される。	諸磯 b 51坑
51-35 PL-36	深鉢	覆土 底部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	上げ底状を呈する。	黒浜 62坑
51-36 PL-36	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	直前段反摺RR横位。	黒浜 70坑
51-37 PL-37	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい橙 色	L R横位。横走する浮線文上には矢羽根状に刻目および押圧が加えられる。	諸磯 b 73坑
51-38 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい橙 色	2条1単位の絡条体施文。条間隔は広い。水平口縁。	黒浜 104坑
51-39 PL-37	深鉢	39 胴部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい赤 褐色	接合部はないが38と同一個体とみられる。	黒浜 104坑
51-40 PL-37	深鉢	40 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい赤 褐色	波状口縁。器面整形良好で内面は平滑面を形成する。RL横位。	黒浜 104坑
51-41 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい赤 褐色	波状口縁。口唇部は内側に面をもつ。波頂部下に粘土粒貼付文を加える。平行線による格子状文を施す。	黒浜 104坑
51-42 PL-37	深鉢	42 底部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい赤 褐色	上げ底状を呈する。器面整形良好。	黒浜 104坑
51-43 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	褐灰色	RL r ³ 横位。器面整形良好。	黒浜 104坑
51-44 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	黒褐色	小波状口縁。口縁および頸部に幅1cmのコンパス文が巡る。RL、LR横位によりヒシ形縄文を構成。	77坑
51-45 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい赤 褐色	波状口縁。口唇部内側に面をもつ。器面整形良好で、内面は平滑面を形成。平行線文はやや不規則。	黒浜 104坑
51-46 PL-37	深鉢	46 底部	含繊維	にぶい褐 色	上げ底状を呈する。	黒浜 104坑
51-47 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、器 面ザラつく	褐 色	口縁部はくの字状に屈曲する。波状口縁。器面は磨耗が著しいが部分的に平行線文が認められる。	諸磯 b 108坑
51-48 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維	にぶい褐 色	RL、LR横位により羽状縄文を構成。	黒浜 104坑
51-49 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい橙 色	幅5mmの平行線文により横走、斜走状文を構成。	諸磯 b 109坑
51-50 PL-37	深鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	にぶい赤 褐色	幅5mmの平行線により横走、孤状文を構成。	諸磯 b 110坑
51-51 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	砂粒含み、焼 成良好	橙 色	口縁内湾ぎみの波状口縁。浮線文により文様構成。浮線文上の刻目は細く長め。	諸磯 b 113坑
51-52 PL-37	浅鉢	覆土 胴部	砂粒含み、焼 成良好	褐灰色	器内外面とも整形は丁寧で平滑面を形成。平行線文はためて深く、刻目を加える。刻目部に赤色顔料がわずかに残る。	諸磯 b 115坑
51-53 PL-37	深鉢	53 口縁部	含繊維	にぶい褐 色	口唇上端に平担面をもつ。附加条第1種RL+L、LR+R横位によりヒシ形縄文を構成。内面平滑面を形成。	黒浜 120坑
52-54 PL-37	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい褐 色	口唇上端に平担面をもつ。LR、RL横位により羽状縄文を構成。器面整形良好で内面は平滑面を形成。	黒浜 120坑
52-55 PL-37	深鉢	55 胴部	含繊維	橙 色	LR横位。	黒浜 122坑
52-56 PL-37	深鉢	56 胴部	含繊維	にぶい橙 色	平行線は粗雑で一方が深く施文される傾向がある。	黒浜 122坑
52-57 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	粗雑な平行線文が施される。内面に横位の整形痕が残る。	黒浜 122坑
52-58 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	橙 色	直前段反摺RR横位。	黒浜 122坑
52-59 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい橙 色	小波状口縁、直前段反摺LL横位。	黒浜 122坑

第3節 遺物観察表

挿図番号 図版番号	器種	出土位置 遺存状態	胎土	色調	器形・文様・縄文等の観察										備考
52-60 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	橙色	RL、LR横位により羽状縄文を構成。内面にスス状炭化物付着。										黒浜 122坑
52-61 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	頸部に平行線文を巡らせ、以下RL横位が施される。										黒浜 122坑
52-62 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	RL、LR横位により羽状縄文を構成。										黒浜 122坑
52-63 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	褐色	RL、LRR横位により羽状縄文を構成。器内面は平滑面を形成。										黒浜 122坑
52-64 PL-37	深鉢	覆土 胴部	含繊維	にぶい橙 色	幅2mmの平行線文により文様構成。										黒浜 122坑
52-65 PL-38	深鉢	65 胴部	含繊維	にぶい褐 色	不規則な平行線文により横走、斜走状文が構成される。内面平滑。										黒浜 122坑
52-66 PL-37	深鉢	66 胴部	含繊維	にぶい橙 色	RL横位。横位施文時に残る粘土の盛り上りが認められる。器内面に炭化物が付着する。										黒浜 126坑
52-67 PL-37	深鉢	67 底部	含繊維	にぶい橙 色	上げ底状を呈する。底面整形良好で平滑面を形成。RL横位が一部に観察される。										黒浜 126坑
52-68 PL-38	深鉢	68 胴部	含繊維	橙色	RL横位。原体はよく燃られているが、施文はやや粗く無施文部が部分的に認められる。内面に炭化物が付着する。										黒浜 126坑
52-69 PL-38	深鉢	69 底部	含繊維	明褐色	表面剥落が著しい。一部にRL横位が認められる。内面に炭化物が付着する。										黒浜 126坑
52-70 PL-38	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量少ない	にぶい橙 色	RL横位。整形良好で器内面は平滑面を形成する。										黒浜 126坑
52-71 PL-38	深鉢	覆土 口縁部	含繊維、繊維 量少ない	灰褐色	RL、LR横位により羽状（ヒシ形状）縄文を構成。原体、施文とも良好。整形は良好で、内面は平滑面を形成する。										黒浜 126坑
52-72 PL-38	深鉢	覆土 胴部	含繊維、繊維 量少ない	灰褐色	RL、LR横位によりヒシ形状縄文を構成。器面整形良好で、内面平滑面を形成。繊維は器外へ殆んど露出しない。										黒浜 126坑
番号	出土位置	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	53-94	104坑	使剝	8.5	5.5	1.2	37.6	黒頁
52-73	15坑	磨石	12.3	10.0	4.8	787.0	花崗	54-95	115坑	加剝	2.7	3.9	0.5	5.1	黒安
52-74	18坑	石匙	7.3	5.7	0.9	36.4	黒頁	54-96	115坑	加剝	5.8	3.4	1.1	19.2	黒頁
52-75	28坑	加剝	6.3	5.2	2.0	62.8	黒頁	54-97	115坑	礫	9.6	7.0	6.0	599.7	花崗
52-76	30坑	加剝	8.4	6.8	2.1	107.8	黒頁	54-98	119坑	礫	10.2	6.7	4.7	477.6	花崗
52-77	32坑	磨石	9.2	6.1	5.3	292.9	粗安	54-99	120坑	使剝	7.0	6.8	1.4	51.0	黒頁
53-78	35坑	打斧	12.9	8.8	3.2	302.8	黒頁	54-100	122坑	使剝	8.0	5.1	1.5	39.0	黒頁
53-79	38坑	加剝	4.0	4.1	1.0	21.1	黒頁	55-101	包含層	磨斧	7.4	4.7	2.3	92.4	緑片
53-80	40坑	打斧	6.6	5.1	2.8	96.6	黒頁	55-102	包含層	加剝	8.5	5.0	2.3	94.6	黒頁
53-81	40坑	石匙	4.3	6.5	1.1	22.1	黒頁	55-103	包含層	磨石	7.3	4.9	4.7	200.5	はん
53-82	40坑	加剝	8.3	5.8	2.2	66.6	黒頁	55-104	包含層	凹石	8.8	6.5	4.9	260.7	変はん
53-83	40坑	敲石	14.5	5.7	3.8	629.0	石閃	56-105	表採	石核	8.0	9.1	4.0	297.5	黒安
53-84	40坑	磨石	13.0	8.7	3.0	567.2	ひん	56-106	表採	加剝	4.5	4.4	1.8	18.6	黒頁
53-85	41坑	加剝	5.0	5.1	2.2	46.1	黒頁	56-107	表採	加剝	7.1	5.1	1.9	69.6	細安
53-86	41坑	磨石	12.3	10.7	6.3	1305.0	ひん	56-108	表採	加剝	6.4	8.0	1.4	88.8	細安
53-87	42坑	磨斧	7.5	4.2	2.9	126.9	変輝	56-109	表採	加剝	4.2	7.2	1.4	41.1	黒頁
53-88	44坑	石錐	3.5	3.8	1.0	6.9	黒頁	56-110	表採	使剝	7.0	5.2	1.8	52.2	黒頁
53-89	44坑	使剝	4.0	3.3	1.2	11.3	珪頁	56-111	表採	使剝	8.5	6.0	2.3	68.1	黒頁
53-90	46坑	磨石	9.3	9.3	5.1	702.0	石閃	56-112	表採	凹石	11.4	9.7	3.9	423.7	安凝
53-91	77坑	磨斧	6.7	3.5	1.0	39.2	変蛇	56-113	表採	礫	7.8	7.2	5.3	404.3	花崗
53-92	77坑	礫	24.5	16.3	6.2	3496.0	ひん	56-114	表採	礫	9.7	7.8	3.7	354.3	石閃
53-93	103坑	礫	8.3	5.3	4.2	270.5	流								

第3章 科学分析

第1節 下牧小竹遺跡土坑内土壌リン・カルシウム分析報告

パリノ・サーベイ株式会社

1. はじめに

本遺跡では、縄文時代前期とみられる住居址の周辺に数多くの土坑が検出されている。これらの土坑内には、中心部に必ず大きな礫が出土している。考古学的所見からは、これらの土坑が埋葬施設（墓墳）に利用され、人骨がこの石の下に埋納された可能性が指摘されているが、これを裏付ける骨などの具体的な証拠は確認されていない。そこで、自然科学的検証が要請されることとなり、石（礫）直下土壌のリン・カルシウム含量を測定し、含量の多少から骨の痕跡を探り、その用途について検討することとなった。

2. 試料

試料は、15・28・31・33・100・110・120号の7基の各土坑内の礫直下土壌7点（図1）と、土坑内試料の対比試料として表土・遺物包含層の第3層・ローム層3点、合計10点である。

3. 分析方法

粉碎、篩別した試料について、過塩素酸分解を行った後、リンについてはバナドモリブデン酸法により全リン酸（ $T-P_2O_5$ ）を、またカルシウムについては原子吸光光度法により全カルシウム（ $T-CaO$ ）をそれぞれ測定した。

分析の工程は以下の通りである。

- (1) 試料は乾燥、粉碎した後、0.5mmの篩を全通させて供試した。
- (2) 水分は、加熱減量法により測定した。
- (3) 試料の一定量を秤りとり、はじめに硝酸（ HNO_3 ）により、次に過塩素酸（ $HClO_4$ ）により加熱分解をおこなった。
- (4) 本分解液の一定量を採取し、発色液を加えて、比色法によりリン酸を測定した。
- (5) 別に分解液の一定量を採取し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度法によりカルシウムを測定した。

4. 結果・考察

結果は、表1および図1に示すとおりである。

リン含量については、土坑内いずれの土壌も乾土1gあたり1mg前後の低い値である。また、対比試料との比較においては、包含層の3層あるいは表土と近似した値で、土坑内の方が顕著に高いとはいえない。ただし、対比試料の中でもロームよりは高い値が認められる。

一方、カルシウム含量については全体的にリンよりもさらに低く、顕著な濃集部や対比試料との明瞭な差も認められない。

したがって、今回の分析に供した7基の土坑全てにリン・カルシウムの多量集積は認められず、礫直下にリン・カルシウム含量を多く含むものが埋められた可能性を示唆する結果を得ることはできなかった。

第1節 下牧小竹遺跡土坑内土壌リン・カルシウム分析

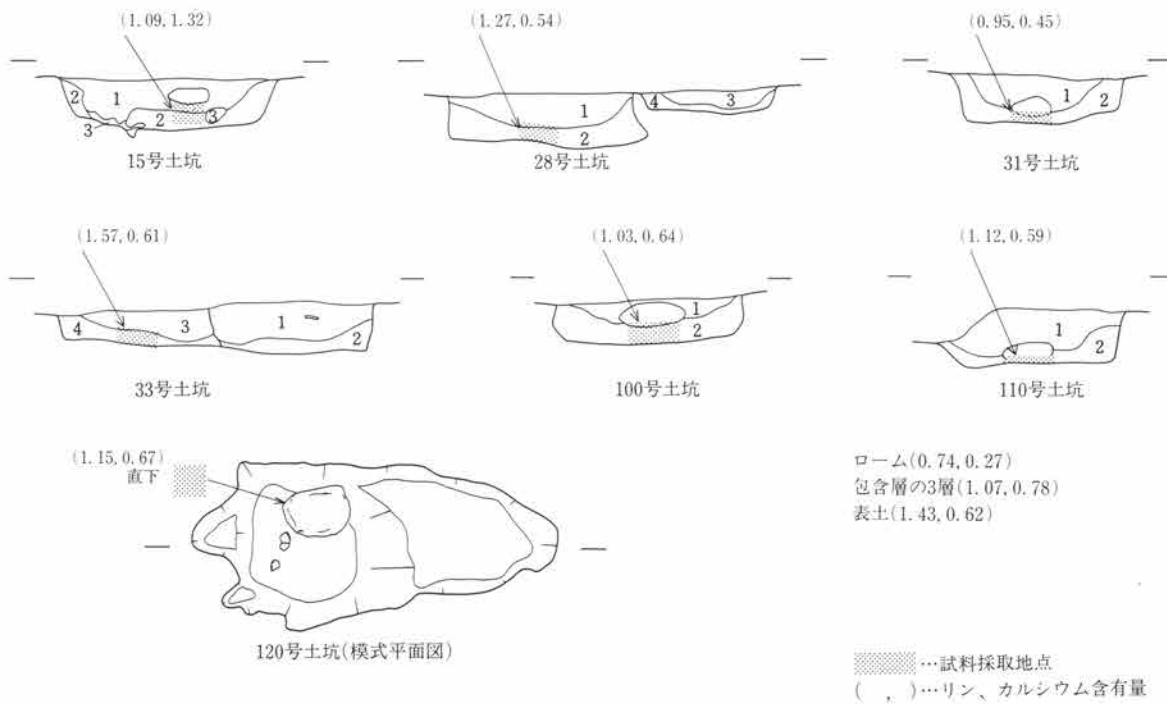


図1 下牧小竹遺跡模式土坑断面のリン・カルシウム分析試料採取位置及びその含有量

表1 下牧小竹遺跡土坑内土壌リン・カルシウム分析結果

遺構名	試料採取場所	リン	カルシウム
		P ₂ O ₅ mg/g	CaOmg/g
15号土坑	礎直下	1.09	1.32
28号土坑	礎直下	1.27	0.54
31号土坑	礎直下	0.95	0.45
33号土坑	礎直下	1.57	0.61
100号土坑	礎直下	1.03	0.64
110号土坑	礎直下	1.12	0.59
120号土坑	礎直下	1.15	0.67
	ローム	0.74	0.27
包含層	3層	1.07	0.78
	表土	1.43	0.62

注. リン・カルシウム含量の単位は、乾土1gあたりのmgである。

<文献>

土壤標準分析・測定法委員会編(1986) 土壤標準分析・測定法, 354P., 博友社.
 ジョン・G・エバンス(1982): 環境考古学入門、加藤晋平訳, P. 96-97., 雄山閣
 京都大学農学部農芸化学教室編(1957) 農芸化学実験書(第1巻), 411P., 産業図書

第2節 下牧小竹遺跡出土黒曜石の原産地推定

二宮修治（東京学芸大学教育学部）

藁科 実（東京学芸大学教育学部）

網干 守（成城学園高等学校）

大沢眞澄（東京学芸大学教育学部）

(1) はじめに

群馬県下牧小竹遺跡（利根郡月夜野町）第8号住居跡（縄文時代前期、諸磯b式期）出土黒曜石4資料の原産地推定を行った。黒曜石石器の原産地推定は、諸種微量成分元素存在量にもとづく方法により行った。黒曜石の諸種微量成分元素の定量には、機器中性子放射化分析を用いた¹⁾。

日本各地に産出する黒曜石は、比較的限定されており、多くの原産地について研究がなされている²⁾³⁾。代表的な本邦産黒曜石の微量成分元素存在量はすでに報告されており、これらの微量成分元素存在量により、原産地黒曜石の詳細な識別・分類が可能である。従って、遺跡出土黒曜石の微量成分元素を原産地黒曜石の微量成分元素存在量と対比することにより遺跡出土黒曜石の原産地推定は達成される⁴⁾。

これまでの研究によれば、関東地方およびその周辺地域における先史時代文化層より出土した黒曜石石器の原産地として、長野県・和田峠およびその周辺、星ヶ塔（霧ヶ峰）、麦草峠（八ヶ岳）、神奈川県・畑宿（箱根）、静岡県・柏峠（伊豆）、東京都・神津島（伊豆七島）などが知られている⁴⁾⁵⁾。また、栃木県内、千葉県内の遺跡では、栃木県高原山産の黒曜石の使用頻度も高い⁶⁾⁷⁾。

一方、群馬県内の遺跡出土黒曜石の原産地推定は、これまでに鈴木らのグループにより精力的に行われており、糸井宮前遺跡（利根郡月夜野町）⁸⁾では和田峠産2点、星ヶ塔産77点、三後沢遺跡（利根郡月夜野町）⁹⁾では和田峠産2点、星ヶ塔産5点の他に神津島産3点、上野国分僧寺・尼寺中間地域（前橋市元総社町、群馬郡群馬町）¹⁰⁾ではすべて星ヶ塔産和和峠産11点、星ヶ塔産5点の使用例が報告されている。

本研究では、下牧小竹遺跡出土黒曜石資料の原産地推定を目的として、本遺跡出土黒曜石資料4片について、機器中性子放射化分析により諸種微量成分元素を定量を行い、定量された微量成分元素存在量によりこれら遺跡出土黒曜石の原産地を推定した。

さらに、比較のために、国分寺中間地域遺跡A区（前橋市元総社町）、同J区（群馬郡群馬町）出土黒曜石5点（主に縄文中期）についても検討した。

(2) 資 料

本研究に供した、下牧小竹遺跡出土黒曜石資料、ならびに国分寺中間地域遺跡出土黒曜石資料を第1表に示す。下牧小竹遺跡8号住居跡（縄文前期、諸磯b式期）からは6点の黒曜石が出土しているが、2点は石器であるため今回は分析を行わなかった。

(3) 実験方法

諸種微量成分元素〔主成分元素であるナトリウム（Na）、鉄（Fe）を含む〕の定量には、機器中性子放射化分析を用いた。

第2節 下牧小竹遺跡出土黒曜石の原産地推定

一般に、化学分析においては、岩石のようなケイ酸塩物質の場合、通例としてその存在量が0.01%以上の元素を主成分元素、それ以下の元素を微量成分元素と称する。微量成分元素は、その存在量の単位としてppm (parts per million, $1 \text{ ppm} = 1 \mu\text{g/g}$) を用いる。

一方、分析地球化学では、黒曜石のようなケイ酸塩物質の微量成分元素の定量には、分析感度が高く、かつ分析の信頼性の高い分析法の一つとして放射化分析が用いられることが多い。一般的に利用される放射化分析は機器中性子放射化分析で、これは原子炉内での熱中性子による (n, γ) 反応を用い、放射化した後、放射化学分離を行わず、生成核種の γ 線スペクトロメトリーにより定量する方法である。高感度で多元素の同時定量が可能であり、適当な照射時間、冷却時間、計測時間などの分析条件の選定により効果的な定量分析が可能である。

黒曜石資料の機器中性子放射化分析では、 γ 線の測定時のジオメトリーを一定にするため、一般に資料は細分化して分析に供する。純水—超音波洗浄後、水和層部分を取り除き、再度、純水—超音波洗浄し、ステンレス・スチール製エリス型粉碎器で粉碎し、メノウ乳鉢で細粉 (粒径約0.04mm程度) した。なお、機器中性子放射化分析に供した細粉試料はすべて風乾試料として用いた。

細粉試料約50mgを精秤し、ポリエチレン袋に二重に封入 (約 $1 \times 1 \text{ cm}$) した。標準試料とともに20~25試料を照射キャプセルに入れ、立教大学原子力研究所TRIGA Mark II原子炉回転試料棚 (熱中性子束 $5.0 \times 10^{11} \text{ n/cm}^2 \cdot \text{sec}$) にて熱中性子を24時間断続照射 (1日6時間 \times 4日間) した。

γ 線の測定条件 (測定した生成核種の γ 線の測定条件および測定核種) を第2表に示す。 γ 線測定は、生成核種の半減期の違いにより、測定条件を変え、各試料について3回行った。短寿命核種の測定は、照射終了時から4~5日間冷却後、1,000秒間計測した。中寿命核種の測定は、1~2週間冷却後、5,000秒間計測した。長寿命核種の測定は、1~2ヶ月間冷却後、10,000秒間計測した。 γ 線の測定にはGe(Li)半導体検出器—マルチチャンネル波高分析装置を用いた。

定量は、同時照射した合衆国地質調査所標準岩石¹²⁾ (AGV-1、GSP-1、G-2) を比較標準とする方法 (比較法) により行った。さらに、定量性の検討は、同時照射した地質調査所標準岩石¹³⁾ (JR-1、JR-2) の定量結果により評価した。

本法では、主成分元素であるNaとFe、微量成分元素であるルビジウム (Rb)、セシウム (Cs)、ランタン (La)、セリウム (Se)、サマリウム (Sm)、ユウロピウム (Eu)、イッテルビウム (Yb)、ルテチウム (Lu)、トリウム (Th)、ハフニウム (Hf)、コバルト (Co)、スカンジウム (Sc)、クロム (Cr) の15元素の定量が可能であった。

(4) 結果および考察

定量法の検討のために同時照射した地質調査所標準岩石 (JR-1、JR-2) の定量結果を第3表に示す。得られた値は文献値¹³⁾とよく一致し、今回の分析の定量性が保証された。

下牧小竹遺跡、国分寺中間地域遺跡A区、J区出土黒曜石9資料の定量結果を第4表に示す。各元素の存在量 (濃度) の単位は、主成分元素であるNaおよびFeが%であり、微量成分元素がppmである。

諸種微量成分元素存在量 (以下、ここでは、微量成分元素に主成分元素のNaとFeを含めて論議する) を比較すると、下牧小竹遺跡と国分寺中間地域遺跡の2系統に大きく分類された。

下牧小竹遺跡、国分寺中間地域遺跡A区、J区出土黒曜石9資料の諸種微量成分元素存在量をこれまで報告されている原産地黒曜石の諸種微量成分元素存在量と比較することにより原産地推定が可能である。東日

第3章 科学分析

本のような黒曜石の原産地18地点を第1図に、各原産地18地点ごとの微量成分元素存在量の平均値を第5表に示す。なお、長野県和田峠付近では、数か所の採取地点が知られているが、微量成分元素存在量により大きく2系統に識別・分類され、その2系統は露頭の明確な小深沢、丁子御領とに対応しており、それぞれ和田峠北、和田峠南として区別している。また、神津島については、細分化の可能性もあるが現在のところ1系統として、恩馳島の値を代表値としている。

原産地推定には、微量成分元素存在量を変数とする多変量解析〔拡張統計計算プログラム・パッケージBMDP (Biomedical Computer programs-P) 2M クラスタ分析¹⁴⁾〕を用い、遺跡出土黒曜石1資料ごとに原産地18地点とのクラスタ分析により行った。本法では、定量された15元素のうち黒曜石資料ではその存在量が小さいために測定にともなう計数誤差が大きい検出限界以下のVb、Co、Crを除く12元素を変数として用いた。

クラスタ分析の結果の一例を樹形図として第2図、第3図に示す。第2図は下牧小竹遺跡出土黒曜石#89273資料で、小深沢(和田峠北)と1:1の対応関係で併合しており、小深沢が原産地と推定された。他の下牧小竹遺跡3資料も若干の併合距離の違いはあるがすべて第2図と同様の樹形図が得られた。

第3図は国分寺中間地域遺跡A区出土黒曜石#89277資料で、星ヶ塔と1:1の対応関係で併合しており、星ヶ塔が原産地と推定された。他の国分寺中間地域遺跡4資料もすべて第3図と同様に星ヶ塔と併合した。

下牧小竹遺跡、国分寺中間地域遺跡A区、J区出土黒曜石9資料の原産地推定の結果をまとめて第6表に示す。第6表中の併合距離は、推定原産地の判定規準を得るために前述のクラスタ分析を各原産地の黒曜石を1資料ごとに行って検討した結果での併合距離の範囲内に入っており、併合関係、併合距離からこれらを原産地と推定できた。

以上の結果、下牧小竹遺跡出土黒曜石4資料の原産地はすべて小深沢(和田峠北)、国分寺中間地域遺跡A区、J区出土黒曜石5資料の原産地はすべて星ヶ塔と推定された。

下牧小竹遺跡(利根郡月夜野町)出土黒曜石4資料は一系統の黒曜石で、すべて和田峠北(小深沢)産のものを使用しており、同一地域の糸井宮前遺跡(和田峠2片、星ヶ塔77片)⁹⁾および三後沢遺跡(和田峠2片、星ヶ塔5片、神津島3片)⁹⁾と比較すると、いずれも長野県(和田峠、星ヶ塔)の使用頻度が高いという共通性があるが、後者2遺跡が複数の系統の黒曜石が使用されていることと星ヶ塔の依存度が高いことなど若干傾向が異なっている。また、三後沢遺跡⁹⁾で認められた神津島産黒曜石の使用は、下牧小竹遺跡では認められなかった。

国分寺中間地域遺跡A区、J区(前橋市元総社町、群馬郡群馬町)出土黒曜石5資料は、同一地域の上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡と同様にすべて星ヶ塔産であった。

さらに、富岡市の田篠中原遺跡(和田峠1片、星ヶ塔5片)¹¹⁾を含めて考えても、現段階では、群馬県内の遺跡では長野県内の2原産地(和田峠、星ヶ塔)の使用頻度が高いと言えよう。

これらの黒曜石の原産地推定の結果が意味する考古学的解釈については、現段階ではあまりにも遺跡数ならびに出土黒曜石石器の分析例が少ないために解明される問題ではないであろう。今後、さらに、同地域ならびに周辺地域での遺跡出土黒曜石の原産地に関する組織的な研究が望まれ、原産地推定を進めるにあたっては多くの考古学的研究が基本となると思われる。

謝 辞

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・桜岡正信主任調査研究員には、貴重な試料を提供していただき、

第2節 下牧小竹遺跡出土黒曜石の原産地推定

さらに、考古学に関する有益なご教示をいただいた。また、立教大学原子力研究所・戸村健児教授ならびに所員の方々には、原子炉等利用に関してお世話いただいた。記して深く感謝いたします。

参考文献

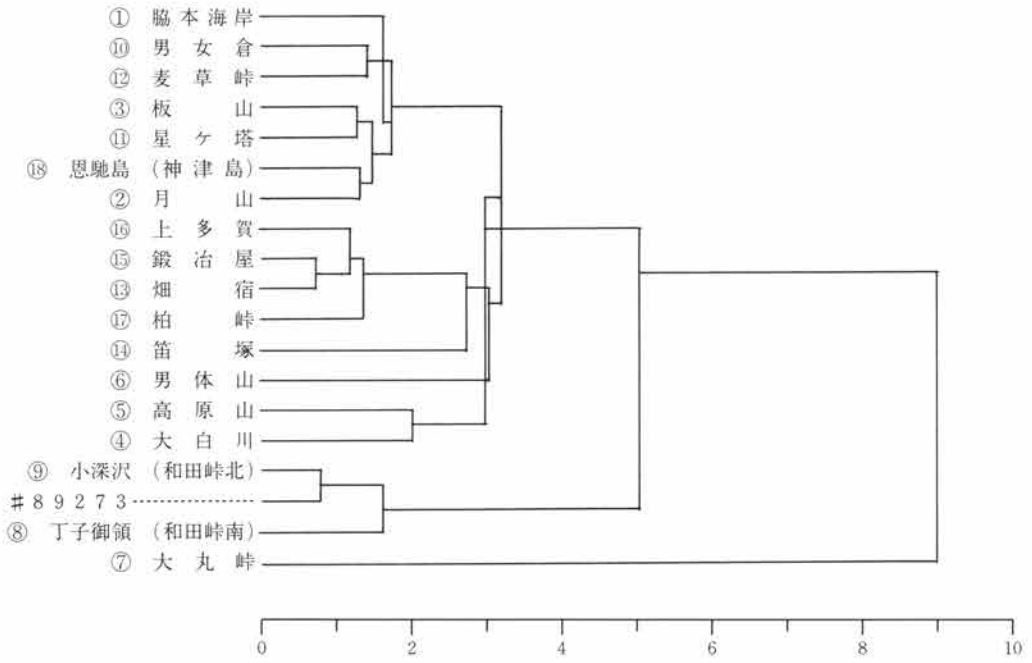
- 1) 二宮修治 (1984) 考古学と周辺科学 6 鉱物学、季刊考古学、雄山閣出版 8:86-90
- 2) 小田静夫 (1982) 「黒曜石」『縄文文化の研究・8 社会・文化』 雄山閣出版:168-179
- 3) 近堂祐弘・勝井義雄・戸村健児・町田 章・鈴木正男・小野 昭 (1980) 「黒曜石の年代測定と産地分析」『考古学・美術史の自然科学的研究』古文化財編集委員会編、日本学術振興会:168-179
- 4) M. Suzuki (1973) Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan, Part I, J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sec. V, 4: 241-318
- 5) M. Suzuki (1974) Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan. Part II, J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. V, 4: 397-469
- 6) 上野修一・二宮修治・網干 守・大沢真澄 (1986) 石器時代の本県域における黒曜石の利用について-栃木県高原山産黒曜石を中心に、栃木県立博物館研究紀要 3:91-115
- 7) 二宮修治・田村 隆・澤野 弘 (1987) 黒曜石、黒色緻密質安山岩、メノウの機器中性子放射化分析による原産地推定、千葉県文化財センター研究紀要 11:57-72
- 8) 『糸井宮前遺跡』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 9) 『三後沢遺跡』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 10) 『上野国分僧寺・尼寺中間地域』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11) 『田篠中原遺跡』 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

- 1 脇本海岸 秋田県男鹿市
 - 2 月 山 山形県西村山郡西川町
 - 3 板 山 新潟県新発田市板山
 - 4 大 白 川 新潟県北魚沼郡入広瀬村
 - 5 高 原 山 栃木県塩谷郡
 - 6 男 体 山 栃木県日光市
 - 7 大 丸 峠 栃木県那須郡那須村
 - 8 和田峠南1) 長野県小県郡和田村
 - 9 和田峠北2) 長野県小県郡和田村
 - 10 男 女 倉 長野県小県郡和田村
 - 11 星 ケ 塔 長野県諏訪郡下諏訪町
 - 12 麦 草 峠 長野県南佐久郡八千穂村
- 1) 丁子御領
2) 小深沢周辺 (小深沢、アゼリア対面、東餅屋、東邦パーライト)

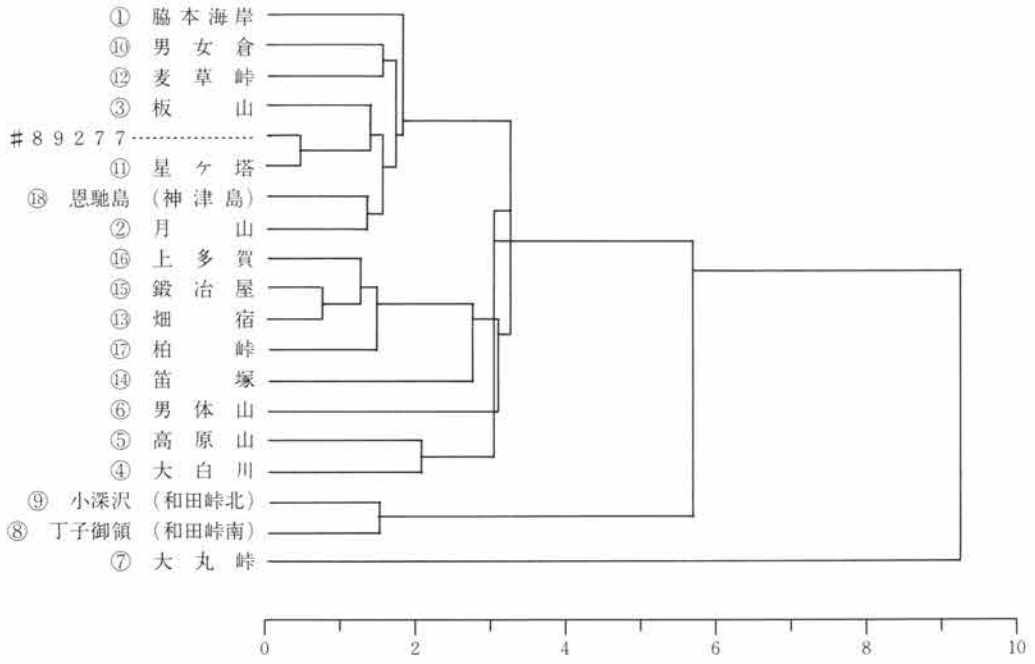


- 13 畑 宿 神奈川県足柄下郡箱根町
- 14 笛 塚 神奈川県足柄下郡箱根町
- 15 鍛 冶 屋 神奈川県足柄下郡湯河原町
- 16 上 多 賀 静岡県熱海市上多賀町
- 17 柏 峠 静岡県四方郡中伊豆町
- 18 神 津 島 東京都神津島村

第3章 科学分析



第2図 併合距離



第3図 併合距離

第1表 分析資料一覧表—遺跡出土黒曜石

試料番号	遺構名	遺物番号
下牧小竹遺跡（群馬県利根郡月夜野町）		
#89273	GMSK-01-01	8号住居覆土中
#89274	GMSK-01-02	8号住居覆土中
#89275	GMSK-01-03	8号住居覆土中
#89276	GMSK-01-04	8号住居覆土中
国分寺中間地域遺跡A区（群馬県前橋市元総社町）		
#89277	GMKT-01-01	A区43号住居覆土中
#89278	GMKT-01-02	A区31号住居覆土中
#89281	GMKT-01-03	A区31号住居覆土中
国分寺中間地域遺跡J区（群馬県群馬郡群馬町）		
#89279	GMKT-02-01	J区表採
#89280	GMKT-02-02	J区28号住居

第2表 機器中性子放射化分析の測定条件

測定	冷却時間	測定時間	定		量	
			元素	核種	半減期	γ線のエネルギー (keV)
① 短寿命核種	4～6日間	1,000秒間	Na	²⁴ Na	14.659 h	1368、2754
			La	¹⁴⁰ La	1.6780d	487、1595
			Sm	¹⁵³ Sm	1.946 d	103
② 中寿命核種	1～2週間	5,000秒間	La	¹⁴⁰ La	1.6780d	487、1596
			Sm	¹⁵³ Sm	1.946 d	103
			Lu	¹⁷⁷ Lu	6.71 d	208
			Rb	⁸⁶ Rb	18.66 d	1077
			Th*	²³³ Pa	27.0 d	312
			Cr	⁵¹ Cr	27.704 d	320
			Ce	¹⁴¹ Ce	32.50 d	145
			Fe	⁵⁹ Fe	44.496 d	1099、1292
			Sc	⁴⁶ Sc	83.83 d	889、1120
③ 長寿命核種	1～2カ月間	10,000秒間	Rb	⁸⁶ Rb	18.66 d	1077
			Th*	²³³ Pa	27.0 d	312
			Cr	⁵¹ Cr	27.704 d	320
			Vb	¹⁶⁹ Vb	32.022 d	198
			Ce	¹⁴¹ Ce	32.50 d	145
			Hf	¹⁸¹ Hf	42.39 d	133、482
			Fe	⁵⁹ Fe	44.496 d	1099、1292
			Sc	⁴⁶ Sc	83.83 d	889、1120
			Cs	¹³⁴ Cs	2.062 y	606、796
			Co	⁶⁰ Co	5.271 y	1173、1332
			Eu	¹⁵² Eu	13.33 y	122、1408

* : $^{233}\text{Th} \xrightarrow{\beta^-} ^{233}\text{Pa}$
22.1m

第3表 機器中性子放射化分析による標準岩石JR-1、JR-2の定量結果 (Na、Fe以外はppm)

試料	Na (%)	Fe (%)	Rb	Cs	La	Ce	Sm	Eu	Yb	Lu	Th	Hf	Co	Sc	Cr
JR-1															
0134 (8901)	2.88	0.64	240	20	20	42	6.7	0.31	4.4	0.68	25	4.6	0.7	5.3	4
文献値	3.04	0.67	257	20.2	21	49	6.2	0.31	4.6	0.68	26.5	4.7	0.65	5.2	2.3
JR-2															
01035 (8901)	3.10	0.55	310	28	17	39	7.1	0.08	5.5	0.85	33	5.4	n.d.	6.0	n.d.
文献値	2.99	0.60	297	26	17.5	38	6.2	0.13	5.4	0.92	32.2	5.2	0.4	5.4	2.6

n.d. : 検出せず

第4表 下牧小竹遺跡、国分寺中間遺跡出土黒曜石の諸種微量元素成分元素存在量－機器中性子放射化分析 (Na、Fe以外はppm)

試料	Na(%)	Fe(%)	Rb	Cs	La	Ce	Sm	Eu	Yb	Lu	Th	Hf	Co	Sc	Cr
[下牧小竹遺跡 (群馬県利根郡月夜野町)]															
#89273 GMSK-01-01	2.91	0.50	250	22	20	44	6.9	0.19	4.6	0.72	26	4.5	n.d.	5.0	6
#89274 GMSK-01-02	2.93	0.51	260	22	20	45	7.0	0.17	4.7	0.72	27	4.9	n.d.	5.1	5
#89275 GMSK-01-03	2.89	0.50	250	22	20	44	6.8	0.14	4.6	0.70	27	4.4	n.d.	5.1	5
#89276 GMSK-01-04	3.04	0.55	280	23	21	46	7.2	0.16	4.9	0.74	28	4.7	n.d.	5.3	5
[国分寺中間地域遺跡A区 (群馬県前橋市元総社町)]															
#89277 GMKT-01-01	2.95	0.47	140	7.5	15	33	4.8	0.67	2.7	0.37	10	3.4	n.d.	2.8	4
#89278 GMKT-01-02	2.91	0.46	140	7.8	14	32	4.7	0.62	2.5	0.37	9.8	3.3	n.d.	2.8	3
#89281 GMKT-01-03	3.00	0.49	140	8.1	15	33	5.0	0.68	3.0	0.43	10	3.5	n.d.	2.9	4
[国分寺中間地域遺跡J区 (群馬県群馬郡群馬町)]															
#89279 GMKT-02-01	2.97	0.49	130	7.7	15	32	4.8	0.64	2.8	0.38	9.9	3.3	n.d.	2.8	4
#89280 GMKT-02-02	2.96	0.47	140	7.8	14	32	4.8	0.65	2.5	0.38	9.7	3.3	n.d.	2.8	4
n.d.: 検出せず															

第5表 東日本の主な黒曜石産地の化学組成 (平均値)－機器中性子放射化分析 (Na、Fe以外はppm)

原産地	Na(%)	Fe(%)	Rb	Cs	La	Ce	Sm	Eu	Yb	Lu	Th	Hf	Co	Sc	Cr
① 脇本海岸	2.97	0.48	170	4.0	24	35	3.6	0.52	2.2	0.49	21	2.6	0.2	1.6	4
② 月山	3.29	0.55	110	4.7	13	26	2.9	0.75	2.3	0.38	7.9	2.6	0.3	2.8	3
③ 板山	2.56	0.52	150	5.8	18	35	3.6	0.46	2.9	0.45	11	2.3	0.2	3.2	2
④ 大白川	3.00	1.55	100	2.6	31	59	7.2	1.3	5.0	0.75	10	6.6	0.3	4.8	3
⑤ 高原山	2.79	1.37	110	5.6	26	48	5.9	0.99	3.9	0.56	12	5.2	1.6	8.0	4
⑥ 男体山	2.85	4.28	60	2.0	21	41	4.9	1.3	2.4	0.44	4.9	3.5	8.4	22	8
⑦ 大丸峠	0.54	4.59	120	11	48	96	9.6	2.2	4.8	0.80	18	8.6	36	41	90
⑧ 和田峠南(丁子御領)	2.81	0.56	320	27	18	37	6.6	0.12	3.8	0.94	31	5.2	0.2	6.0	4
⑨ 和田峠北(小深沢)	2.91	0.56	270	21	20	44	6.8	0.24	4.5	0.84	27	4.8	0.3	5.6	3
⑩ 星ヶ塔	2.90	0.46	160	6.6	16	32	4.8	0.62	2.2	0.41	10	3.4	0.1	2.9	4
⑪ 男女倉	2.83	0.70	170	7.8	27	48	4.9	0.65	2.3	0.39	15	4.5	0.3	3.1	4
⑫ 麦草峠	2.93	0.67	100	5.0	25	44	4.0	0.68	1.4	0.33	8.9	3.9	0.4	2.3	4
⑬ 上多賀	3.31	1.22	40	1.5	11	24	3.9	0.83	2.6	0.62	2.2	4.8	1.1	8.2	4
⑭ 畑宿	3.47	1.86	30	2.2	8.6	19	4.6	1.2	2.9	0.59	1.3	4.3	1.2	14	4
⑮ 笛塚	3.78	3.58	20	1.4	6.0	16	4.0	1.3	3.4	0.54	0.7	3.1	4.2	24	2
⑯ 鍛冶屋	3.52	1.75	20	2.7	11	24	4.9	1.1	4.2	0.58	2.0	5.1	0.6	13	2
⑰ 柏峠	2.96	1.24	50	3.4	12	26	5.1	0.88	4.0	0.66	3.0	5.8	1.2	7.9	2
⑱ 神津島(恩馳島)	3.28	0.62	70	2.7	20	37	3.6	0.61	2.2	0.41	4.8	2.6	0.4	3.6	3

第6表 分析資料一覧表－遺跡出土黒曜石

試料番号	併合関係		推定原産地
	原産地 ¹⁾	併合距離	
[下牧小竹遺跡]			
#89273 GMSK-01-01	和田峠北	0.784	和田峠北
#89274 GMSK-01-02	和田峠北	0.744	和田峠北
#89275 GMSK-01-03	和田峠北	0.915	和田峠北
#89276 GMSK-01-04	和田峠北	0.754	和田峠北
[国分寺中間地域遺跡 A区]			
#89277 GMKT-01-01	星ヶ塔	0.403	星ヶ塔
#89278 GMKT-01-02	星ヶ塔	0.443	星ヶ塔
#89281 GMKT-01-03	星ヶ塔	0.446	星ヶ塔
[国分寺中間地域遺跡 J区]			
#89279 GMKT-02-01	星ヶ塔	0.473	星ヶ塔
#89280 GMKT-02-02	星ヶ塔	0.428	星ヶ塔

1) 遺跡出土黒曜石資料が最初に併合した原産地

写 真 图 版



2号住居跡 全景



2号住居跡 竈遺物出土状況



2号住居跡 竈出土遺物



2号住居跡 竈出土遺物



2号住居跡 竈出土遺物



2号住居跡 竈出土遺物



2号住居跡 竈



2号住居跡 竈掘り方



2号住居跡 掘り方



1号住居跡



3号住居跡



3号住居跡 炉



3号住居跡 炉



3号住居跡 炉



4号住居跡 全景



4号住居跡 掘り方



5号住居跡 全景



5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡 遺物出土状況



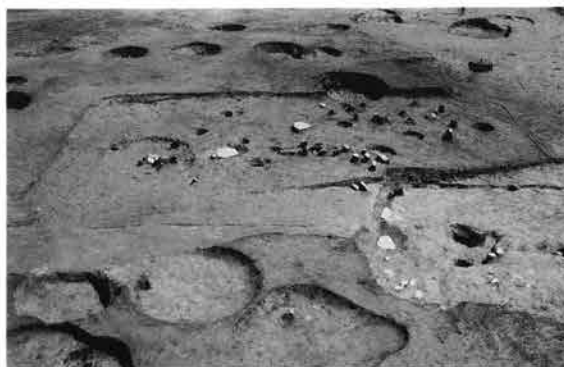
5号住居跡 出土遺物



5号住居跡 掘り方



7号住居跡 全景



7号住居跡 全景



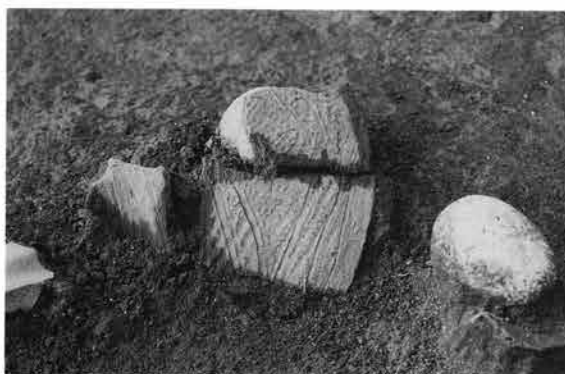
7号住居跡 出土遺物



7号住居跡 出土遺物



7号住居跡 出土遺物



7号住居跡 出土遺物



7号住居跡 遺物出土状況



7号住居跡 出土遺物



7号住居跡 出土遺物



8号住居跡 全景



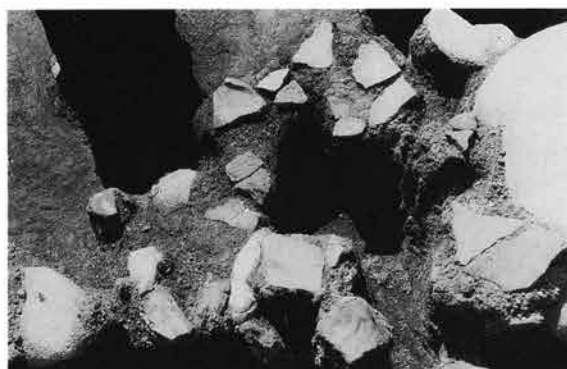
8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 遺物出土状況



8号住居跡 出土遺物



8号住居跡 炉



8号住居跡 炉



8号住居跡 炉



8号住居跡 炉



8号住居跡 炉



8号住居跡 掘り方



9号住居跡 全景



10号住居跡 全景



10号住居跡 遺物出土状況



10号住居跡 遺物出土状況



10号住居跡 掘り方



2号土坑



4号土坑



5号土坑



6号土坑



7·8号土坑



10·11号土坑



13号土坑



14号土坑



15号土坑



16·17号土坑



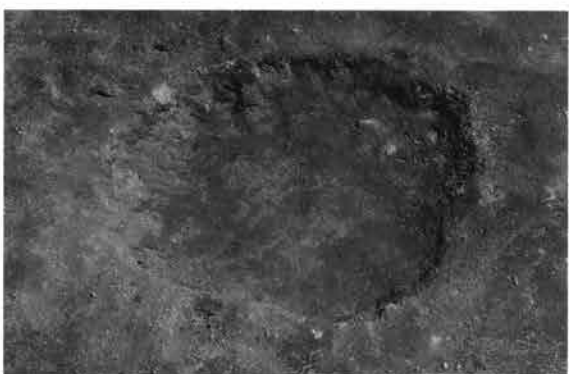
18号土坑



20号土坑



21·22号土坑



23号土坑



24号土坑



25号土坑



26号土坑



27号土坑



28·29号土坑



30号土坑



32·33号土坑



34号土坑



35号土坑



36号土坑



37·38号土坑



39号土坑



40号土坑



41号土坑



42号土坑



43号土坑



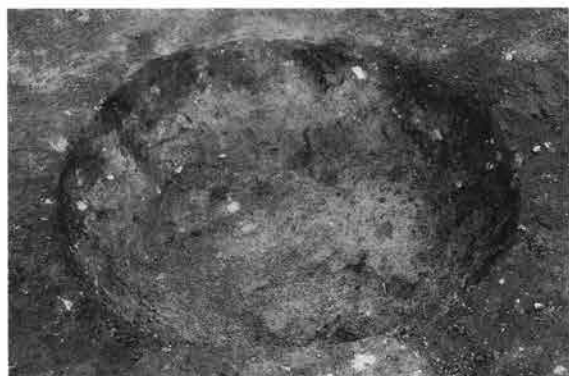
44号土坑



45·46号土坑



47号土坑



48号土坑



50号土坑



52号土坑



53号土坑



54·55·56号土坑



57号土坑



58号土坑



59号土坑



60号土坑



61号土坑



62号土坑



63号土坑



65号土坑



66·67号土坑



68号土坑



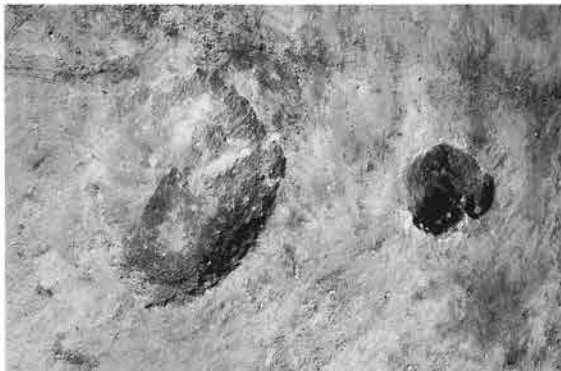
69·71·72号土坑



70号土坑



73号土坑



74・75号土坑



77号土坑



77号土坑 掘り方



80号土坑



81号土坑



82・101号土坑



83号土坑



84号土坑



85号土坑



86号土坑



87号土坑



88号土坑



89号土坑



90号土坑



92号土坑



93号土坑



94号土坑



95号土坑



97号土坑



98号土坑



99号土坑



100号土坑



102号土坑



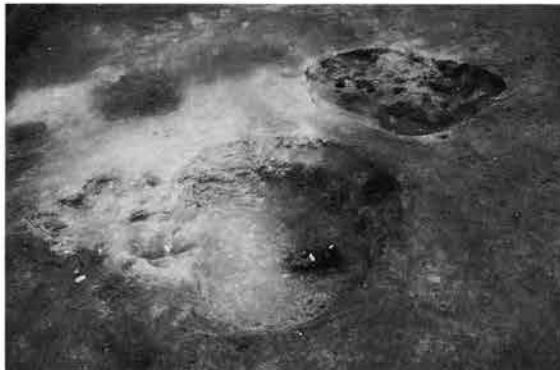
103号土坑



104号土坑



105号土坑



106·107号土坑



108号土坑



109号土坑



110号土坑



110 · 111 · 112 · 113号土坑



114号土坑



115号土坑



116号土坑



119号土坑



120号土坑



121号土坑



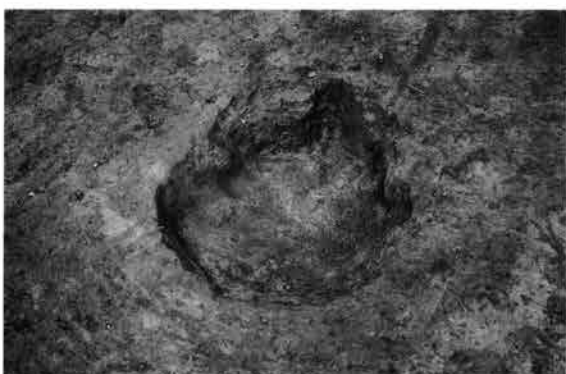
122号土坑



123号土坑



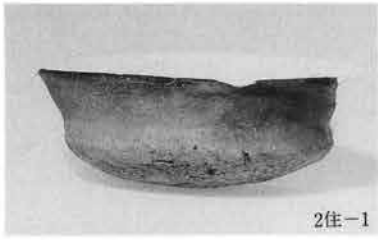
124号土坑



125号土坑



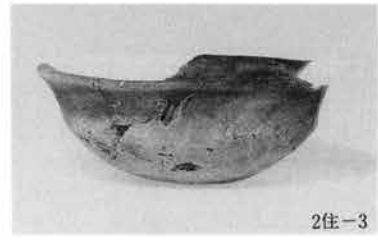
126号土坑



2住-1



2住-2



2住-3



2住-4



2住-5



1住-4



1住-1



1住-2



1住-3



1住-5



1住-6



1住-8



1住-10



1住-7



1住-12



1住-15



1住-9



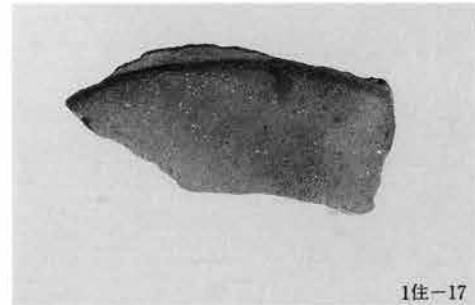
1住-11



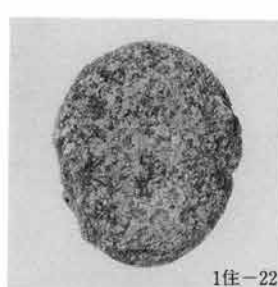
1住-13

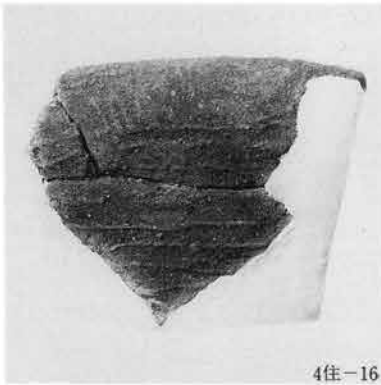


1住-14



1住-17





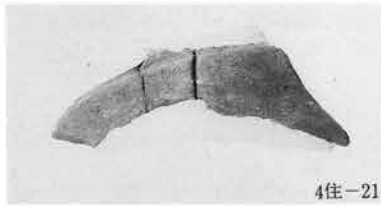
4住-16



4住-19



4住-20



4住-21



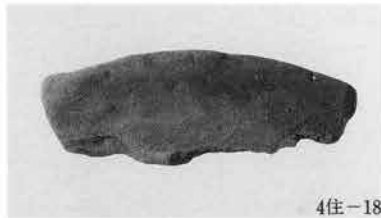
4住-22



4住-23



4住-26



4住-18



4住-24



4住-25



4住-27



4住-29



4住-28



4住-30



4住-31



4住-32



4住-33



4住-34



4住-35



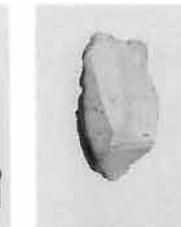
4住-36



4住-37



4住-38



4住-39



4住-40



4住-41



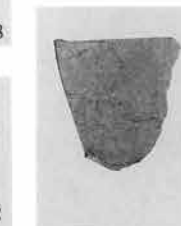
4住-42



4住-43



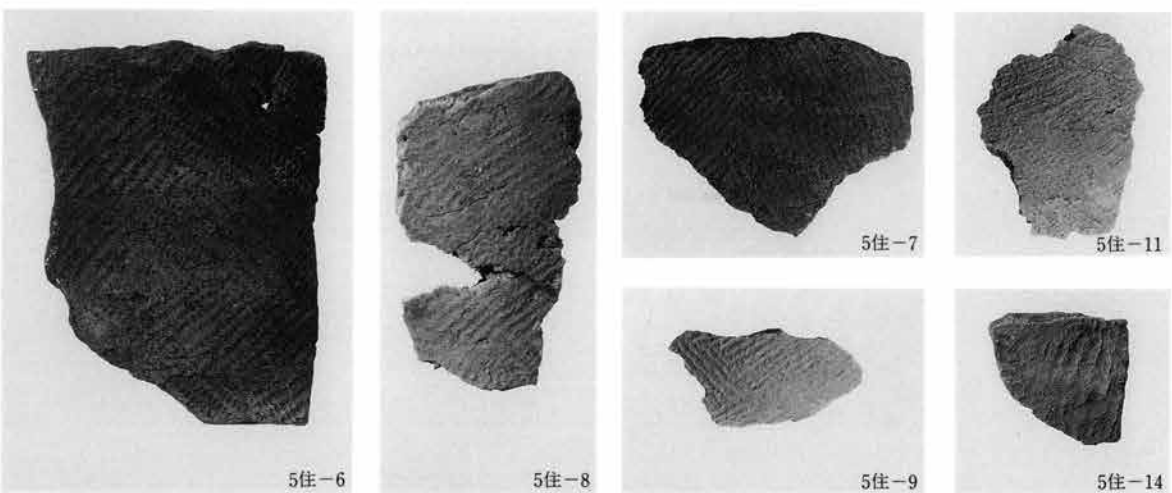
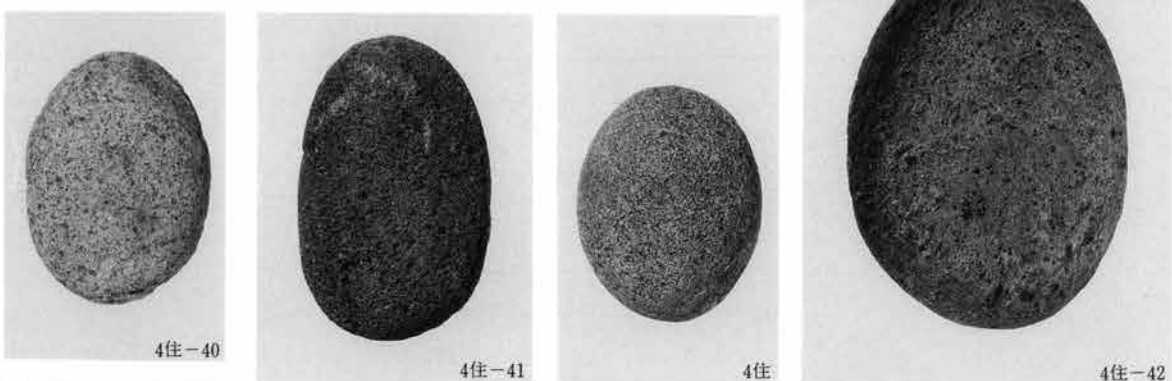
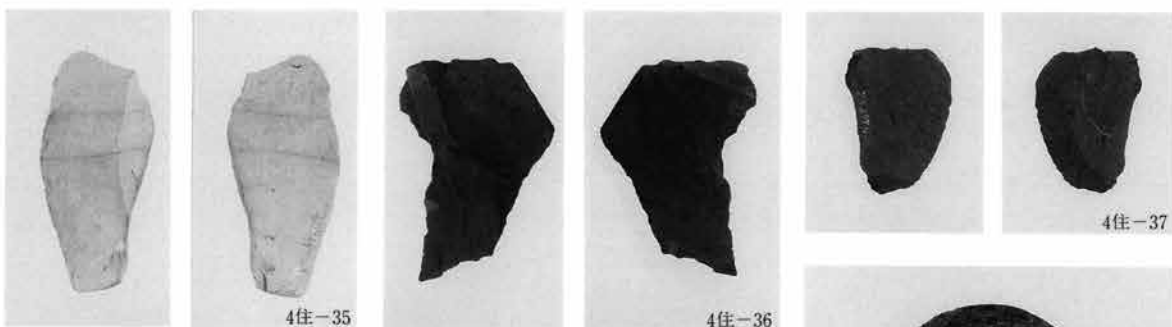
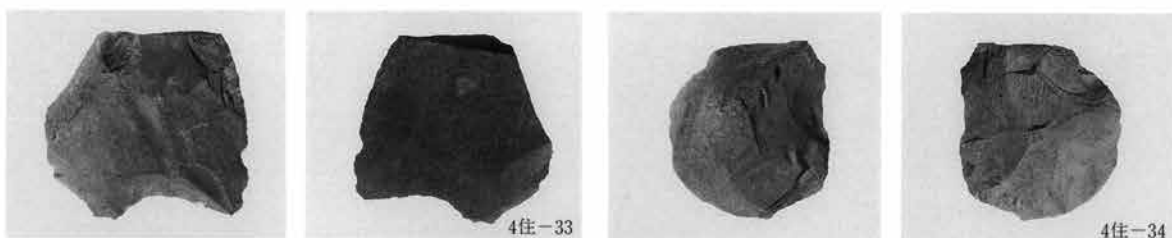
4住-44

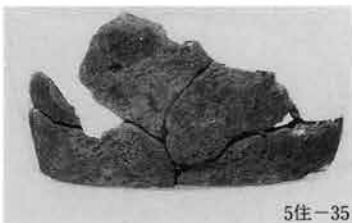
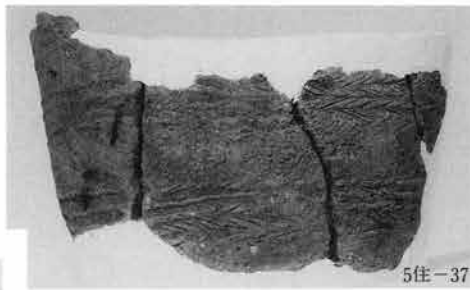
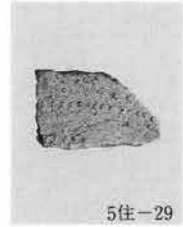


4住-45



4住-46







5住-46



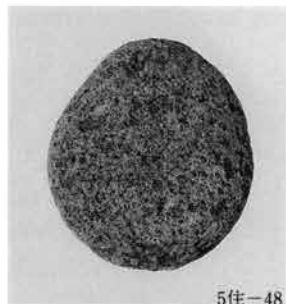
5住-47



7住-4



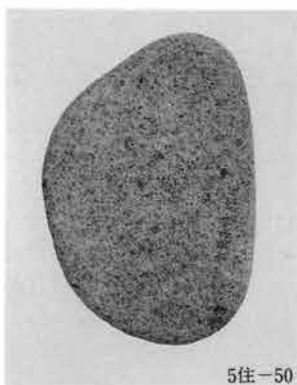
7住-5



5住-48



5住-49



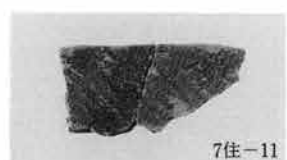
5住-50



7住-6



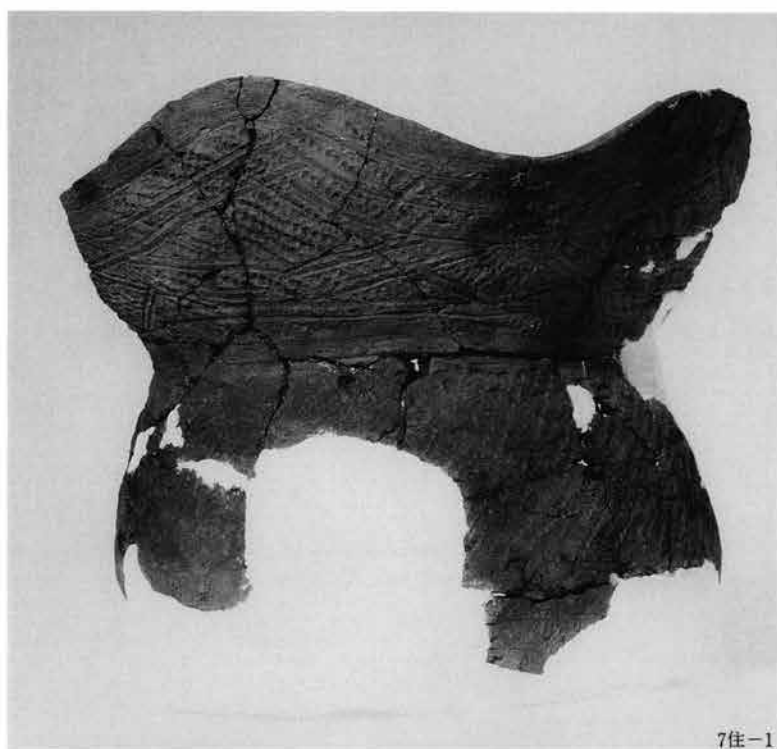
7住-8



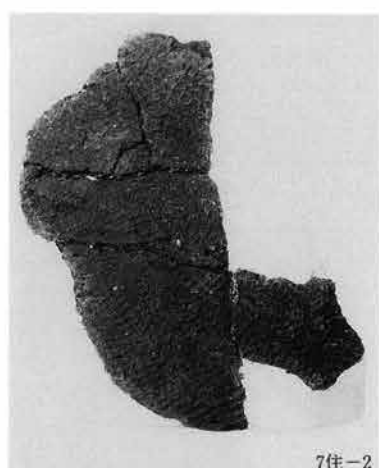
7住-11



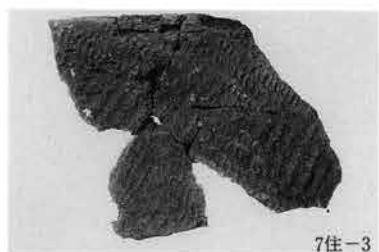
7住-7



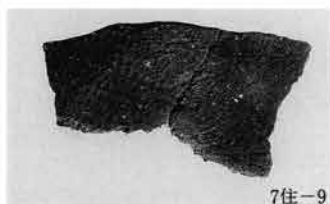
7住-1



7住-2



7住-3



7住-9



7住-10



7住-13



7住-14



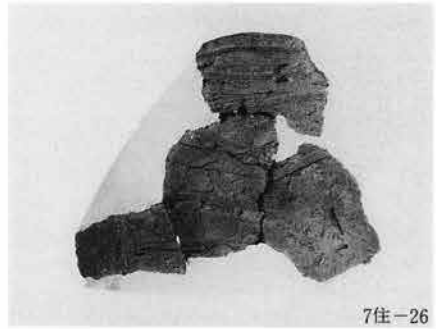
7住-12



7住-15



7住-16



7住-26



7住-19



7住-21



7住-17



7住-23



7住-18



7住-24



7住-22



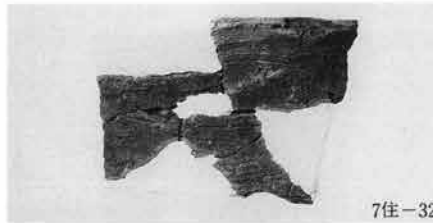
7住-30



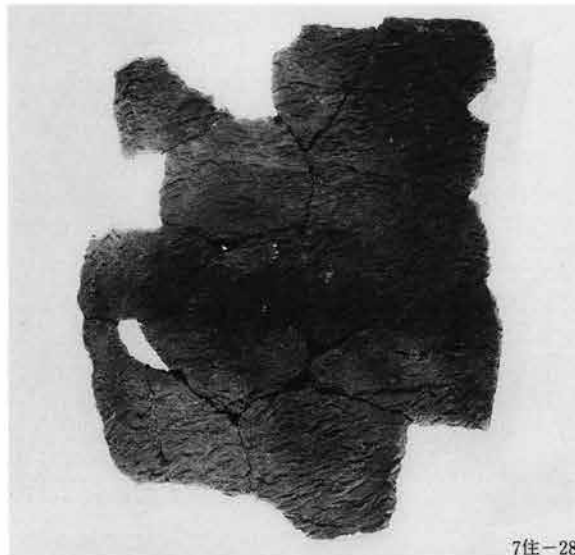
7住-27



7住-25



7住-32



7住-28



7住-29



7住-31



7住-33



7住-37



7住-46



7住-51



7住-41



7住-54



7住-55



7住-49



7住-52



7住-50



7住-53



7住-59



7住-57



7住-56



7住-58



7住-62



7住-60



7住-63



7住-61



7住-64



7住-66



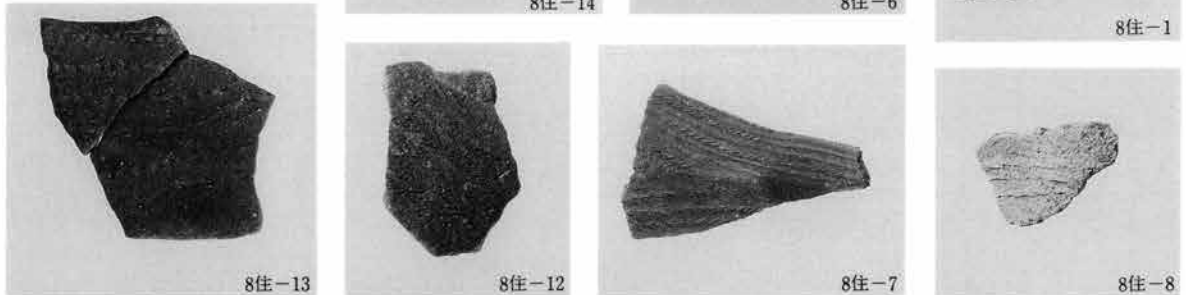
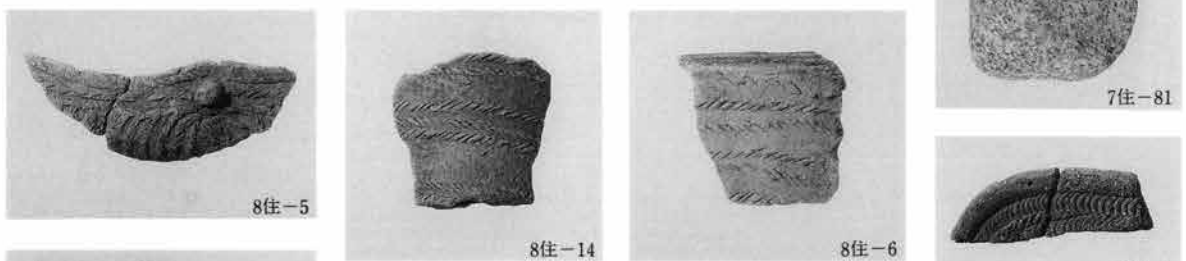
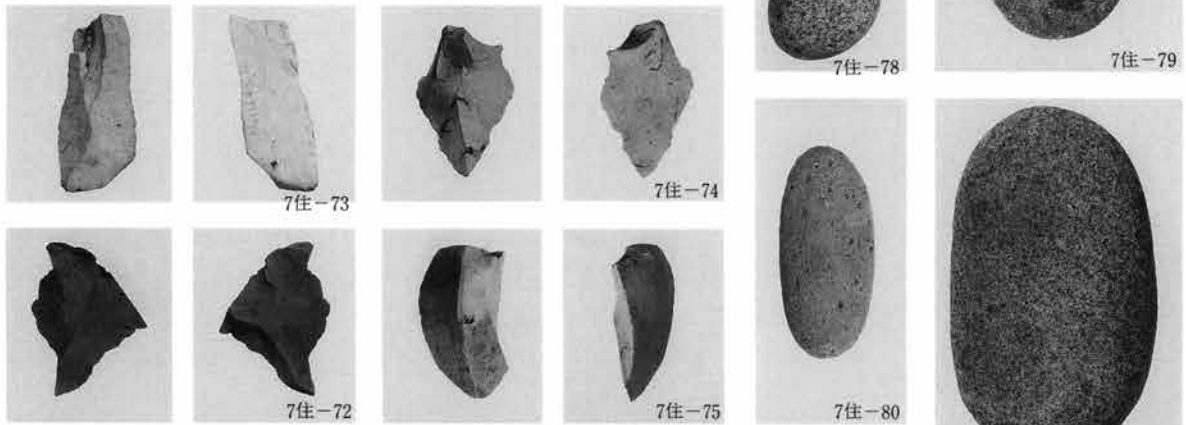
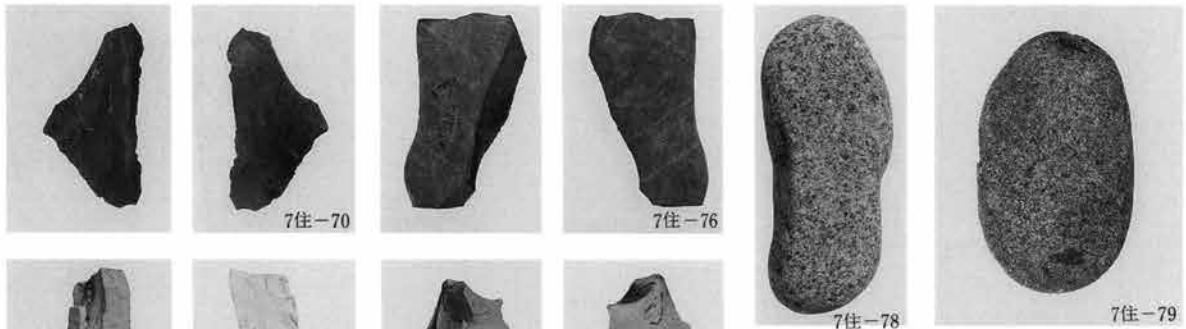
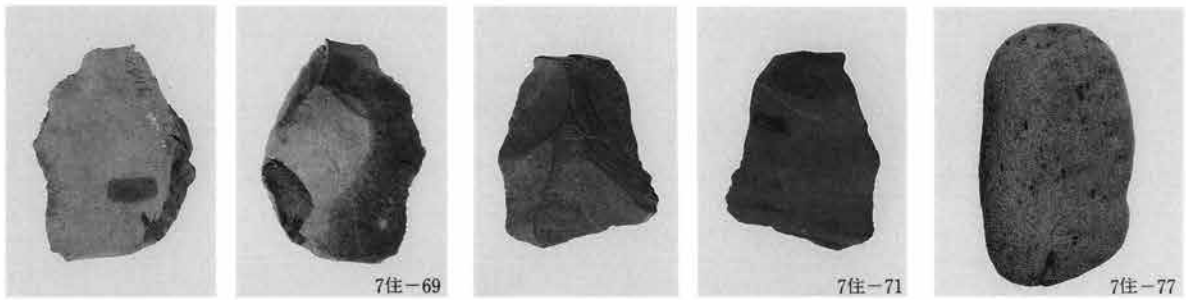
7住-65

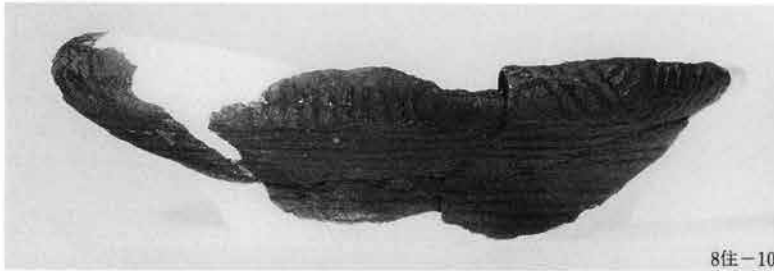


7住-67



7住-68





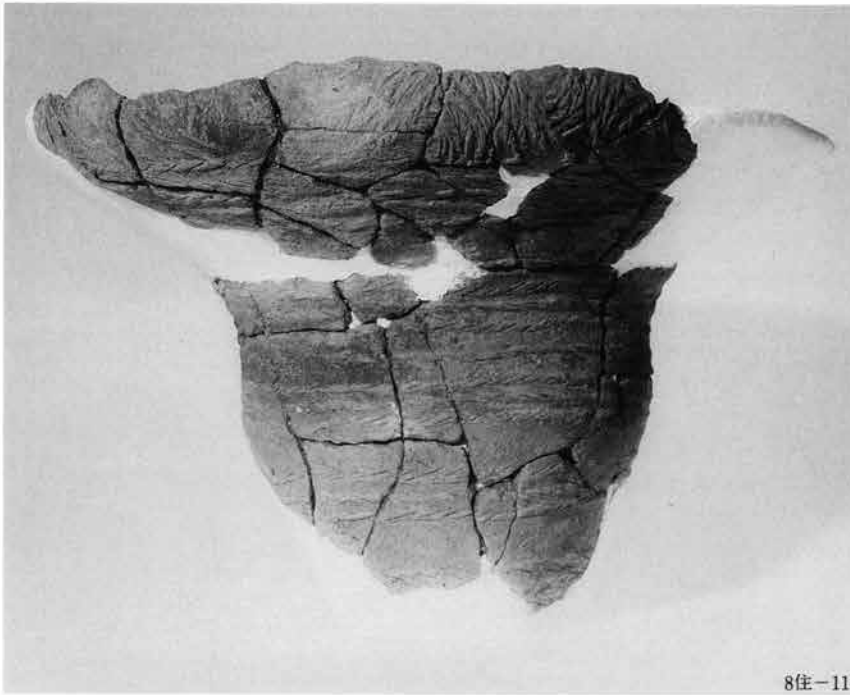
8住-10



8住-15



8住-18



8住-11



8住-19



8住-20



8住-22



8住-16



8住-21



8住-23



8住-25



8住-24



8住-26



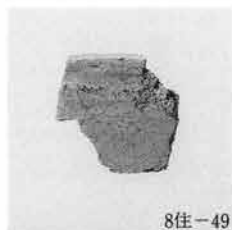
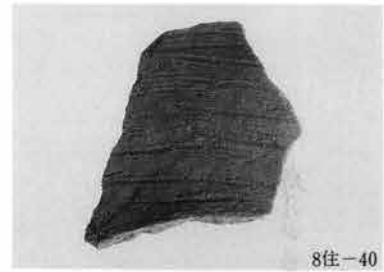
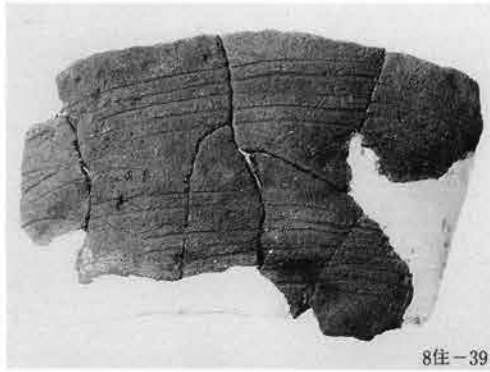
8住-28

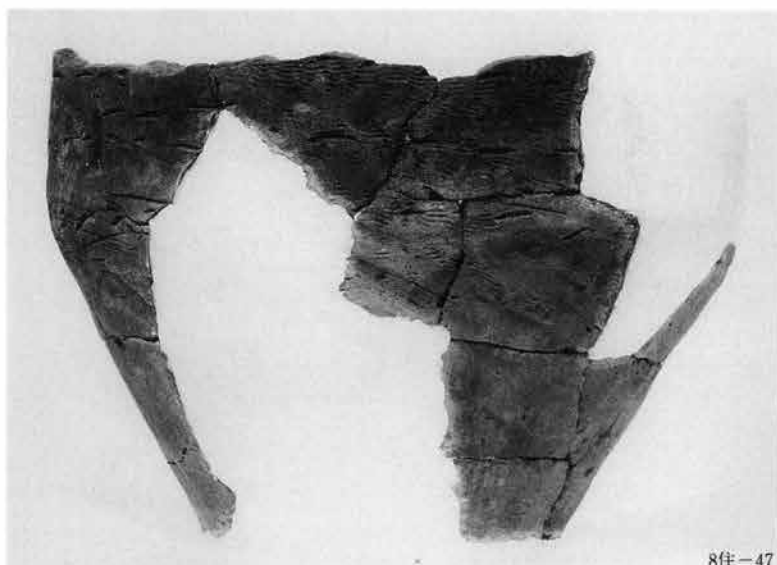


8住-30



8住-31





8住-47



8住-60



8住-62



8住-48



8住-55



8住-75



8住-76



8住-54



8住-61



8住-63



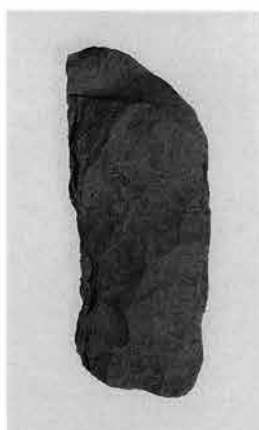
8住-57



8住-65



8住-58



8住-59



8住-67



8住-66



8住-64



8住-68



8住-72



8住-71



8住-69



8住-74



8住-70



8住-82



9住-1



9住-4



8住-73



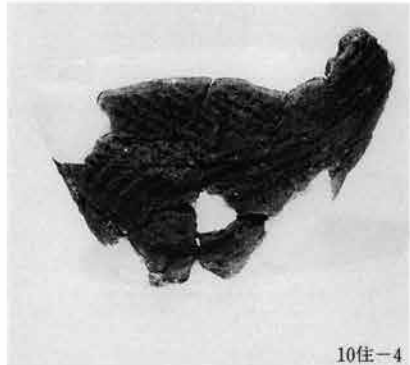
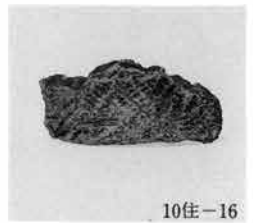
9住-5

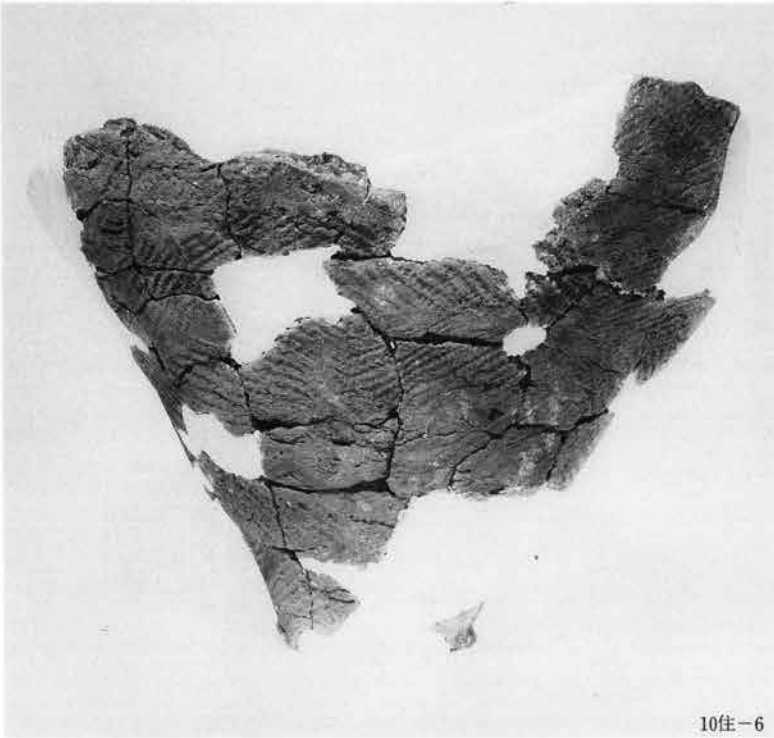


9住-6



9住-7





10住-6



10住-7



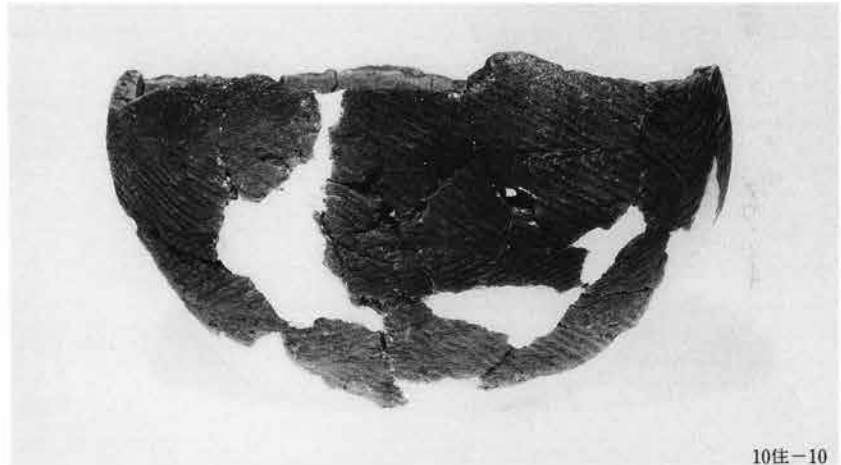
10住-20



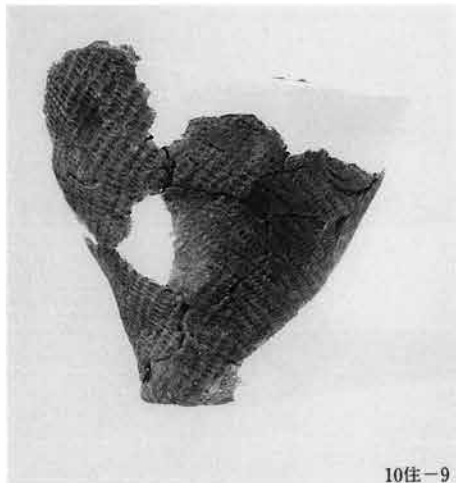
10住-21



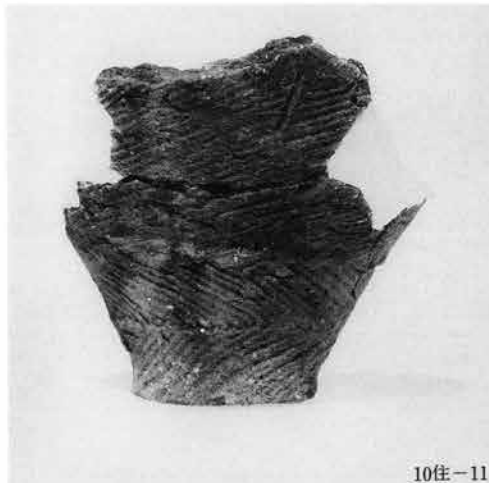
10住-8



10住-10



10住-9



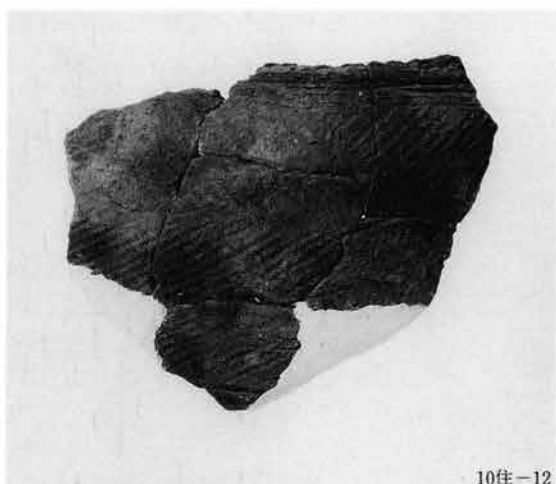
10住-11



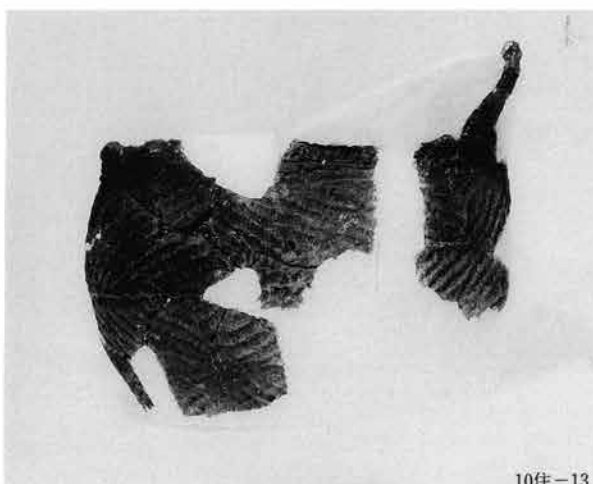
10住-22



10住-25



10住-12



10住-13



10住-14



10住-23



10住-24



10住-27



10住-30



10住-32



10住-26



10住-28



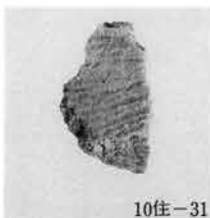
10住-29



10住-33



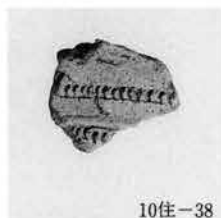
10住-35



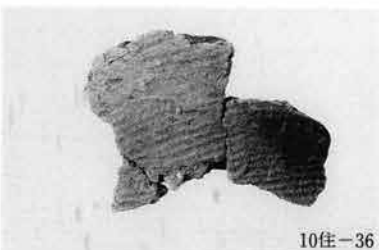
10住-31



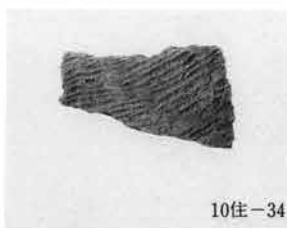
10住-37



10住-38



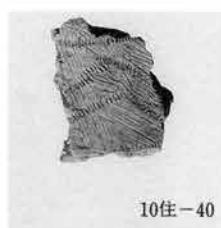
10住-36



10住-34



10住-39



10住-40



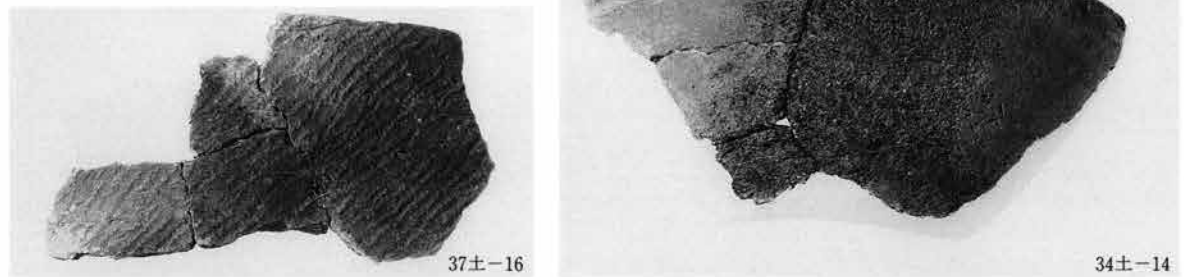
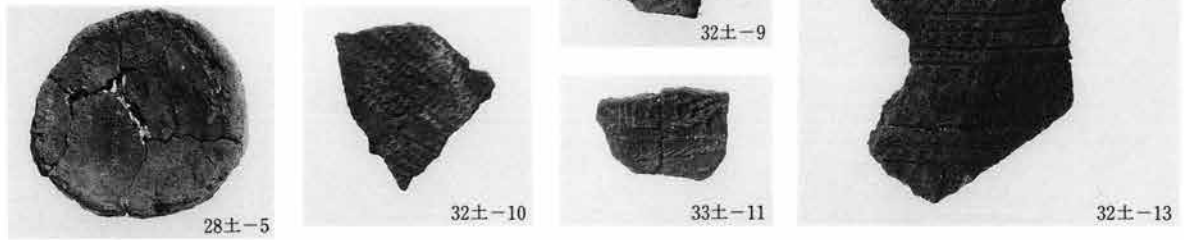
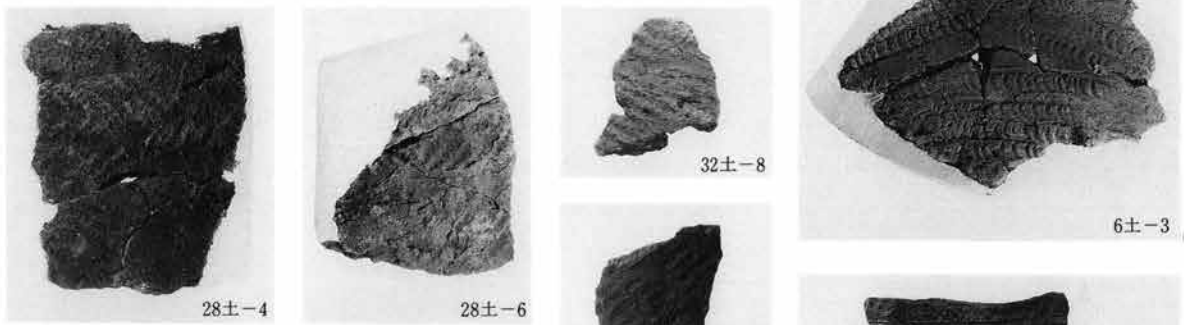
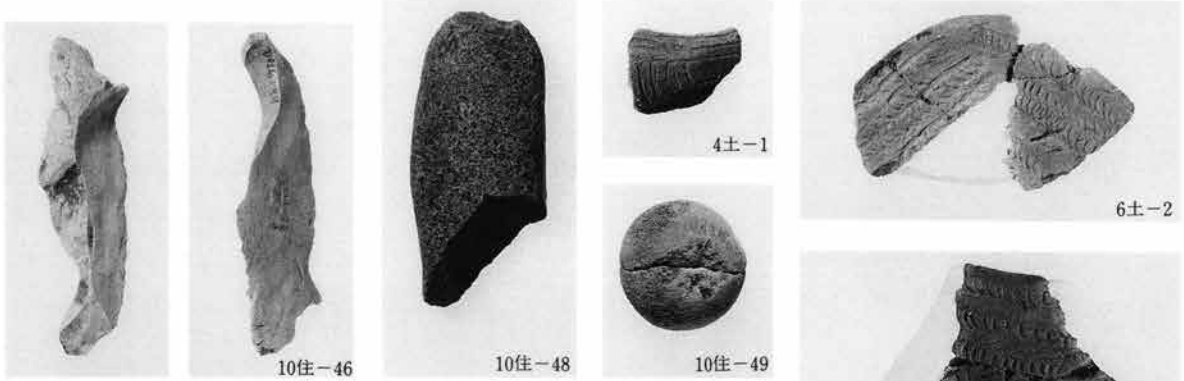
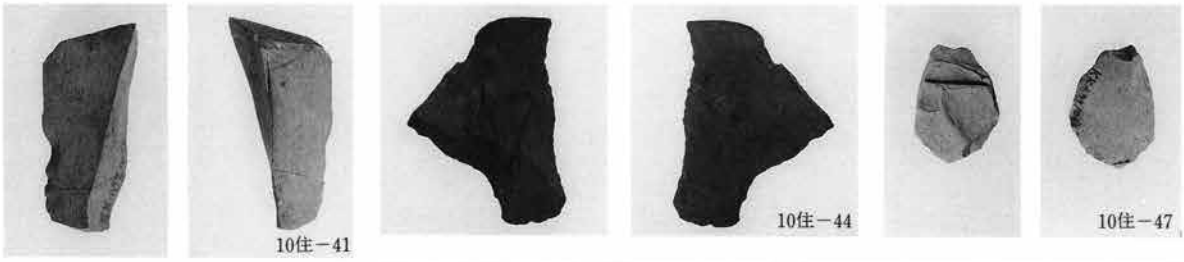
10住-42



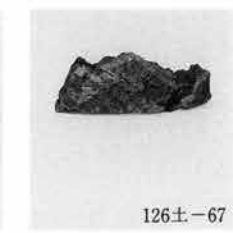
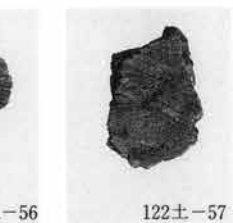
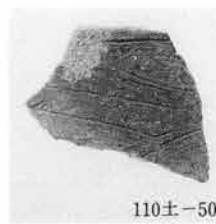
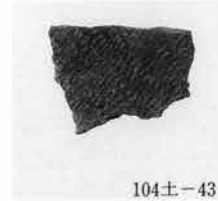
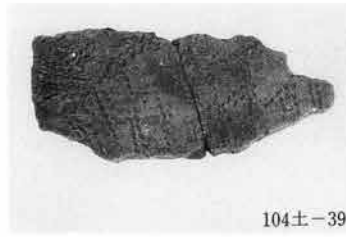
10住-45

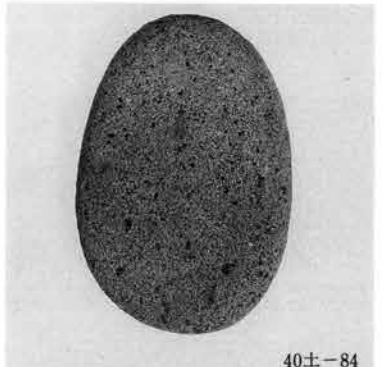
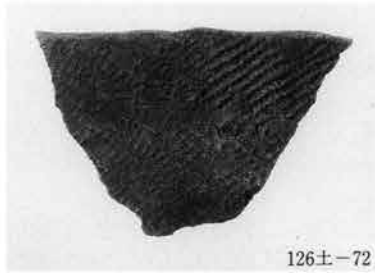


10住-43











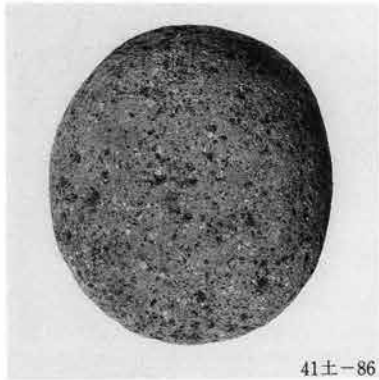
40±-82



41±-85



44±-88



41±-86



42±-87



46±-90



103±-93



77±-91



44±-89



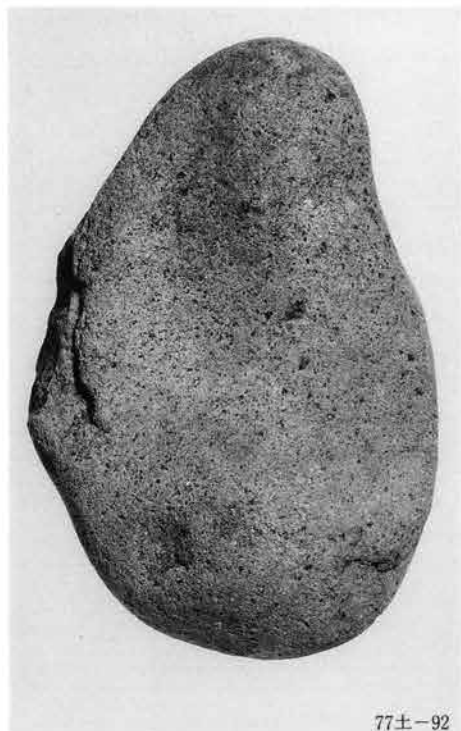
104±-94



115±-95



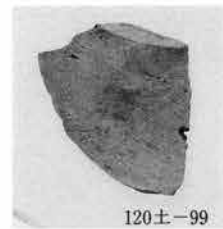
115±-96



77±-92



115±-97



120±-99



122±-100



119±-98



包含層-101



表採-107



包含層-103



包含層-104



包含層-102



表採-105



表採-106



表採-112



表採-109



表採-110



表採-108



表採-111



表採-113



表採-114

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第133集

下牧小竹遺跡

関越自動車道下牧パーキングエリア
拡張地域に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成4年3月19日 印刷

平成4年3月27日 発行

編集／群馬県教育委員会

〒371 前橋市大手町1丁目1番地1号

電話 (0272)23-1111(代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社

下牧小竹遺跡全体図

